

植物
(維管束植物及び蘚苔類)

植物（維管束植物及び蘚苔類）の概要

植物・植物群落専門部会

紀伊半島西部に位置する和歌山県は、植物の生育に適した気候に恵まれ、紀北地域の沿岸域は瀬戸内気候区に、紀南地域は南海気候区に属する。黒潮の影響を直接受ける沿岸域では、亜熱帯性の植物も生育している。一方、標高 1,000 m 前後の山々が連なる紀伊山地では、冷温帯性の植物がみられ、場所によっては日本海要素の植物もみられる。これら分布域の異なる植物の分布限界が重なるとともに、遺存的な固有種が残された結果、複雑で多様な植物相が成立している。この概要では、主に植物の生育環境に注目してその特徴と現状について解説する。

(1) 森林

和歌山県の森林は古くから人の利用に供されてきたことから、森林の多くが自然植生から代償植生や人工林に置き換わっている。自然植生は、島嶼や社寺林、植林不適地等、限られた場所にわずかに残されるばかりで、これらの貴重な森林は自然公園等の制度により保護下にあるものが多い。

自然植生のうち、海岸林や沿岸域の林内には亜熱帯に分布する植物もみられる。特筆すべきものとして、シダ植物にはオオタニワタリ、クサマルハチがある。木本植物では、ヒロハコンロンカ、ハマセンダン等があり、林縁部にはハカマカズラ等のつる植物が生育する。これらの植物は分布の限界にあたることから自生地が天然記念物指定を受けている場所もある。高標高域に成立するブナ林は本州南限域に位置することからアサノハカエデなど本州南限となる植物も生育する。極相に達した森林においては、樹幹がキクシノブやヤシャビシヤクといった着生植物の生育場所となっているが、それらの多くが園芸目的の採取等の影響で絶滅の危機に瀕している。蘚類では、高標高域や稜線沿いのブナ等の樹幹にオオミツヤゴケが着生し、地上にはウチワチョウジゴケ（キセルゴケ）等の希少種が生育している。

代償植生にはコナラ、アカマツ等の二次林や人の手によって維持されてきた草地等がある。これらはヒメノボタン等草原性植物の貴重な生育地であるが、管理放棄や盗掘等により絶滅寸前のものである。スギの人工林であっても適切に管理された林分では野生植物の生育に適した環境が保たれており、特に高野山周辺ではオチフジやサクラソウといった植物が既に絶滅とされる一方、コウヤハンショウヅルやコウヤハリスゲなど林内に残存する植物が数多く存在する。全国的には希少とされている蘚類のコモチイチゴケは、スギ植林内の倒木や切り株以外では生育がみられないが、紀南では比較的普通に分布している。海岸近くの人工林においてはリュウビンタイやヘゴ等といった大形のシダ植物の生育も報告されている。

(2) 岩角地・特殊岩石地

隆起と浸食を続ける紀伊山地においては、峡谷や溪谷に面した岩崖、巨岩が露出した岩角地といった独特な地形がみられる。これらの岩上・岩隙のうち、水分条件に恵まれた湿崖や凹地にはソハヤキミズ、キイトラッキョウ、ウナズキギボウシ、シチョウゲ等の植物が生育し、岩棚等には蘚類のコバノホソベリミズゴケが群落をつくり、キイジョウロウホトトギスやクルマギクなど下垂した茎葉をもつ植物がみられる。特に、紀南地域では、高湿度の溪流沿いの樹枝や灌木からは、下垂性のキヨスミイトゴケ、トサノタスキゴケやヒロハシノブイトゴケなどを含むハイヒモゴケ科の蘚類が独特の景観をつくり、生葉上にはカビゴケを始めとするヨウジョウゴケ、希少なナガバムシトリゴケなど微小なクサリゴケ科の苔類が多く着生している。さらに樹幹や灌木にも希少種である蘚類のキジノオゴケやハシボソゴケに加えて、ツノゴケ類

のキノボリツノゴケなどが生育している。増水時に冠水するような溪流沿いには、ホソバナノギク、ドロノシモツケ等、水流に対する適応として葉が狭葉化した特殊な生育型を持つものも現れる。このような場所には、蘚類のカワブチゴケがサツキ等の枝等に強く着生している。

県内には蛇紋岩や石灰岩といった特殊岩石地も点在している。これらの地域では植物の生育基盤となる土壌が乏しく森林が発達しないことから草地や疎林が保たれ、ツゲやイワシモツケ（キイシモツケ）といった低木とともに多様な草本植物が生育している。

なお、*Spiraea nipponica* Maxim.（イワシモツケ）は、従来3変種からなる種と考えられてきた。しかし、最近のDNAを用いた系統解析から、変種イワシモツケと変種キイシモツケは、識別できないことが明らかになり、キイシモツケの和名は母変種（基準変種）であるイワシモツケになった。

(3) 湿地

平野部の少ない和歌山県においては古くから谷間や斜面を利用した水田で稲作が行われ、灌漑用のため池や水路が数多く残っている。草地や水辺環境が良好な状態で保たれた場所では、シマヒメタデ、ヒメシロアサザ等の多様な生育型をもった水草や草本植物が生育しているが、近年は管理放棄による環境の変化が著しい。放棄された水田でも、水の供給や日当たりが十分な場所では希少種のヤリノホゴケやササオカゴケ（アオモリカギハイゴケ）等の蘚類が生育するところもみられる。

沿岸域には海跡湖、潟湖由来の池沼があり、友ヶ島の深蛇池（和歌山市）にはオオクグ、テツホシダ、サンショウモといった希少種がみられることから県の天然記念物指定を受けているが、近年は生育が確認されていないものもある。

(4) 海岸

河口部の塩性湿地では、ヨシ群落とともにウラギク、フクド、ハマサジ、ハマツナ、シバナといった塩分耐性をもった草本植物がみられる。陸域との間にはハマボウやハマナツメ等の木本植物が生育するほか、湾奥の干潟にはコアマモが生育する。これらの塩性湿地は住環境に隣接することから地域住民等に認識されないまま開発によって絶滅の危機にさらされる懸念がある。

本事業においては、和歌山県内に自生する植物（維管束植物、蘚苔類）を対象に標本及び文献調査を実施し、一覧を掲載した。分類群毎の内訳としては、蘚類が77種、苔類が74種、ツノゴケ類が1種、維管束植物が595種である。蘚苔類の内訳としては、絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）39種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）37種、準絶滅危惧（NT）50種、情報不足（DD）26種である。維管束植物の内訳としては、絶滅（EX）22種、絶滅危惧ⅠA類（CR）151種、絶滅危惧ⅠB類（EN）207種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）116種、準絶滅危惧（NT）85種、情報不足（DD）14種である。

植物相の全体像を一元的にまとめた文献は未刊であるものの、蘚苔類においては、まとまった資料として、蘚類では太田耕二郎が本県を中心に採集した標本から発表された報文（1970～1980年代）がいくつかあり、苔類では児玉努が近畿地方の苔類を中心として精力的に活動され、本県も訪れて、大阪市立自然史博物館の収蔵目録として発表されたものなど（1960～1970年代）がある。近年では、土永浩史によって、継続的に調査と記録が行われてきた。維管束植物では、和歌山県立自然博物館を中心に継続的な調査が行われており、証拠標本の確認が終了したものから報文がまとめられている（2019～2021年）。これらのうち、特に本県の植物相を特徴づける種について解説を加えた。

●絶滅 (EX)

ヒモヅル※

ヤマソテツ

エビガラシダ

ミヤマワラビ

ミヤマメシダ

シラネワラビ

ギボウシラン

ミズアオイ

ムギガラガヤツリ

ヒキノカサ

ヒメノハギ

ヒナノカンザシ

ナガバイラクサ

サクラソウ※

スナビキソウ

ムラサキ

オオアブノメ

ウンラン

ナンゴククガイソウ

オチフジ※

フサタヌキモ

オナモミ

●絶滅危惧 I A 類 (CR)

ヒモラン

ナガホノナツノハナワラビ

トネハナヤスリ

チャボハナヤスリ

リュウキュウコケシノブ

デンジソウ

ヘゴ※

サイゴクホングウシダ

セイタカイワヒメワラビ

タキミシダ

ヒメウラジロ

オオタニワタリ

カミガモシダ

オクタマシダ

ホソバショリマ

オオカグマ

ヒメホウビシダ

シマイヌワラビ

ウスゲミヤマシケシダ

ミドリワラビ

ヒロハノコギリシダ

ニセヒロハノコギリシダ

シマシロヤマシダ

シノブカグマ

オシダ

マルバヌカイタチシダモドキ

クラガリシダ

ヒロハヒメウラボシ

ヤクシマウラボシ

オニバス※

オグラコウホネ

キビヒトリシズカ

ヒロテンナンショウ

ユキモチソウ

コバノヒルムシロ

カワツルモ

シロシャクジョウ

エンレイソウ

キバナノアマナ

ヒメユリ

タキユリ※

キリシマエビネ

キエビネ

サルメンエビネ
アキザキナギラン
カンラン
マヤラン
ナギラン
イチヨウラン
ユウコクラン
カシノキラン
マツラン
モミラン
クロヤツシロラン
サギソウ
ヒナチドリ
ムカゴソウ
キイムヨウラン
ウスギムヨウラン
クロムヨウラン
アワムヨウラン
エンシュウムヨウラン
ボウラン
ニラバラ
ムカゴサイシン
ガンゼキラン
ムカデラン
ムカゴトンボ
イイヌマムカゴ
ツレサギソウ
ナガバノキソチドリ
トキソウ
ヤクシマアカシュスラン※
ナゴラン
コオロギラン
キバナノショウキラン
カゲロウラン
ヒメニラ
タマムラサキ

オヒガンギボウシ
マイヅルソウ
イセウキヤガラ
ベンケイヤワラスゲ
アワボスゲ
コハリスゲ
コウヤハリスゲ※
センダイスゲ
ヤガミスゲ
カタスゲ
ミコシガヤ
ヒメスゲ
オオクグ
カガシラ
ミスミイ
ミクリガヤ
ツクシカンガレイ
ミチシバ
ハイキビ※
ヤチマタイカリソウ
コウライブシ
エンコウソウ
カザグルマ
オキナグサ
センダイソウ
アオベンケイ
ミズキカシグサ
ヒメビシ
ヒメノボタン※
ハマビシ
フジキ
レンリソウ
ズミ
ヨコグラノキ
ハマナツメ
ソハヤキミズ※

ツルマオ
 ヒトツバハギ
 ナガバノスミレサイシン
 アサノハカエデ※
 カジカエデ
 メグスリノキ
 タチバナ※
 シナノキ
 ヤナギヌカボ
 サデクサ
 マダイオウ
 ヒメハマナデシコ
 イソフサギ※
 シマユキカズラ※
 ヒコサンヒメシャラ
 ヒメナエ
 サワリソウ
 マルバハダカホオズキ
 シシンラン
 イワギリソウ
 ホソバヒメトラノオ※
 ゴマノハグサ
 ヒメハッカ
 コナミキ
 オオママコナ
 アサザ
 フクド
 ホソバニガナ
 マルバダケブキ
 ヒメコウモリソウ
 アキノハハコグサ
 イワツクバネウツギ
 ミシマサイコ
 ボタンボウフウ
 キイウマノミツバ※
 カノツメソウ

●絶滅危惧 I B 類 (EN)

スギラン
 ナンカクラン
 アカハナワラビ (ウスイハナワラビ)
 リュウビンタイ※
 シロヤマゼンマイ
 ヤマドリゼンマイ
 ツルホラゴケ
 オオハイホラゴケ
 オオアカウキクサ
 アカウキクサ
 サンショウモ
 クサマルハチ
 シンエダウチホングウシダ
 ユノミネシダ※
 ナカミシシラン
 ハチジョウシダ
 クモノスシダ
 コタニワタリ
 トキワシダ
 ヤクシマホウビシダ
 イワヤシダ
 オオハシゴシダ
 アミシダ
 テツホシダ※
 ミゾシダモドキ
 オキナワコクモウクジャク
 ヒュウガシダ
 オトコシダ
 イズヤブソテツ
 メヤブソテツ
 ヒメオニヤブソテツ
 ツクシヤブソテツ
 ムラサキベニシダ
 アツギノヌカイトチシダマガイ
 ヒロハアツイタ

アツイタ
オリヅルシダ
キクシノブ※
オオクボシダ
カラクサシダ
オシャグジデンド
イワオモダカ
スエヒロアオイ
コウヤカンアオイ※
ハナゼキシヨウ
アギナシ
マルミスブタ
オオウミヒルモ
ヤマトウミヒルモ
トチカガミ
イトトリゲモ
コアマモ
リュウノヒゲモ※
ホンゴウソウ
ウエマツソウ
チャボシライトソウ
ミヤマエンレイソウ
バイケイソウ
キバナチゴユリ※
サルマメ
エビネ
ギンラン
クマガイソウ
セッコク
タシロラン
オサラン
ハルザキヤツシロラン※
ベニシュスラン
アケボノシュスラン
ツリシュスラン
ダイサギソウ

ヒナラン
ウチョウラン
イワチドリ
ムヨウラン
コフタバラン
ヒメフタバラン
アオフタバラン
ヨウラクラン
コケイラン
ヤマサギソウ
オオヤマサギソウ
ヤマトキソウ
ヒトツボクロ
キンバイザサ
コキンバイザサ
ヒメシャガ
ユウスゲ
キイトラッキョウ※
ハマオモト
オオミクリ
ヤマトミクリ※
ヒメミクリ
ツクシクロイヌノヒゲ
ミヤマジュズスゲ
ゲンカイモエギスゲ
サツマスゲ
ジングウスゲ
ツクシナルコ
オオシロガヤツリ
セイタカハリイ
オオヌマハリイ
タイワンヒデリコ
ナガボテンツキ
ヤリテンツキ
ヒメカンガレイ
シズイ

コマツカサススキ	カワチスズシロソウ
マツカサススキ	ミツバコンロンソウ
コウボウ	ユリワサビ
コゴメカゼクサ	キガンピ
タイワンカモノハシ	ツチトリモチ
ヒロハノハネガヤ	ミヤマツチトリモチ
ムカゴツヅリ	ヌカボタデ
オニシバ	シマヒメタデ※
ルイヨウボタン	イシモチソウ
シコクフクジュソウ	モウセンゴケ
ニリンソウ	ワチガイソウ
コウヤハンショウヅル※	ウシオツメクサ
コウヤシロカネソウ※	ハママツナ
ツルシロカネソウ	クリンソウ
ミスミソウ	イワナシ
ヤマシャクヤク	シャクジョウソウ
ヤシャビシャク	レンゲツツジ
ヤブサンザシ	ヤマトグサ
ミツバベンケイソウ	チョウジソウ
オグラノフサモ	チョウジカズラ
サイカチ	クサナギオゴケ
シマエンジュ	ノアサガオ※
ハカマカズラ※	アオホオズキ
ハスノハイチゴ	マルバノサワトウガラシ
イブキシモツケ	ハマクワガタ
アリマグミ	キノクニスズカケ※
カツラギグミ	ジュウニヒトエ
クロカンバ	ツルカコソウ (ケブカツルカコソウ)
ハルニレ	ニシキゴロモ
コバノチョウセンエノキ	トサムラサキ
ハドノキ※	シモバシラ
オオカラスウリ	ヒメシロネ
マツバニンジン	ヤマジソ
アゼオトギリ	トラノオジソ
ホソバシロスミレ※	ヒメナミキ
シコクスミレ	ヤマタツナミソウ

スズメノハコベ
ゴマクサ
ハマウツボ
キヨスミウツボ
ヒキヨモギ
ノタヌキモ
ホザキノミミカキグサ
ミカワタヌキモ (イトタヌキモ)
イワダレソウ
ツルギキョウ
ヒメシロアサザ※
ヒロハテイショウソウ
ホソバノギク※
クルマギク※
オケラ
モリアザミ
ヨツバヒヨドリ
オグルマ
ノニガナ
ハマニガナ
ミヤコアザミ
ヒメヒゴタイ
キクアザミ
ハバヤマボクチ
オオハマグルマ※
キンレイカ
マツムシソウ
ミヤマウコギ

● 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

マツバラシ
スジヒトツバ
ホングウシダ
ヒメミズワラビ
アイコハチジョウシダ
ヤワラハチジョウシダ

コウヤワラビ
オオバミヤマノコギリシダ
ミドリカナワラビ
ナガサキシダ
ヌカボシクリハラン
トガサワラ※
ナンゴクウラシマソウ※
スブタ
シバナ
ヒナノシャクジョウ
マルバサンキライ
キイジョウロウホトトギス※
シラン
マメヅタラン
ムギラン
ミヤマムギラン
ナツエビネ
キンラン
アキザキヤツシロラン
オニノヤガラ
ミズトンボ
フウラン
カヤラン
キツネノカミソリ
スダレギボウシ
アオノクマタケラン※
クロホシクサ
イヌクログワイ (シログワイ)
トラノハナヒゲ
シンジュガヤ
カリマタガヤ
イトスズメガヤ
タキキビ
モロコシガヤ
カワチブシ
ルイヨウショウマ

ユキワリイチゲ
ヤマオダマキ
ツゲ※
コウヤミズキ
マンサク
キイハナネコノメ
キシウネコノメ
コガネネコノメソウ
ツメレンゲ
タコノアシ
オニビシ
ミヤマトベラ
イヌハギ
カワラサイコ
テリハキンバイ
コウヤグミ
クロウメモドキ
ケグワ
ミヤコミズ
ウメバチソウ
ミズタガラシ
オオバヤドリギ
ハマサジ
ナンバンハコベ
ミヤマハコベ
ギンバイソウ
カラタチバナ
ルリハコベ
モロコシソウ
ナツツバキ
ハイノキ
ヒメイワカガミ
ハクウンボク
シマサルナシ※
ホツツジ
キヌタソウ

アイナエ
ヒロハコンロンカ
サツマイナモリ
シラタマカズラ※
オオキヌタソウ
ムラサキセンブリ
イヌセンブリ
フナバラソウ
ヤマホオズキ
メジロホオズキ
シオジ
シソクサ
クワガタソウ (コクワガタ)
オオヒナノウスツボ
カワミドリ
タニジャコウソウ
ジャコウソウ
マネキグサ
ラショウモンカズラ
スズコウジュ
ミゾコウジュ
ミヤマナミキ
オオナンバンギセル
シオガマギク
ミミカキグサ
キキョウ
ガガブタ
ミヤマヨメナ
カセンソウ
タカサゴソウ
タムラソウ
クマノギク※
サワオグルマ
ウラギク
ナベナ
カワゼンゴ※

カワラボウフウ
ムカゴニンジン

● 準絶滅危惧 (NT)

ミズニラ
オワセベニシダ
ホオノカワシダ
アオネカズラ
イブキ
コウホネ
サイコクヒメコウホネ
ヒツジグサ
ヒトリシズカ
ヤナギスブタ
トリゲモ
ミズオオバコ
セキシウモ
イトモ
ササバモ
ヤマカシュウ
チャボホトトギス
カキラン
ヤクシマヒメアリドオシラン
キキョウラン ※
ハマカンゾウ
ウナズキギボウシ ※
ノシラン
オオバジャノヒゲ
ナガエミクリ
キノクニスゲ (キシウスゲ) ※
キシウナキリスゲ ※
ヒメコヌカグサ
ミギワトダシバ
ウンヌケモドキ
トウササクサ
ウキシバ

ビロードキビ
タカネハンショウヅル
キイセンニンソウ
シロバナハンショウヅル
トウゴクサバノオ
カツラ
タチモ
フサモ
ウドカズラ
ミズマツバ
ユクノキ
タヌキマメ
マキエハギ
ハチジョウイチゴ
コバナノワレモコウ
ドロノシモツケ ※
イワシモツケ (キイシモツケ)
アコウ ※
ハマセンダン
ハマボウ ※
コショウノキ
サイコクヌカボ
コモウセンゴケ
ハガクレツリフネ
ミヤマコナスビ
アケボノツツジ
シチョウゲ ※
クルマバアカネ
イケマ
キジョラン
タチカモメヅル
スズサイコ
マルバチシャノキ
ハシリドコロ
カワヂシャ
シソバウリクサ

オウギカズラ
ミズネコノオ
シソバタツナミ (ホナガタツナミソウ、イ
ガタツナミ)
オオヒキヨモギ
クマツヅラ
ツゲモチ※
ホソバノヤマハハコ
キノクニシオギク (キイシオギク) ※
イズハハコ
スイラン
ドロニガナ※
テバコモミジガサ
カシワバハグマ
タイキンギク
ウスバヒョウタンボク
オミナエシ
ノダケ

●情報不足 (DD)

サンカクホングウシダ
ケホシダ
トゲカラクサイヌワラビ
ヌカイタチシダマガイ
キナンカンアオイ
サガミトリゲモ (ヒロハトリゲモ)
イセアオスゲ
ヨコグラブドウ
ヤマナシ
ミヤコオトギリ
ヤマヒヨドリバナ
イヌノフグリ
タニウツギ
アシタバ

1. 学名については、主に以下のデータベースを参照した。

米倉浩司・梶田忠（2003-）「BG Plants 和名－学名インデックス」（YList）
<http://ylist.info>（2021年12月16日参照）

2. 和名の後に※印を示した種については「主な植物の解説」に詳細を掲載した。

3. カテゴリー（評価区分）については以下の通りである。

和歌山県（2022）：和歌山県レッドデータブック 2022年改訂版のカテゴリー

和歌山県（2012）：和歌山県レッドデータブック 2012年改訂版のカテゴリー

国（2020）：環境省レッドリスト 2020のカテゴリー

EX：絶滅または野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類

EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類

NT：準絶滅危惧 DD：情報不足

4. 選定理由については以下の通りである。

環境悪化：人為による直接的な環境破壊（森林伐採、開発工事、水質汚濁等）により生育環境が著しく悪化しているもの。

採取伐採：人為による選択的な採取・伐採（園芸、薬用等）により個体数の減少が著しいもの。

特殊環境：草地、湿地、塩性湿地、海崖、海浜、岩上・岩隙地（特殊岩石地、湿崖）等の特殊な生育環境で、環境変化の影響を受けやすいもの。

特殊生態：菌従属栄養植物、寄生植物等、周囲の自然環境に依存性の高い生活史を持つ生態のため、環境変化の影響を受けやすいもの。

特殊分布：和歌山県内の自生地が隔離分布（個体の移動や遺伝子の交流が不可能なほど複数の地域に分かれた不連続的な分布域をいう）や、分布の限界（東限、南限、北限等）になっているもの。

●：隔離分布 ○：分布の限界

固有性：和歌山県、紀伊半島に限定的に分布するもの。

●：和歌山県固有 ○：紀伊半島固有

希少性：自生地における個体数が極めて少ないもの。

5. 生育環境、国内分布、県内分布について示した。なお、紀北地域と紀南地域の地理的区分は白馬山脈を境界とした。

紀北：和歌山市、海南市、橋本市、有田市、紀の川市、岩出市、海草郡、伊都郡、有田郡

紀南：御坊市、田辺市、新宮市、日高郡、西牟婁郡、東牟婁郡

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布	
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採集	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	生育環境	国内分布
ヒカゲノカズラ	ナンカクラン	<i>Huperzia fordii</i> (Baker) Dixit	EN	EN		○	○						本州・伊豆諸島・小笠原・四国・九州・琉球		○
ヒカゲノカズラ	ヒモツル※	<i>Lycopodium casuarinoides</i> Spring	EX	EX	VU	○	○		○				本州 (近畿地方以西)・九州・屋久島		○
ヒカゲノカズラ	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerina</i> (Maxim.) Dixit	EN	EN	VU	○	○						北海道・本州・四国・九州		○
ヒカゲノカズラ	ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> (Miq.) Holub var. <i>sieboldii</i>	CR	CR	EN	○	○						本州・四国・九州・琉球		○
ミズニラ	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i> A. Braun	NT	NT	NT	○	○		○				本州・四国		○
ハナヤスリ	アカハナワラビ (ウスハイハナワラビ)	<i>Botrychium nipponicum</i> Makino	EN	EN	EN	○	○						北海道・本州・四国・九州		○
ハナヤスリ	ナガホノナツノハナワラビ	<i>Botrychium strictum</i> Underw.	CR	CR	CR	○	○						北海道・本州・四国・九州		○
ハナヤスリ	トネハナヤスリ	<i>Ophioglossum namegatae</i> M. Nishida & Kurita	CR	CR	VU	○	○						本州		○
ハナヤスリ	チャボハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvum</i> M. Nishida & Kurita	CR	DD	VU	○	○						本州・九州		○
マツバラ	マツバラ	<i>Psilotum nudum</i> (L.) P. Beauv.	VU	VU	NT	○	○						本州・四国・九州・小笠原・琉球		○
リュウビンタイ	リュウビンタイ※	<i>Angiopteris lygodifolia</i> Rosenst.	EN	EN	EN	○	○						本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
ゼンマイ	シロヤマゼンマイ	<i>Osmunda banksifolia</i> (C. Presl) Kuhn	EN	EN	EN	○	○						本州・四国・九州・小笠原・琉球		○
ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	<i>Osmundastrum cinnamomeum</i> (L.) C. Presl var. <i>fokiense</i> (Copel.) Tagawa	EN	EN	EN	○	○						北海道・本州・四国・九州・屋久島		○
コケシノブ	リュウキウコケシノブ	<i>Hymenophyllum riukuense</i> H. Christ	CR	CR	CR	○	○						本州 (紀伊半島)・四国・九州・琉球		○
コケシノブ	ツルホラゴケ	<i>Vandemboschia auriculata</i> (Blume) Copel.	EN	EN	EN	○	○						本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
コケシノブ	オオハイホラゴケ	<i>Vandeboschia striata</i> (D. Don) Ebihara	EN	EN								岩上・樹上着生	本州・四国・九州・琉球	○	○
ヤブレガサウラボシ	スジヒトツバ	<i>Cheiropleuria integrifolia</i> (D. C. Eaton ex Hook.) M. Kato, Y. Yatabe, Sahashi & N. Murak.	VU	VU		○						岩上着生	本州・四国・九州・琉球	○	
デンジンウ	デンジンウ	<i>Marsilea quadrifolia</i> L.	CR	CR	VU	○	○					湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
サンショウモ	アカウキクサ	<i>Azolla imbricata</i> R. Br. ssp. <i>asiatica</i> R. M. K. Saunders & K. Fowler	EN	EN	EN	○	○					湿地・池沼	本州・四国・九州・琉球	○	○
サンショウモ	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i> (Franch. & Sav.) Franch. & Sav. ex Nakai	EN	EN	EN	○	○					湿地・池沼	本州・四国・九州	○	○
サンショウモ	サンショウモ	<i>Salvinia natans</i> (L.) All.	EN	EN	VU	○	○					湿地・池沼	本州・四国・九州	○	○
キジノオシダ	ヤマンテツ	<i>Plagiogyria matsumureana</i> Makino	EX	EX		○						林内	北海道・本州・四国・屋久島	○	○
ヘゴ	クサマルハチ	<i>Cyathea hancockii</i> Copel.	EN	EN		○	○					林内	本州(紀伊半島)・四国・九州・琉球	○	○
ヘゴ	ヘゴ*	<i>Cyathea spinulosa</i> Wall. ex Hook.	CR	CR		○	○					林内	本州・伊豆諸島・小笠原・四国・九州・琉球	○	○
ホングウシダ	サンカクホングウシダ	<i>Lindsaea javanensis</i> Blume	DD	EX		○	○					林内	本州(和歌山県)・九州・琉球	○	○
ホングウシダ	シンエダウチホングウシダ	<i>Lindsaea orbiculata</i> (Lam.) Mett. ex Kuhn var. <i>commixta</i> (Tagawa) K. U. Kramer	EN	CR		○	○					林内	本州(和歌山県)・伊豆諸島・四国・九州・琉球	○	○
ホングウシダ	サイゴクホングウシダ	<i>Osmolindsaea japonica</i> (Baker) Lehtonen & Christenh.	CR	CR		○	○					林内・岩上着生	本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球	○	○
ホングウシダ	ホングウシダ	<i>Osmolindsaea odorata</i> (Roxb.) Lehtonen & Christenh.	VU	VU		○	○					林内・岩上着生	本州・伊豆諸島・四国・九州	○	○
コバノイシカグマ	ユノミネシダ*	<i>Histiopteris incisa</i> (Thunb.) J. Sm.	EN	EN		○	○					林内	本州(和歌山県)・伊豆諸島・九州・琉球	○	○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布		
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採伐	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	国内分布	紀北	紀南
コバノイシガブマ	セイケイワヒメワラビ	<i>Hypolepis alpina</i> (Blume) Hook.	CR	CR	CR								林内	本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
イノモトソウ	タキミシダ	<i>Antrophyum obovatum</i> Baker	CR	CR	EN	○	○						岩上・樹上着生	本州・四国・九州・屋久島		○
イノモトソウ	ヒメミズワラビ	<i>Ceratopteris gaudichaudii</i> Brongn. var. <i>vulgaris</i> Masuyama & Watano	VU	VU	VU	○	○	○					湿地・池沼	本州・四国・九州・琉球		○
イノモトソウ	ヒメウラジロ	<i>Cheilanthes argentea</i> (S. G. Gmel.) Kunze	CR	CR	VU	○	○						岩上着生	本州・四国・九州・琉球		○
イノモトソウ	エビガラシダ	<i>Cheilanthes chusana</i> Hook.	EX	CR	VU	○	○						岩上着生	本州・四国・九州		○
イノモトソウ	ナカミシシラン	<i>Haplopteris fudzinoi</i> (Makino) E. H. Crane	EN	EN	EN	○	○						岩上・樹上着生	本州・四国・九州・屋久島		○
イノモトソウ	ハチジョウウシダ	<i>Pteris fauriei</i> Hieron.	EN	EN	EN	○	○						林内	本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
イノモトソウ	アイコハチジョウウシダ	<i>Pteris laurisilvicola</i> Sa. Kurata	VU	VU	VU	○	○						林内	本州・四国・九州・種子島・屋久島		○
イノモトソウ	ヤワラハチジョウウシダ	<i>Pteris natiensis</i> Tagawa	VU	VU	EN	○	○			○			林内	本州・四国・九州・琉球		○
チャセンシダ	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i> Makino	CR	CR	VU	○	○						岩上・樹上着生	本州 (紀伊半島)・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
チャセンシダ	カミガモシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> Baker	CR	CR	CR	○	○						岩上着生	本州・四国・九州・屋久島		○
チャセンシダ	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i> Tagawa	CR	CR	VU	○	○						岩上着生	本州・四国		○
チャセンシダ	クモノスシダ	<i>Asplenium ruprechtii</i> Sa. Kurata	EN	EN	EN	○	○						特殊岩石地	北海道・本州・四国・九州		○
チャセンシダ	コタニワタリ	<i>Asplenium scolopendrium</i> L. ssp. <i>japonicum</i> (Kom.) Rasbach, Reichst. & Viane	EN	EN	EN	○	○						林内	北海道・本州・四国・九州		○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布	県内分布		
			2022	2012		2020	環境化	採取採	特殊環境	特殊生態	固有性		希少性	紀北	紀南
チャセンシダ	トキワシダ	<i>Asplenium yoshinagae</i> Makino	EN	EN		○	○	○				○	○	○	○
チャセンシダ	ヤクシマホウビシダ	<i>Hymenasplenium obliquissimum</i> (Hayata) Sugim.	EN	EN		○	○	○				○	○	○	○
イワヤシダ	イワヤシダ	<i>Diplazopsis cavaleriana</i> (H. Christ) C. Chr.	EN	EN		○	○	○				○	○	○	○
ヒメシダ	オオハシゴシダ	<i>Thelypteris angulariloba</i> Ching	EN	EN		○	○	○		○		○	○	○	○
ヒメシダ	ホンバシヨリマ	<i>Thelypteris beddomei</i> (Baker) Ching	CR	CR								○	○	○	○
ヒメシダ	アミシダ	<i>Thelypteris griffithii</i> (Hook. f. & Thomson) C. F. Reed var. <i>wilfordii</i> (Hook.) C. M. Kuo	EN	EN		○	○	○		○		○	○	○	○
ヒメシダ	ツツホシダ※	<i>Thelypteris interrupta</i> (Willd.) K. Iwats.	EN	EN		○	○	○		○		○	○	○	○
ヒメシダ	ミゾシダモドキ	<i>Thelypteris leveillei</i> (H. Christ) C. M. Kuo	EN	EN		○	○	○				○	○	○	○
ヒメシダ	ケホシダ	<i>Thelypteris parasitica</i> (L.) Tardieu	DD	EN		○	○	○				○	○	○	○
ヒメシダ	ミヤマワラビ	<i>Thelypteris phegopteris</i> (L.) Sloss.ex Rydb.	EX	EX								○	○	○	○
コウヤワラビ	コウヤワラビ	<i>Onoclea sensibilis</i> L. var. <i>interrupta</i> Maxim.	VU	VU		○	○	○				○	○	○	○
シシガシラ	オオカグマ	<i>Woodwardia japonica</i> (L. f.) J. Sm.	CR	CR		○	○	○				○	○	○	○
メシダ	ミヤマメシダ	<i>Athyrium melanolepis</i> (Franch. & Sav.) H. Christ	EX	EX		○	○	○				○	○	○	○
メシダ	ヒメホウビシダ	<i>Athyrium nakanoi</i> Makino	CR	VU								○	○	○	○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布		
			2022	2012		2020	環境悪化	採取代替	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	国内分布	県内分布	紀北
メシダ	トゲカラクサイヌワラビ	<i>Athyrium setuligerum</i> Sa. Kurata	DD										本州・四国・九州		○	
メシダ	シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i> (Hayata) Hayata	CR	CR	CR								本州・四国・九州・屋久島		○	
メシダ	ウスガミヤマシケシダ	<i>Deparia mucilagina</i> (M. Kato) Nakaike	CR										北海道・本州		○	
メシダ	ミドリワラビ	<i>Deparia viridifrons</i> (Makino) M. Kato	CR	CR									本州・四国・九州		○	
メシダ	ヒロハノコギリシダ	<i>Diplazium dilatatum</i> Blume	CR	CR	CR						○		本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○	
メシダ	ニセヒロハノコギリシダ	<i>Diplazium dilatatum</i> Blume var. <i>heterolepis</i> Seriz.	CR										本州・九州・種子島・屋久島		○	
メシダ	シマシロヤマシダ	<i>Diplazium doederleinii</i> (Luerss.) Makino	CR	CR									本州・四国・九州・琉球		○	
メシダ	オオバミヤマノコギリシダ	<i>Diplazium hayatamae</i> N. Ohta & M. Takamiya	VU										本州・四国・九州・種子島・屋久島		○	
メシダ	ヒユウガシダ	<i>Diplazium takii</i> Sa. Kurata	EN										本州・四国・九州・屋久島		○	
メシダ	オキナフコクモウクジャク	<i>Diplazium virescens</i> var. <i>okinawaensis</i> Tagawa	EN		NT								伊豆諸島・本州・四国・九州・琉球		○	
オシダ	シノブカグマ	<i>Arachniodes mutica</i> (Franch. & Sav.) Ohwi	CR	CR		○							北海道・本州・四国・屋久島		○	
オシダ	ミドリカナフワラビ	<i>Arachniodes nipponica</i> (Rosenst.) Ohwi	VU	VU									本州・四国・九州		○	
オシダ	オトコシダ	<i>Arachniodes yoshinagae</i> (Makino) Chung	EN	EN									本州・四国・九州		○	
オシダ	イズアブソテツ	<i>Cyrtomium atropunctatum</i> Sa. Kurata	EN										本州・四国・九州		○	
オシダ	メヤブソテツ	<i>Cyrtomium caryotideum</i> (Wall. ex Hook. & Grev.) C. Presl	EN	EN									本州・四国・九州		○	

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県			国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020		環境悪化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性			希少性	紀北
オシダ	ヒメオニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i> (L. f.) C. Presl ssp. <i>littorale</i> S. Matsumoto	EN										林内	北海道・本州・四国・九州		○
オシダ	ツクシヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> (Makino) Tagawa var. <i>tukusicola</i> (Tagawa) Tagawa	EN	EN		○							林内	本州・四国・九州		○
オシダ	オシダ	<i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai	CR	CR		○							林内	北海道・本州・四国		○
オシダ	シラネワラビ	<i>Dryopteris expansa</i> (C. Presl) Fraser-Jenk. & Jermy	EX	EX		○							林内	北海道・本州・四国・九州		○
オシダ	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris labordei</i> (Christ) C. Chr. var. <i>purpurascens</i> (H. Itô) Seniz.	EN	EN	CR	○							林内	本州・四国・九州・琉球		○
オシダ	アツギノスカイタチシダマガイ	<i>Dryopteris paomowanensis</i> Ching & Z. Y. Liu	EN	EN									林内	本州・四国・九州		○
オシダ	オワセベニシダ	<i>Dryopteris ryotoana</i> Sa. Kurata	NT										林内	本州・四国・九州		○
オシダ	ホオノカワシダ	<i>Dryopteris shikokiana</i> (Makino) C. Chr.	NT										林内	本州・四国・九州・屋久島		○
オシダ	ナガサキシダ	<i>Dryopteris sieboldii</i> (Van Houtte ex Mett.) Kuntze	VU	VU		○							林内	本州・四国・九州		○
オシダ	スカイタチシダマガイ	<i>Dryopteris simasakii</i> (H. Itô) Sa. Kurata	DD										林内	本州・四国・九州		○
オシダ	マルバノスカイタチシダモドキ	<i>Dryopteris tsuguiwoi</i> Sa. Kurata	CR		CR								林内	本州・四国・九州		○
オシダ	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i> (Yatabe) Makino	EN	EN	VU	○							岩上着生	本州・伊豆諸島・四国・九州・屋久島		○
オシダ	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i> (Yatabe) Makino	EN	EN	VU	○							岩上着生	本州（紀伊半島）・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
オシダ	オリヅルシダ	<i>Polystichum leptocaulon</i> (Hook.) J. Sm.	EN	EN		○							林内	本州・四国・九州・琉球		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布		
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採集	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性	紀北
シノブ	キクシノブ※	<i>Humata repens</i> (L. f.) Kuhn	EN	EN	VU	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウラボシ	アオネカズラ	<i>Goniophlebium niponicum</i> (Mett.) Bedd.	NT	NT												
ウラボシ	クラガリシダ	<i>Lepisorus miyoshianus</i> (Makino) Fraser-Jenk. & Subh. Chandra	CR	CR	EN	○	○	○								
ウラボシ	オオクボシダ	<i>Microlepodium okuboi</i> (Yatabe) Hayata	EN	EN		○	○	○								
ウラボシ	ヌカボシクワリハラン	<i>Neoheteropteris ningpoensis</i> (Baker) Bosman	VU	VU		○	○	○								
ウラボシ	ヒロハヒメウラボシ	<i>Oreogrammitis nipponica</i> (Tagawa & K. Iwats.) B. S. Parris	CR	CR	CR	○	○	○								
ウラボシ	カラクサシダ	<i>Pleurosoropsis makinoi</i> (Maxim. ex Makino) Fomin	EN	EN	EN	○	○	○								
ウラボシ	オシヤグジデンド	<i>Polypodium fauriei</i> H. Christ	EN	EN	EN	○	○	○								
ウラボシ	イワオモダカ	<i>Pyrrosia hastata</i> (Houtt.) Ching	EN	EN	EN											
ウラボシ	ヤクシマウラボシ	<i>Selliguea yakushinensis</i> (Masam.) H. Ohashi & K. Ohashi	CR	CR	EN	○	○	○								
マツ	トガサワラ※	<i>Pseudotsuga japonica</i> (Shiras.) Beissn.	VU	VU	VU	○	○	○								
ヒノキ	イブキ	<i>Juniperus chinensis</i> L. var. <i>chinensis</i>	NT	NT												
スイレン	オニバス※	<i>Euryale ferox</i> Salisb.	CR	CR	VU	○	○	○								
スイレン	コウホネ	<i>Nuphar japonica</i> DC.	NT	NT		○	○	○								
スイレン	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraense</i> Miki	CR	CR	VU	○	○	○								

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
スイレン	サイコクヒメコウホネ	<i>Nuphar saikokuensis</i> Shiga & Kadono	NT									池沼	本州・四国・九州		○
スイレン	ヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi	NT	NT								池沼	北海道・本州・四国・九州		○
センリョウ	キビトリシズカ	<i>Chloranthus fortunei</i> (A. Gray) Solms	CR	CR	VU							林内	本州・四国・九州		○
センリョウ	ヒトリシズカ	<i>Chloranthus quadrifolius</i> (A. Gray) H. Ohba & S. Akiyama	NT	NT								林内	北海道・本州・四国・九州		○
ウマノスズクサ	スエヒロアオイ	<i>Asarum dilatatum</i> (F. Maek.) T. Sugaw.	EN	EN	CR							林内	本州		○
ウマノスズクサ	コヤカンアオイ※	<i>Asarum kooyanum</i> Makino var. <i>kooyanum</i>	EN	EN	EN							林内	本州		○
ウマノスズクサ	キナンカンアオイ	<i>Asarum fauriei</i> F. Maek. var. <i>austrukiense</i> (Kinoshita) Yonek.	DD	VU	VU							林内	本州 (紀伊半島南部)		○
サトイモ	ホロテンナンショウ	<i>Arisaema cucullatum</i> M. Hotta	CR	CR	CR							林内	本州		○
サトイモ	ユキモチソウ	<i>Arisaema sikokianum</i> Franch. & Sav.	CR	CR	VU							林内	本州・四国		○
サトイモ	ナンゴクウラシマソウ※	<i>Arisaema thunbergii</i> Blume ssp. <i>thunbergii</i>	VU	VU	VU							林内	本州・四国・九州		○
チシマゼキショウ	ハナゼキショウ	<i>Tofieldia nuda</i> Maxim. var. <i>nuda</i>	EN	EN	EN							岩上・岩隙地	本州・九州		○
オモダカ	アギナシ	<i>Sagittaria aginashi</i> Makino	EN	EN	NT							湿地・池沼	北海道・本州・四国・九州		○
トチカガミ	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i> Rich.	EN	EN	VU							湿地・池沼	本州・四国・九州・琉球		○
トチカガミ	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i> (C. B. Clarke) Hook. f.	VU	VU	VU							湿地・池沼・水田	本州・四国・九州・琉球		○
トチカガミ	ヤナギスブタ	<i>Blyxa japonica</i> (Miq.) Maxim. ex Asch. & Gürke	NT	NT	VU							湿地・池沼・水田	本州・四国・九州・琉球		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採採	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
トチカガミ	オオウミヒルモ	<i>Halophila major</i> (Zoll.) Miq.	EN	EN	EN							塩性湿地	本州・四国・九州・琉球		○
トチカガミ	ヤマトウミヒルモ	<i>Halophila nipponica</i> John Kuo	EN	EN	EN							塩性湿地	本州・四国・九州		○
トチカガミ	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer	EN	EN	NT	○						湿地・池沼	本州・四国・九州・琉球		○
トチカガミ	サガミトリゲモ (ヒロハトリゲモ)	<i>Najas chinensis</i> N. Z. Wang	DD	DD	VU	○						池沼	本州・四国・九州・琉球		○
トチカガミ	イトトリゲモ	<i>Najas gracillima</i> (A. Braun ex Engelm.) Magnus	EN	EN	NT	○						池沼	本州・四国・九州・琉球		○
トチカガミ	トリゲモ	<i>Najas minor</i> All.	NT	NT	VU	○						池沼	本州・四国・九州・琉球		○
トチカガミ	ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.	NT	NT	VU	○						湿地・池沼	北海道・本州・四国・九州・琉球		○
トチカガミ	セキショウモ	<i>Vallisneria natans</i> (Lour.) H. Hara var. <i>natans</i>	NT	NT	NT	○						池沼・河川	北海道・本州・四国・九州		○
シバナ	シバナ	<i>Triglochin maritima</i> L. ssp. <i>asiatica</i> Kitag.	VU	VU	NT	○						塩性湿地	北海道・本州・四国・九州		○
アマモ	コアマモ	<i>Zostera japonica</i> Asch. & Graebn.	EN	EN	EN	○						塩性湿地	北海道・本州・四国・九州・琉球		○
ヒルムシロ	イトモ	<i>Potamogeton berchtoldii</i> Fieber	NT	NT	NT	○						池沼	北海道・本州・九州・琉球		○
ヒルムシロ	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i> Regel & Maack	CR	CR	VU	○						池沼	本州		○
ヒルムシロ	リュウノヒゲモ※	<i>Potamogeton pectinatus</i> L.	EN	EN	NT	○						池沼・河川	北海道・本州・四国・九州・琉球		○
ヒルムシロ	ササバモ	<i>Potamogeton wrightii</i> Morong	NT	NT	NT	○						池沼・河川	本州・四国・九州・琉球		○
カワツルモ	カワツルモ	<i>Ruppia maritima</i> L.	CR	CR	NT	○						池沼	北海道・本州・小笠原・四国・九州・琉球		○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ	<i>Burmanna championii</i> Thwaites	VU	VU		○		○				林内	本州・四国・九州・屋久島・琉球		○
ヒナノシヤクジョウ	シロシヤクジョウ	<i>Burmanna cryptopetala</i> Makino	CR	CR		○		○				林内	本州（近畿地方）・四国・九州・屋久島・種子島・琉球		○
ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	<i>Sciaphila nana</i> Blume	EN	EN	VU	○		○				林内	本州・四国・九州・琉球		○
ホンゴウソウ	ウエマツソウ	<i>Sciaphila secundiflora</i> Thwaites ex Benth.	EN	EN	VU	○		○				林内	本州・伊豆諸島・小笠原・四国・九州・琉球		○
シュロンウ	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> Ohwi	EN	EN	VU	○		○				林内	本州・四国・九州		○
シュロンウ	エンレイソウ	<i>Trillium apetalon</i> Makino	CR	CR		○		○				林内	北海道・本州・四国・九州		○
シュロンウ	ミヤマエンレイソウ	<i>Trillium tschonoskii</i> Maxim.	EN	EN		○		○				林内	北海道・本州・四国・九州		○
シュロンウ	バイケイソウ	<i>Veratrum oxysepalum</i> Turcz. var. <i>oxysepalum</i>	EN	EN		○		○				林内	北海道・本州		○
イヌサフラン	キバナチゴユリ※	<i>Disporum lutescens</i> (Maxim.) Koidz.	EN	EN		○		○			●	林内	本州（和歌山県）・四国・九州		○
サルトリイバラ	サルマメ	<i>Smilax biflora</i> Siebold ex Miq. var. <i>trinervula</i> (Miq.) Hatus. ex T. Koyama	EN	EN		○		○				草地	本州・奄美大島		○
サルトリイバラ	ヤマカシユウ	<i>Smilax sieboldii</i> Miq.	NT	NT		○		○				特殊岩石地	本州・四国・九州		○
サルトリイバラ	マルバサンキライ	<i>Smilax stans</i> Maxim.	VU	VU		○		○				林縁	本州・四国・九州		○
ユリ	キバナノアマナ	<i>Gagea nakaiana</i> Kitag.	CR	CR		○		○				草地	北海道・本州・四国・九州		○
ユリ	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i> Salisb.	CR	CR	EN	○		○				草地	本州・四国・九州		○
ユリ	タキユリ※	<i>Lilium speciosum</i> Thunb. var. <i>clivorum</i> S. Abe & Teruo Tamura	CR	CR	VU	○		○				岩上・岩隙地	本州（和歌山県）・四国・九州		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採集	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
ユリ	キイジョウウオウホトトギス*	<i>Tricyrtis macranthopsis</i> Masam.	VU	VU	VU	○	○	○				岩上・岩隙地	本州 (紀伊半島南部)		○
ユリ	チャボホトトギス	<i>Tricyrtis nana</i> Yatabe	NT	NT								林内	本州・四国・九州・屋久島		○
ラン	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i> (Blume) Schltr.	EN	EN	EN							林内	本州・四国・九州		○
ラン	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i> (Maxim. ex Franch. & Sav.) Schltr.	EN	EN	EN	○						岩上・岩隙地	本州・伊豆諸島・四国		○
ラン	シラン	<i>Bletilla striata</i> (Thunb.) Rehb. f.	VU	VU	NT	○						草地	本州・四国・九州		○
ラン	マメツタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i> Maxim. ex Okubo	VU	VU	NT	○						岩上・樹上着生	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i> Maxim.	VU	VU	NT							岩上・樹上着生	本州・四国・九州		○
ラン	ミヤマムギラン	<i>Bulbophyllum japonicum</i> (Makino) Makino	VU	VU	NT							岩上・樹上着生	本州・四国・九州		○
ラン	キリシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i> Rehb. f.	CR	CR	EN					○		林内	本州 (近畿地方南部)・四国・九州		○
ラン	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i> Scheidw.	CR	CR	EN							林内	本州・四国・九州		○
ラン	エビネ	<i>Calanthe discolor</i> Lindl.	EN	EN	NT							林内	北海道・四国・九州・琉球		○
ラン	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i> Lindl. var. <i>puberula</i> (Maxim.) M. Hiroe	VU	VU	VU							林内	本州・四国・九州		○
ラン	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i> Lindl.	CR	CR	VU							林内	北海道・本州・四国・九州		○
ラン	キンラン	<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume	EN	EN	EN							林縁	本州・四国・九州		○
ラン	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Blume	VU	VU	VU							林縁	本州・四国・九州		○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取採	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
ラン	ムカゲラン	<i>Cleisostoma scolopendrifolium</i> (Makino) Garay	CR	CR	VU	○	○					樹上着生	本州・四国・九州		○
ラン	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i> Makino	CR	CR	EN	○	○					林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	アキザキナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i> Hook.	CR	CR	EN	○	○		○			林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i> Lindl.	CR	CR	VU	○	○		○			林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i> Masam.	CR	CR	VU	○	○					林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i> Thunb.	EN	EN	VU	○	○					林内	北海道・四国・九州		○
ラン	イチョウラン	<i>Dactyloctenium ringens</i> Rehb. f.	CR	CR	EN	○	○					林内	北海道・本州・四国・九州		○
ラン	セッコク	<i>Dendrobium moniliforme</i> (L.) Sw.	EN	EN	EN	○	○					岩上・樹上着生	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	ユウコクラン	<i>Empusa formosana</i> (Rehb. f.) T. C. Hsu	CR	CR	CR	○	○		○			林内	本州(紀伊半島)・伊豆諸島・九州・琉球		○
ラン	カキラン	<i>Epipactis thunbergii</i> A. Gray	NT									湿地	本州・四国・九州		○
ラン	タシロラン	<i>Epipogium roseum</i> (D. Don) Lindl.	EN	EN	NT	○	○		○			林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	オサラン	<i>Eria japonica</i> Maxim.	EN	EN	VU	○	○					樹上着生	本州(紀伊半島)・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
ラン	カシノキラン	<i>Gastrochilus japonicus</i> (Makino) Schltr.	CR	CR	VU	○	○					樹上着生	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	マツラン	<i>Gastrochilus matsuran</i> (Makino) Schltr.	CR	CR	VU	○	○					樹上着生	本州・四国・九州		○
ラン	モミラン	<i>Gastrochilus toramanus</i> (Makino) Schltr.	CR	CR	VU	○	○					樹上着生	本州・四国・九州		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布			
			2022	2012		2020	環境悪化	採取袋採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	生育環境	国内分布	紀北	紀南
ラン	アキザギヤツシロラン	<i>Gastrodia confusa</i> Honda & Tuyama	VU	VU		○		○						○	○	○	○
ラン	オニノヤガラ	<i>Gastrodia elata</i> Blume	VU	VU		○		○						○	○	○	○
ラン	ハルザギヤツシロラン*	<i>Gastrodia nipponica</i> (Honda) Tuyama	EN	EN	VU	○		○						○		○	○
ラン	クロヤツシロラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i> Y. Sawa	CR	CR				○						○		○	○
ラン	ベニシユスラン	<i>Goodyera biflora</i> (Lindl.) Hook. f.	EN	EN				○						○		○	○
ラン	アケボノシユスラン	<i>Goodyera foliosa</i> (Lindl.) Benth. ex C. B. Clarke var. <i>laevis</i> Finet	EN	EN				○						○		○	○
ラン	ツリシユスラン	<i>Goodyera pendula</i> Maxim.	EN	EN				○						○		○	○
ラン	ダイサイギソウ	<i>Habenaria dentata</i> (Sw.) Sehltr.	EN	EN	EN			○						○		○	○
ラン	ミズトンボ	<i>Habenaria sagittifera</i> Rehb. f.	VU	VU	VU	○		○						○		○	○
ラン	ヤクシマアカシユスラン*	<i>Hataeria yakusimensis</i> (Masam.) Ormerod	CR	CR	VU			○						○		○	○
ラン	ムカゴソウ	<i>Hermannium lanceum</i> (Thunb. ex Sw.) J. Vuijk	CR	CR	EN	○								○		○	○
ラン	ヤクシマヒメアリドオシラン	<i>Kuhlhasseltia yakushimensis</i> (Yamam.) Ormerod.	NT	NT	NT			○						○		○	○
ラン	キムヨウラン	<i>Lecanorchis hokurikuensis</i> Masam. var. <i>kitensis</i> (Murata) T. Hashim.	CR	CR				○						○		○	○
ラン	ムヨウラン	<i>Lecanorchis japonica</i> Blume	EN	EN				○						○		○	○
ラン	ウスギムヨウラン	<i>Lecanorchis kiusiana</i> Tuyama	CR	CR	NT			○						○		○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
ラン	クロムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> Honda var. <i>nigricans</i>	CR	CR		○		○				林内	本州・四国・九州・琉球	○	○
ラン	アムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i> Ohwi	CR	CR	CR	○		○				林内	本州（和歌山県）・四国・九州・琉球	○	○
ラン	エンシュウムヨウラン	<i>Lecanorchis suginoana</i> (Tuyama) Seriz.	CR			○		○				林内	本州・四国・九州	○	
ラン	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i> Blume ex Miq.	EX	EX	EN			○				林内	北海道・本州・四国・屋久島	○	○
ラン	ボウラン	<i>Luisia teres</i> (Thunb.) Blume	CR	CR	NT	○		○				樹上着生	本州（近畿地方南部）・四国・九州・琉球	○	○
ラン	ニラバラン	<i>Microtis unifolia</i> (G. Forst.) Rehb.f.	CR	CR		○		○				草地	本州・四国・九州・琉球	○	○
ラン	フウラン	<i>Neofinetia falcata</i> (Thunb.) Hu	VU	VU	VU	○		○				岩上・樹上着生	本州・四国・九州・琉球	○	○
ラン	コフタバラン	<i>Neottia cordata</i> (L.) Rich.	EN	EN				○				林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
ラン	ヒメフタバラン	<i>Neottia japonica</i> (Blume) Szlach.	EN	EN	EN			○				林内	本州・四国・九州・琉球	○	○
ラン	アオフタバラン	<i>Neottia makinoana</i> (Ohwi) Szlach.	EN	EN				○				林内	本州・四国・九州	○	○
ラン	ムカゴサイシン	<i>Nervilia nipponica</i> Makino	CR	CR	EN	○		○				林内	本州・九州・四国・琉球	○	○
ラン	ヨウラクラン	<i>Oberonia japonica</i> (Maxim.) Makino	EN	EN				○				岩上・樹上着生	本州・四国・九州・琉球	○	○
ラン	ヒナチドリ	<i>Orchis chidori</i> (Makino) Y. Tang, H. Peng & T. Yukawa	CR	CR	VU	○		○				岩上・樹上着生	北海道・本州・四国	○	○
ラン	ウチヨウラン	<i>Orchis graminifolia</i> (Rehb. f.) Y. Tang, H. Peng & T. Yukawa var. <i>graminifolia</i>	EN	EN	VU			○				岩上・岩隙地	本州・四国・九州	○	○
ラン	コケイラン	<i>Oreorchis patens</i> (Lindl.) Lindl.	EN	EN				○				林内	北海道・本州・四国・九州	○	○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布			
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採採	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性	紀北	紀南
ラン	サギソウ	<i>Pecteilis radiata</i> (Thunb.) Raf.	CR	CR	NT	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ラン	ムカゴトンボ	<i>Peristylus flagellifer</i> (Makino) Ohwi ex K. Y. Lang	CR	CR	EN		○									○	
ラン	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i> (Blume) J. W. Zhai, Z. J. Liu & F. W. Xing	CR	CR	VU												○
ラン	イヌマムカゴ	<i>Platanthera inumae</i> (Makino) Makino	CR	CR	EN		○										○
ラン	ツレサギソウ	<i>Platanthera japonica</i> (Thunb.) Lindl.	CR	CR													○
ラン	ヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> Rehb. f. ssp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i> (Franch. & Sav.) Koidz.	EN	EN			○										○
ラン	ナガバノキンチョドリ	<i>Platanthera ophrydioides</i> F. Schmidt var. <i>australis</i> Ohwi	CR	CR													○
ラン	オオヤマサギソウ	<i>Platanthera sachalinensis</i> F. Schmidt	EN	EN			○										○
ラン	トキンソウ	<i>Pogonia japonica</i> Rehb. f.	CR	CR	NT		○	○									○
ラン	ヤマトキンソウ	<i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino	EN	EN			○	○									○
ラン	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i> (Lindb. & Rehb. f.) Garay & H. R. Sweet	CR	CR	EN												○
ラン	ココロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i> Maxim. ex Makino	CR	CR	VU												○
ラン	カヤラン	<i>Thrixspermum japonicum</i> (Miq.) Rehb. f.	VU	VU													○
ラン	ヒトツボクロ	<i>Tipularia japonica</i> Matsum.	EN	EN													○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県			国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布		
			2022	2012	2020		環境変化	採取採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性			希少性	紀北	紀南
ラン	キバナノシヨウキラン	<i>Yoania amagiensis</i> Nakai & F. Maek.	CR	CR	EN	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ラン	カゲロウラン	<i>Zeuxine agyokuana</i> Fukuy.	CR	CR	NT	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キンバイザサ	キンバイザサ	<i>Curculigo orchitoides</i> Gaertn.	EN	EN		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キンバイザサ	コキンバイザサ	<i>Hypoxis aurea</i> Lour.	EN	EN	EN	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アヤメ	ヒメシヤガ	<i>Iris gracilipes</i> A. Gray	EN	EN	NT	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ススキノキ	キキョウラン※	<i>Dianella ensifolia</i> (L.) DC.	NT	NT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ススキノキ	ユウスゲ	<i>Hemerocallis citrina</i> Baroni var. <i>vespertina</i> (H. Hara) M. Hotta	EN	EN	EN	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ススキノキ	ハマカンゾウ	<i>Hemerocallis fuba</i> L. var. <i>littorea</i> (Makino) M. Hotta	NT	NT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒガンバナ	キイトラッキョウ※	<i>Allium kiense</i> (Murata) Hir. Takah. & M. Hotta	EN	EN	VU	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
ヒガンバナ	ヒメニラ	<i>Allium monanthum</i> Maxim.	CR	CR		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒガンバナ	タムムラサキ	<i>Allium pseudojaponicum</i> Makino	CR	CR		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒガンバナ	ハオモト	<i>Crinum asiaticum</i> L. var. <i>japonicum</i> Baker	EN	EN		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒガンバナ	キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> Maxim. var. <i>sanguinea</i>	VU	VU		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クサスギカズラ	ウナズキギボウシ※	<i>Hosta kikutii</i> F. Maek. var. <i>toxana</i> (F. Maek.) F. Maek.	NT	NT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採集	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
クサスギカズラ	オヒガンギボウシ	<i>Hosta longipes</i> (Franch. & Sav.) <i>Matsum. var. aequinoctiantha</i> (Koidz. ex Araki) Kitam.	CR	CR			○					○	本州		○
クサスギカズラ	スダレギボウシ	<i>Hosta polyneuron</i> F. Maek.	VU	VU			○		●			○	本州 (近畿地方南部)・四国		○
クサスギカズラ	マイヅルソウ	<i>Maianthemum dilatatum</i> (Alph. Wood) A. Nelson & J. F. Macbr.	CR	CR			○					○	北海道・本州・四国・九州		○
クサスギカズラ	ノシラン	<i>Ophiopogon jaburan</i> (Siebold) G. Lodd.	NT	NT			○					○	本州・四国・九州・琉球		○
クサスギカズラ	オオバジヤノヒゲ	<i>Ophiopogon planiscapus</i> Nakai	CR	CR								○	本州・九州		○
ミズアオイ	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i> Regel & Maack	EX	EX	NT		○	○				○	北海道・本州・四国・九州		○
ショウガ	アオノクマタケラン※	<i>Alpinia intermedia</i> Gagnep.	VU	VU								○	本州・四国・九州・琉球		○
ミクリ	オオミクリ	<i>Sparganium coreanum</i> H. Lévl.	EN	EN	VU		○					○	本州		○
ミクリ	ヤマトミクリ※	<i>Sparganium fallax</i> Graebn.	EN	EN	NT		○					○	本州・四国・九州		○
ミクリ	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i> Rothert	NT	NT	NT		○						北海道・本州・四国・九州		○
ミクリ	ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i> Morong	EN	EN	VU		○					○	北海道・本州・四国・九州・琉球		○
ホシクサ	ツクシクロイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon kiusianum</i> Maxim.	EN	EN	VU							○	本州・四国・九州・屋久島		○
ホシクサ	クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i> Körn.	VU	VU	VU							○	本州・四国・九州・沖縄		○
カヤツリグサ	イセウキヤガラ	<i>Bolboschoenus planiculmis</i> (F. Schmidt) T. V. Egorova	CR	CR								○	本州・四国・九州		○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布	県内分布		
			2022	2012		2020	環境変化	採取採	特殊環境	特殊生態	特殊分布		固有性	希少性	紀南
カヤツリグサ	ベンケイヤワラスゲ	<i>Carex benkei</i> Tak. Shimizu	CR	CR		○	○						本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	アワボスゲ	<i>Carex brownii</i> Tuck.	CR	CR									北海道・本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	ミヤマジユスズゲ	<i>Carex dissitiflora</i> Franch.	EN	EN		○							北海道・本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	ガンカイモエギスゲ	<i>Carex genkaiensis</i> Ohwi	EN	EN	EN								本州（近畿地方）・小笠原・九州		○
カヤツリグサ	コハリスゲ	<i>Carex hakonensis</i> Franch. & Sav.	CR	CR									北海道・本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	イセアオスゲ	<i>Carex karashidaniensis</i> Akiyama	EN	EN									本州		○
カヤツリグサ	コウヤハリスゲ※	<i>Carex koyanensis</i> J. Oda & Nagam.	CR	CR		○							本州		○
カヤツリグサ	センダイスゲ	<i>Carex lenta</i> D. Don var. <i>sendaica</i> (Franch.) T. Koyama	CR	CR		○							本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	サツマスゲ	<i>Carex ligulata</i> Nees	EN	EN		○							本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	ヤガミスゲ	<i>Carex maackii</i> Maxim.	CR	CR									北海道・本州・九州		○
カヤツリグサ	カタスゲ	<i>Carex macrandrolepis</i> H. Lévl.	CR	CR									本州・伊豆諸島・四国・九州		○
カヤツリグサ	キノニスゲ (キシユウスゲ) ※	<i>Carex matsumurae</i> Franch.	NT	NT	NT	○							本州・伊豆諸島・四国・九州		○
カヤツリグサ	キシユウナキリスゲ※	<i>Carex nachiana</i> Ohwi	NT	NT	VU	○							本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	ミコシガヤ	<i>Carex neurocarpa</i> Maxim.	CR	CR									本州・伊豆諸島		○
カヤツリグサ	ヒメスゲ	<i>Carex oxyandra</i> (Franch. & Sav.) Kudô	CR	CR		○							北海道・本州・四国・九州		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布		
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	国内分布	紀北	紀南
カヤツリグサ	オオクグ	<i>Carex rugulosa</i> Kük.	CR	CR	NT	○	○							北海道・本州・九州	○	
カヤツリグサ	ジングウスズゲ	<i>Carex sacrosancta</i> Honda	EN	EN	NT									本州・伊豆諸島・四国・九州		○
カヤツリグサ	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i> Ohwi	EN	EN	EN			○						本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	オオシロガヤツリ	<i>Cyperus nipponicus</i> Franch. & Sav. var. <i>spiralis</i> Ohwi	EN	EN		○								本州・四国		○
カヤツリグサ	ムギガラガヤツリ	<i>Cyperus unioloides</i> R. Br.	EX	EX	CR	○								本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	カガシラ	<i>Diplacrum caricinum</i> R. Br.	CR	CR	VU			○						本州・四国・九州・琉球		○
カヤツリグサ	ミスミイ	<i>Eleocharis acutangula</i> (Roxb.) Schult.	CR	CR	EN	○								本州・九州・琉球		○
カヤツリグサ	セイタカハリイ	<i>Eleocharis attenuata</i> (Franch. & Sav.) Palla	EN	EN		○								本州・四国・九州・琉球		○
カヤツリグサ	イヌクログワイ (シログワイ)	<i>Eleocharis dulcis</i> (Burm. f.) Trin. ex Hensch	VU	VU		○								本州・九州・琉球		○
カヤツリグサ	オオヌマハリイ	<i>Eleocharis mamillata</i> H. Lindb. var. <i>cyclocarpa</i> Kitag.	EN	EN										北海道・本州・九州		○
カヤツリグサ	タイワンヒデリコ	<i>Fimbristylis littoralis</i> Gaudich. var. <i>koidzumiana</i> (Ohwi) T. Koyama	EN	EN	EN			○						本州 (紀伊半島)・琉球		○
カヤツリグサ	ナガボテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> Steud.	EN	EN										本州・伊豆諸島・四国・九州		○
カヤツリグサ	ヤリテんツキ	<i>Fimbristylis ovata</i> (Burm. f.) J. Kern	EN	EN	NT									本州・九州・琉球		○
カヤツリグサ	トラノハナヒゲ	<i>Rhynchospora brownii</i> Roem. & Schult.	VU	VU										本州・四国・九州・琉球		○
カヤツリグサ	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i> C. B. Clarke	CR	CR	EN	○								本州・九州・琉球		○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
カヤツリグサ	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> (L.) Palla var. <i>mucronatus</i>	EN	EN	VU	○	○					湿地・池沼	本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	ツクシカンガレイ	<i>Schoenoplectus multiseta</i> (Hayasaka & C. Sato) Hayasaka	CR	CR		○	○					湿地	本州・九州・琉球		○
カヤツリグサ	シズイ	<i>Schoenoplectus nipponicus</i> (Makino) Soják	EN	EN		○	○					池沼	北海道・本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	コマツカサススキ	<i>Scirpus fuirenooides</i> Maxim.	EN	EN		○	○					湿地	本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	マツカサススキ	<i>Scirpus mitsukurianus</i> Makino	EN									湿地	本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	シンジュガヤ	<i>Scleria levis</i> Retz.	VU	VU		○	○					草地	本州・四国・九州・琉球		○
イネ	ヒメコスカグサ	<i>Agrostis valvata</i> Steud.	NT	NT	NT	○	○					湿地	本州・四国・九州		○
イネ	コウボウ	<i>Anthoxanthum nitens</i> (Weber) Y. Schouten & Veldkamp var. <i>sachalinense</i> (Printz) Yonek.	EN	EN	EN	○	○					草地	北海道・本州・四国・九州		○
イネ	ミギトダシバ	<i>Arundinella riparia</i> Honda ssp. <i>riparia</i>	NT	NT	VU	○	○					岩上・岩隙地	本州・四国		○
イネ	カリマタガヤ	<i>Dimeria orniithopoda</i> Trin. var. <i>tenera</i> (Trin.) Hack.	VU	VU	VU			○				湿地	北海道・本州・四国・九州・琉球		○
イネ	イトスズメガヤ	<i>Eragrostis brownii</i> (Kunth) Nees	VU	VU	VU	○	○					草地	本州・小笠原・四国・九州・琉球		○
イネ	コゴメカゼクサ	<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.	EN	EN	EN							草地	本州・四国・九州・琉球		○
イネ	ウンヌケモドキ	<i>Eulalia quadrinervis</i> (Hack.) O. Kuntze	NT	NT	NT	○	○					草地・瘦地	本州・四国・九州・琉球		○
イネ	タイフンカモノハシ	<i>Ischaemum aristatum</i> L. var. <i>aristatum</i>	EN	EN	EN	○	○					草地	本州（紀伊半島以南）・四国・九州・琉球		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布		
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採集	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	生育環境	国内分布	紀北
イネ	トウササクサ	<i>Lophatherum sinense</i> Rendle	NT	NT		○							○	○	○	
イネ	ミチシバ	<i>Melica onoei</i> Franch. & Sav.	CR	CR									○	○	○	
イネ	ハイキビ※	<i>Panicum repens</i> L.	CR	CR					○				○	○	○	
イネ	ヒロハノハネガヤ	<i>Patis coreana</i> (Honda) Ohwi	EN	EN		○							○	○	○	
イネ	タキキビ	<i>Phaenosperma globosum</i> Munro ex Benth.	VU	VU		○							○	○	○	
イネ	ムカゴツヅリ	<i>Poa tuberosa</i> Faurie ex Hack.	EN	EN									○	○	○	
イネ	ウキシバ	<i>Pseudoraphis sordida</i> (Thwaites) S. M. Phillips & S. L. Chen	NT	NT		○		○						○	○	
イネ	モロコシガヤ	<i>Sorghum nitidum</i> (Vahl) Pers. var. <i>dichroanthum</i> (Steud.) Ohwi	VU	VU		○			○				○	○	○	
イネ	ビロードキビ	<i>Urochloa villosa</i> (Lam.) T. Q. Nguyen	NT	NT	EN	○								○	○	
イネ	オニシバ	<i>Zoysia macrostachya</i> Franch. & Sav.	EN	EN									○	○	○	
メギ	ルイヨウボタン	<i>Caulophyllum robustum</i> Maxim.	EN	EN				○						○	○	
メギ	ヤチマタイカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum</i> C. Morren var. <i>grandiflorum</i>	CR	CR	NT			○						○	○	
キンポウゲ	カワチブシ	<i>Aconitum grossdentatum</i> (Nakai) Nakai	VU	VU		○								○	○	
キンポウゲ	コウライブシ	<i>Aconitum jaluense</i> Kom. ssp. <i>jaluense</i>	CR	CR	CR	○								○	○	
キンポウゲ	ルイヨウショウマ	<i>Actaea asiatica</i> H. Hara	VU	VU		○								○	○	

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取採	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
キンポウゲ	シコクフクジュソウ	<i>Adonis shikokuensis</i> Nishikawa & Koji Ito	EN	EN	VU							林縁	本州（近畿地方南部）・四国・九州		○
キンポウゲ	ニリンソウ	<i>Anemone flaccida</i> F. Schmidt	EN	EN	EN							林縁	北海道・本州・四国・九州		○
キンポウゲ	ユキフリイチゲ	<i>Anemone keiskeana</i> T. Itô ex Maxim.	VU	VU	VU							草地	本州・四国・九州		○
キンポウゲ	ヤマオダマキ	<i>Aquilegia buergeriana</i> Siebold & Zucc. var. <i>buergeriana</i>	VU	VU	VU							草地	北海道・本州・四国・九州		○
キンポウゲ	エンコウソウ	<i>Caltha palustris</i> L. var. <i>enkoso</i> H. Hara	CR	CR	CR				○			湿地	北海道・本州		○
キンポウゲ	タカネハンシヨウツル	<i>Clematis lasianдра</i> Maxim.	NT	NT	NT							林縁	本州・四国・九州・琉球		○
キンポウゲ	コヤハンシヨウツル※	<i>Clematis obvallata</i> (Ohwi) Tamura var. <i>obvallata</i>	EN	EN	CR							林縁	本州（紀伊山地）・四国		○
キンポウゲ	カザグルマ	<i>Clematis patens</i> C. Morren & Decne.	CR	CR	NT							林縁	本州・四国・九州		○
キンポウゲ	キイセンニンソウ	<i>Clematis uncinata</i> Champ. ex Benth. var. <i>ovatifolia</i> (T. Itô ex Maxim.) Ohwi ex Tamura	NT	NT	NT							林縁	本州（紀伊半島南部）・九州		○
キンポウゲ	シロバナハンシヨウツル	<i>Clematis williamsii</i> A. Gray	NT	NT	NT							林縁	本州・四国・九州		○
キンポウゲ	コヤシロカネソウ※	<i>Dichocarpum numajirianum</i> (Makino) W. T. Wang & P. K. Hsiao	EN	EN	EN							林内	本州・四国		○
キンポウゲ	ツルシロカネソウ	<i>Dichocarpum stoloniferum</i> (Maxim.) W. T. Wang & P. K. Hsiao	EN	EN	EN							林内	本州		○
キンポウゲ	トウゴクサバナオ	<i>Dichocarpum trachyspermum</i> (Maxim.) W. T. Wang & P. K. Hsiao	NT	NT	NT							林内	本州・四国・九州		○
キンポウゲ	ミスミンソウ	<i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>japonica</i> Nakai	EN	EN	NT							林縁	本州・四国		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採集	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
キンポウゲ	オキナグサ	<i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Berchtold & J. Presl	CR	CR	VU	○	○					草地	本州・四国・九州	○	
キンポウゲ	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> Thunb.	EX	EX	VU	○	○					湿地	本州・四国・九州	○	
ツゲ	ツゲ※	<i>Buxus microphylla</i> Siebold & Zucc. var. <i>japonica</i> (Müll. Arg. ex Miq.) Rehder & E. H. Wilson	VU	VU		○	○					特殊岩石地	本州・四国・九州・屋久島	○	
マンサク	コウヤミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> Makino	VU	NT		○						山地・渓谷	本州・四国・九州	○	○
マンサク	マンサク	<i>Hamamelis japonica</i> Siebold & Zucc.	VU	NT		○						山地・渓谷	本州・四国・九州	○	
カツラ	カツラ	<i>Cercidiphyllum japonicum</i> Siebold & Zucc. ex Hoffm. & Schult.	NT	NT		○						山地・渓谷	北海道・本州・四国・九州	○	○
ボタン	ヤマシャクヤク	<i>Paeonia japonica</i> (Makino) Miyabe & Takeda	EN	EN	NT		○					林内	本州・四国・九州	○	○
スグリ	ヤシャビシヤク	<i>Ribes ambiguum</i> Maxim.	EN	EN	NT		○					樹上着生	本州・四国・九州	○	○
スグリ	ヤブサンザシ	<i>Ribes fasciculatum</i> Siebold & Zucc.	EN	EN			○					山地・林縁	本州・四国・九州	○	○
ユキノシタ	キイハナネコノメ	<i>Chrysosplenium album</i> Maxim. var. <i>nachiense</i> H. Hara	VU	VU		○						山地・渓谷	本州 (紀伊半島)	○	
ユキノシタ	キシウネコノメ	<i>Chrysosplenium macrostemon</i> Maxim. var. <i>calicitraps</i> (Franch.) H. Hara	VU	VU		○						山地・渓谷	本州 (紀伊半島)	○	
ユキノシタ	コガネコノメソウ	<i>Chrysosplenium pilosum</i> Maxim. var. <i>sphaerospermum</i> (Maxim.) H. Hara	VU	VU		○						山地・渓谷	本州・四国・九州	○	○
ユキノシタ	センダインソウ	<i>Saxifraga sendaica</i> Maxim.	CR	CR	NT		○					岩上・岩隙地	本州 (紀伊半島)・四国・九州	○	○
ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ	<i>Hylotelephium verticillatum</i> (L.) H. Ohba	EN	EN			○					岩上・岩隙地	北海道・本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布	県内分布		
			2022	2012		2020	環境変化	採取採	特殊環境	特殊生態	特殊分布		固有性	希少性	紀北
ベンケイソウ	アオベンケイ	<i>Hylotelephium viride</i> (Makino) H. Ohba	CR	CR		○	○	○					本州・四国・九州	○	○
ベンケイソウ	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonica</i> var. <i>bitchuensis</i> (Maxim.) A. Berger	VU	VU	NT	○	○	○					本州・四国・九州	○	○
タコノアシ	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i> Pursh	VU	VU	NT	○	○	○					本州・四国・九州・奄美	○	○
アリノトウグサ	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i> Miki	EN	VU	VU				○				本州・四国	○	
アリノトウグサ	タチモ	<i>Myriophyllum ussuriense</i> (Regel) Maxim.	NT	NT	NT	○	○	○					北海道・本州・四国・九州	○	○
アリノトウグサ	フサモ	<i>Myriophyllum verticillatum</i> L.	NT	NT	NT				○				北海道・本州・四国・九州	○	○
ブドウ	ウドカズラ	<i>Nekemias cantoniensis</i> (Hook. & Arn.) J. Wen & Z. L. Nie	NT	NT					○				本州・四国・九州	○	
ブドウ	ヨコグラブドウ	<i>Vitis saccharifera</i> Makino var. <i>yokogurana</i> (Makino) Ohwi	DD										本州・四国・九州	○	
ミンハギ	ミズマツバ	<i>Rotala mexicana</i> Cham. & Schltdl.	NT	NT	VU	○	○	○					本州・四国・九州・琉球	○	○
ミンハギ	ミズキカシグサ	<i>Rotala rosea</i> (Poir.) C. D. K. Cook	CR	CR	VU	○	○	○					本州・四国・九州・琉球	○	○
ミンハギ	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i> Siebold & Zucc.	CR	EN	VU	○	○	○					北海道・本州・四国・九州	○	○
ミンハギ	オニビシ	<i>Trapa natans</i> L.	VU	VU		○	○	○					本州・四国・九州	○	
ノボタン	ヒメノボタン※	<i>Osbeckia chinensis</i> L.	CR	CR	VU	○	○	○					本州 (紀伊半島)・四国・九州・琉球	○	○
ハマビシ	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i> L.	CR	CR	EN	○	○	○					本州・四国・九州	○	○
マメ	フジキ	<i>Cladrastis platycarpa</i> (Maxim.) Makino	CR	CR									本州・四国	○	○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採伐	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
マメ	ユクノキ	<i>Cladrastis sikokiana</i> (Makino) Makino	NT	NT								山地	本州・四国・九州		
マメ	タヌキマメ	<i>Crotalaria sessiliflora</i> L.	NT	NT								草地	本州・四国・九州・琉球		
マメ	ミヤマトベラ	<i>Euchresta japonica</i> Hook. f. ex Maxim.	VU	VU								林内	本州・四国・九州		
マメ	サイカチ	<i>Gleditsia japonica</i> Miq.	EN	EN								林縁	本州・四国・九州		
マメ	レンリンソウ	<i>Lathyrus quinquerivius</i> (Miq.) Litv.	CR	CR								草地	本州・九州		
マメ	ヒメノハギ	<i>Leptodesmia microphylla</i> (Thunb.) H. Ohashi & K. Ohashi	EX	EX								草地	本州・四国・九州・琉球		
マメ	イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Siebold ex Maxim.	VU	VU	VU							河川・海岸	本州・四国・九州・琉球		
マメ	マキエハギ	<i>Lespedeza virgata</i> (Thunb.) DC.	NT	NT								林縁・草地	本州・四国・九州・琉球		
マメ	シマエンジユ	<i>Maackia tashiroi</i> (Yatabe) Makino	EN	EN								海岸	本州 (紀伊半島)・四国・九州・琉球		
マメ	ハカマカズラ※	<i>Phanera japonica</i> (Maxim.) H. Ohashi	EN	EN								林縁	本州 (紀伊半島)・四国・九州・琉球		
ヒメハギ	ヒナノカンザシ	<i>Salomonina ciliata</i> (L.) DC.	EX	EX								湿地	本州・四国・九州		
バラ	ズミ	<i>Malus toringo</i> (Siebold) Siebold ex de Vriese	CR	CR								岩上・岩隙地	北海道・本州・四国・九州		
バラ	カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i> Ser.	VU	VU								河川	本州・四国・九州		
バラ	チリハキンバイ	<i>Potentilla riparia</i> Murata	VU	VU								河川	本州・四国		
バラ	ヤマナシ	<i>Pyrus pyrifolia</i> (Burm. f.) Nakai	DD	NT								山地・林縁	本州・四国・九州		

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
バラ	ハスノハイチゴ	<i>Rubus peltatus</i> Maxim.	EN	EN	NT	○					○	林縁	本州・四国・九州		○
バラ	ハチジョウウイチゴ	<i>Rubus ribisoides</i> Matsum.	NT	NT		○						海岸・林縁	本州・伊豆諸島・四国・九州		○
バラ	コバナノフレモコウ	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> Fisch. ex Link var. <i>parviflora</i> Maxim.	NT	NT		○	○					草地	本州・四国・九州		○
バラ	イブキシモツケ	<i>Spiraea dasyantha</i> Bunge	EN	EN		○	○					岩上・岩隙地	本州・四国・九州		○
バラ	ドロノシモツケ※	<i>Spiraea japonica</i> L. f. var. <i>ripensis</i> Kitam.	NT	NT		○	○		●			岩上・岩隙地	本州（紀伊半島・山口県・広島県）		○
バラ	イフシモツケ (キイシモツケ)	<i>Spiraea nipponica</i> Maxim. var. <i>nipponica</i>	NT	NT		○	○					特殊岩石地	本州		○
グミ	アリマグミ	<i>Elaeagnus murakamiana</i> Makino	EN	EN		○						林内	本州・四国		○
グミ	コウヤグミ	<i>Elaeagnus numajiriana</i> Makino	VU	VU		○			○			林内	本州・四国		○
グミ	カツラギグミ	<i>Elaeagnus takesitae</i> Makino	EN	EN	EN	○						林内	本州（近畿地方）		○
クロウメモドキ	ヨコゴラノキ	<i>Berchemiella berchemifolia</i> (Makino) Nakai	CR	CR								山地・渓谷	本州・四国・九州		○
クロウメモドキ	ハマナツメ	<i>Paliurus ramosissimus</i> (Lour.) Poir.	CR	CR	VU	○				○		海岸・塩性湿地	本州・四国・九州・琉球		○
クロウメモドキ	クロカンバ	<i>Rhamnus costata</i> Maxim.	EN	EN								山地・林内	本州・四国・九州		○
クロウメモドキ	クロウメモドキ	<i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>decepiens</i> Maxim.	VU	VU		○						山地・林内	本州・四国・九州		○
ニレ	ハルニレ	<i>Ulmus davidiana</i> Planch. var. <i>japonica</i> (Rehder) Nakai	EN	EN		○						山地	北海道・本州・四国・九州		○
アサ	コバナチョウセンエノキ	<i>Celtis biondii</i> Pamp.	EN	EN								山地	本州・四国・九州・琉球		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布	
			2022	2012		2020	環境悪化	採取袋採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	生育環境	国内分布
クワ	アコウ*	<i>Ficus superba</i> (Miq.) Miq. var. <i>japonica</i> Miq.	NT	NT									本州 (紀伊半島)・四国・九州・琉球	○	○
クワ	ケグフ	<i>Morus cathayana</i> Hemsl.	VU	VU		○							本州・四国・九州	○	○
イラクサ	ハドノキ*	<i>Oreocnide pedunculata</i> (Shirai) Masam.	EN	EN		○							本州・四国・九州・琉球	○	○
イラクサ	ミヤコミズ	<i>Pilea kiotensis</i> Ohwi	VU	VU		○							本州・九州	○	○
イラクサ	ソハヤキミズ*	<i>Pilea swinglei</i> Merr.	CR	CR	VU	○					●		本州 (和歌山県)・四国・九州	○	○
イラクサ	ツルマオ	<i>Pouzolzia hirta</i> Blume ex Hassk.	CR	CR									本州・屋久島・種子島・琉球	○	○
イラクサ	ナガバイラクサ	<i>Urtica angustifolia</i> Fisch. ex Hornem. var. <i>sikokiana</i> (Makino) Ohwi	EX	EX									本州・四国	○	○
ウリ	オオカラスウリ	<i>Trichosanthes laceribractea</i> Hayata	EN	EN								○	本州 (近畿地方)・四国・九州・琉球	○	○
ニシキギ	ウメバチソウ	<i>Parnassia palustris</i> L. var. <i>palustris</i>	VU	VU									北海道・本州・四国・九州	○	○
コミカンソウ	ヒトツバハギ	<i>Flueggea suffruticosa</i> (Pall.) Baill.	CR	CR		○							本州・四国・九州	○	○
アマ	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i> Planch.	EN	EN	CR	○							北海道・本州・四国・九州	○	○
オトギリソウ	ミヤコトギリ	<i>Hypericum kinashianum</i> Koidz.	EN	EN									本州	○	○
オトギリソウ	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i> Franch. & Sav.	EN	EN	EN	○							本州・四国・九州	○	○
スミレ	ナガバノスミレサイシン	<i>Viola bissetii</i> Maxim.	CR	CR								○	本州・四国・九州	○	○
スミレ	ホンバシロスミレ*	<i>Viola patrinii</i> DC. var. <i>angustifolia</i> Regel	EN	EN	VU								本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取	採伐	環境	特殊生態			特殊分布	固有性
スミレ	シコクスミレ	<i>Viola shikokiana</i> Makino	EN	EN				○				山地・渓谷	本州・四国・九州		○
アブラナ	カワチスズシロソウ	<i>Arabis flagellosa</i> Miq. var. <i>kawachiensis</i> S. Fujii	EN	EN	VU	○			○			山地・渓谷	本州 (大阪府南部・和歌山県)		○
アブラナ	ミツバコンロンソウ	<i>Cardamine anemonoides</i> O. E. Schulz	EN	EN								山地・渓谷	本州・四国・九州		○
アブラナ	ミズタガラシ	<i>Cardamine lyrata</i> Bunge	VU	VU		○						湿地	本州・四国・九州		○
アブラナ	ユリワサビ	<i>Eutrema tenue</i> (Miq.) Makino	EN	EN		○						山地・渓谷	本州・四国・九州		○
ムクロジ	アサノハカエデ※	<i>Acer argutum</i> Maxim.	CR	CR								山地	本州・四国		○
ムクロジ	カジカエデ	<i>Acer diabolicum</i> Blume ex K. Koch	CR	CR								林内	本州・四国・九州		○
ムクロジ	メグスリノキ	<i>Acer maximowiczianum</i> Miq.	CR	CR								林内	本州・四国・九州		○
ミカン	タチバナ※	<i>Citrus tachibana</i> (Makino) Tanaka	CR	CR	NT	○						林内	本州・四国・九州・琉球		○
ミカン	ハマセンダン	<i>Tetradium glabrifolium</i> (Champ. ex Benth.) T. G. Hartley var. <i>glaucum</i> (Miq.) T. Yamaz.	NT	NT		○						海岸	本州・四国・九州・琉球		○
アオイ	ハマボウ※	<i>Hibiscus hamabo</i> Siebold & Zucc.	NT	NT		○						塩性湿地	本州・四国・九州・奄美		○
アオイ	シナノキ	<i>Tilia japonica</i> (Miq.) Simonk.	CR	CR								林縁	北海道・本州・九州		○
ジンチョウゲ	コシヨウノキ	<i>Daphne kiusiana</i> Miq.	NT	NT		○						山地・林内	本州・四国・九州・琉球		○
ジンチョウゲ	キガンピ	<i>Diplomorpha trichotoma</i> (Thunb.) Nakai	EN	EN								林内	本州・四国・九州		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布	
			2022	2012		2020	環境悪化	採取袋採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	生育環境	国内分布
ツチトリモチ	ツチトリモチ	<i>Balanophora japonica</i> Makino	EN	EN	EN	○	○	○	○	○	○	林内	本州・四国・九州・屋久島・琉球		○
ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i> Makino	EN	EN	VU	○	○	○	○	○	○	林内	本州・四国・九州		○
オオバヤドリギ	オオバヤドリギ	<i>Taxillus yadoriki</i> (Siebold ex Maxim.) Danser	VU	VU	VU	○	○	○	○	○	○	樹上着生	本州・四国・九州・琉球		○
イソマツ	ハマサジ	<i>Limonium tetragonum</i> (Thunb.) A. A. Bullock	VU	VU	NT	○	○	○	○	○	○	塩性湿地	本州・四国・九州		○
タデ	サイコクヌカボ	<i>Persicaria foliosa</i> (H. Lindb.) Kitag. var. <i>nikaii</i> (Makino) H. Hara	NT	NT	VU	○	○	○	○	○	○	湿地・池沼	本州・四国・九州		○
タデ	ヤナギヌカボ	<i>Persicaria foliosa</i> (H. Lindb.) Kitag. var. <i>paludicola</i> (Makino) H. Hara	CR	EN	VU	○	○	○	○	○	○	湿地・池沼	北海道・本州・四国・九州		○
タデ	サデフサ	<i>Persicaria maackiana</i> (Regel) Nakai	CR	CR	CR	○	○	○	○	○	○	湿地	本州・四国・九州		○
タデ	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i> (H. Lév.) Koidz.	EN	EN	VU	○	○	○	○	○	○	湿地・池沼	本州・四国・九州		○
タデ	シマヒメタデ※	<i>Persicaria tenella</i> (Blume) H. Hara	EN	EN	EN	○	○	○	○	○	○	湿地・池沼	本州・九州・琉球		○
タデ	マダイオウ	<i>Rumex madai</i> Makino	CR	CR	CR	○	○	○	○	○	○	湿地	本州・四国・九州		○
モウセンゴケ	イシモチソウ	<i>Drosera peltata</i> var. <i>nipponica</i> Buch. -Ham. ex DC.	EN	EN	NT	○	○	○	○	○	○	湿地	本州・四国・九州・琉球		○
モウセンゴケ	モウセンゴケ	<i>Drosera rotundifolia</i> L.	EN	EN	EN	○	○	○	○	○	○	湿地	北海道・本州・四国・九州		○
モウセンゴケ	コモウセンゴケ	<i>Drosera spatulata</i> Labill.	NT	NT	NT	○	○	○	○	○	○	湿地	本州・四国・九州・琉球		○
ナデシコ	ヒメハマナデシコ	<i>Dianthus kiusianus</i> Makino	CR	CR	CR	○	○	○	○	○	○	海岸	本州 (和歌山県)・四国・九州・琉球		○
ナデシコ	ワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> (Maxim.) Pax	EN	EN	EN	○	○	○	○	○	○	林内	本州・四国・九州		○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県			国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020		環境変化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性			希少性	紀北
ナデシコ	ナンバンハコベ	<i>Silene baccifera</i> (L.) Roth var. <i>japonica</i> (Miq.) H. Ohashi & H. Nakai	VU				○							北海道・本州・四国・九州	○	○
ナデシコ	ウシオツメクサ	<i>Spergularia marina</i> (L.) Griseb.	EN	EN			○		○					北海道・本州・九州	○	
ナデシコ	ミヤマハコベ	<i>Stellaria sessiliflora</i> Y. Yabe	VU	VU			○							北海道・本州・四国・九州	○	○
ヒユ	イソフサギ※	<i>Blutaparon wrightii</i> (Hook. f. ex Maxim.) Mears	CR	CR			○			○				本州 (和歌山県)・九州・種子島・屋久島・琉球	○	○
ヒユ	ハママツナ	<i>Suaeda maritima</i> (L.) Dumort. ssp. <i>asiatica</i> H. Hara	EN	EN			○			○				本州・四国・九州・琉球	○	○
アジサイ	ギンバイソウ	<i>Hydrangea bifida</i> (Maxim.) Y. De Smet & Granados	VU	VU			○							本州・四国・九州	○	○
アジサイ	シムユキカズラ※	<i>Hydrangea viburnoides</i> (Hook. f. & Thomson) Y. De Smet & Granados	CR	EN			○			○	●			本州 (和歌山県)・琉球	○	○
ツリフネソウ	ハガクツレツリフネ	<i>Impatiens hypophylla</i> Makino	NT	NT			○				○			本州 (紀伊半島)・四国・九州	○	○
サクラソウ	カラタチバナ	<i>Ardisia crispa</i> (Thunb.) A. DC.	VU	VU										本州・四国・九州・琉球	○	○
サクラソウ	ルリハコベ	<i>Lysimachia arvensis</i> (L.) U. Manns & Anderb. var. <i>caerulea</i> (L.) Ryland & Bergmeier	VU	VU										本州 (紀伊半島)・伊豆諸島・四国・九州	○	○
サクラソウ	モロコシソウ	<i>Lysimachia sikokiana</i> Miq.	VU	VU			○							本州・四国・九州・琉球	○	○
サクラソウ	ミヤマコナスビ	<i>Lysimachia tanakae</i> Maxim.	NT	NT			○				○			本州 (紀伊半島)・四国・九州	○	○
サクラソウ	クリンソウ	<i>Primula japonica</i> A. Gray	EN	EN										北海道・本州・四国	○	○
サクラソウ	サクラソウ※	<i>Primula sieboldii</i> E. Morren	EX	EX	NT		○			○				北海道・本州・九州	○	○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布			
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採集	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	北海道・本州・四国・九州	本州・四国・九州	紀北	紀南
ツバキ	ナツツバキ	<i>Stewartia pseudocamellia</i> Maxim.	VU	VU										本州・四国・九州		○	○
ツバキ	ヒコサンヒメシヤラ	<i>Stewartia serrata</i> Maxim.	CR	CR										本州・四国・九州			○
ハイノキ	ハイノキ	<i>Symplocos myrtaea</i> Siebold & Zucc.	VU	VU										本州・四国・九州		○	○
イワウメ	ヒメイワカガミ	<i>Schizocodon ilicifolius</i> Maxim.	VU	VU				○						本州			○
エゴノキ	ハクウンボク	<i>Styrax obassia</i> Siebold & Zucc.	VU	VU										北海道・本州・四国・九州			○
マタタビ	シマサルナシ※	<i>Actinidia rufa</i> (Siebold & Zucc.) Planch. ex Miq.	VU	VU				○						本州・四国・九州・琉球			○
ツツジ	ホツツジ	<i>Elliottia paniculata</i> (Siebold & Zucc.) Hook. f.	VU	VU										北海道・本州・四国・九州			○
ツツジ	イワナシ	<i>Epigaea asiatica</i> Maxim.	EN	EN										北海道・本州			○
ツツジ	シヤクジヨウソウ	<i>Hypopitys monotropa</i> Crantz	EN	DD										北海道・本州・四国・九州			○
ツツジ	レンゲツツジ	<i>Rhododendron molle</i> (Blume) G. Don ssp. <i>japonicum</i> (A. Gray) K. Kron	EN	EN										本州・四国・九州			○
ツツジ	アケボノツツジ	<i>Rhododendron pentaphyllum</i> Maxim. var. <i>shikokianum</i> T. Yamaz.	NT	NT										本州 (紀伊半島)・四国			○
マチン	ヒメナエ	<i>Mitrasacme indica</i> Wight	CR	CR	VU									本州・四国・九州・琉球			○
マチン	アイナエ	<i>Mitrasacme pygmaea</i> R. Br.	VU	VU										本州・四国・九州・琉球			○
アカネ	キヌタソウ	<i>Galium kinuta</i> Nakai & H. Hara	VU	VU										本州・四国・九州			○
アカネ	シチヨウゲ※	<i>Leptodermis pulchella</i> Yatabe	NT	NT	NT									本州 (紀伊半島)・四国			○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布		
			2022	2012		2020	環境変化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	生育環境	国内分布	紀南
アカネ	ヒロハコロンカ	<i>Mussaenda shikokiana</i> Makino	VU	VU		○		○					○	○	○	○
アカネ	サツマイナモリ	<i>Ophiorrhiza japonica</i> Blume	VU	VU		○							○	○	○	○
アカネ	シラタマカズラ※	<i>Psychotria serpens</i> L.	VU	VU									○	○	○	○
アカネ	オオキヌタンウ	<i>Rubia chinensis</i> Regel & Maack	VU	VU									○	○	○	○
アカネ	クルマバアカネ	<i>Rubia cordifolia</i> L. var. <i>lancifolia</i> Regel	NT	NT									○	○	○	○
アカネ	ヤマトグサ	<i>Theligonum japonicum</i> Okubo & Makino	EN	EN		○							○	○	○	○
リンドウ	ムラサキセンブリ	<i>Swertia pseudochinensis</i> H. Hara	VU	VU	NT	○							○	○	○	○
リンドウ	イヌセンブリ	<i>Swertia tosaensis</i> Makino	VU	VU	VU	○							○	○	○	○
キョウチクトウ	チョウジンソウ	<i>Amsonia elliptica</i> (Thunb.) Roem. & Schult.	EN	EN	NT	○		○					○	○	○	○
キョウチクトウ	イケマ	<i>Cynanchum caudatum</i> (Miq.) Maxim.	NT	NT		○								○	○	○
キョウチクトウ	キジョラン	<i>Marsdenia tomentosa</i> C. Morren & Decne.	NT	NT		○								○	○	○
キョウチクトウ	チョウジカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i> (Siebold & Zucc.) Nakai var. <i>majus</i> (Nakai) Ohwi	EN	EN		○							○	○	○	○
キョウチクトウ	フナバラソウ	<i>Vincetoxicum atratum</i> (Bunge) C. Morren & Decne.	VU	VU	VU	○							○	○	○	○
キョウチクトウ	タチカモメツル	<i>Vincetoxicum glabrum</i> (Nakai) Kitag.	NT	NT		○								○	○	○
キョウチクトウ	クサナギオゴケ	<i>Vincetoxicum katoi</i> (Ohwi) Kitag.	EN	EN	VU	○							○	○	○	○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県			国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020		環境悪化	採取採採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性			希少性	紀北
キョウチクトウ	スズサイコ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i> Kitag.	NT	NT	NT	○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
ムラサキ	サフルリソウ	<i>Ancystrocarya japonica</i> Maxim.	CR	CR		○						○	山地	本州・四国・九州	○	
ムラサキ	マルバチシャノキ	<i>Ehretia dicksonii</i> Hance	NT	NT		○						○	海岸・林縁	本州・四国・九州・琉球	○	
ムラサキ	スナビキソウ	<i>Heliotropium japonicum</i> A. Gray	EX	EX		○						○	海浜	北海道・本州・九州	○	
ムラサキ	ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i> Siebold & Zucc.	EX	EX	EN	○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	
ヒルガオ	ノアサガオ※	<i>Ipomoea indica</i> (Burm.) Merr.	EN	EN		○						○	海岸	本州・四国・九州・琉球	○	
ナス	メジロホオズキ	<i>Lycianthes biflora</i> (Lour.) Bitter	VU	VU		○						○	海岸・林縁	本州・四国・九州・琉球	○	
ナス	ヤマホオズキ	<i>Physalisstrum chamaesarachoides</i> (Makino) Makino	VU	VU	EN	○						○	山地・渓谷	本州・四国・九州	○	
ナス	アオホオズキ	<i>Physalisstrum japonicum</i> (Franch. & Sav.) Honda	EN	EN	VU	○						○	山地・林内	本州・四国・九州	○	
ナス	ハシリドコロ	<i>Scopolia japonica</i> Maxim.	NT	NT		○							林内	本州・四国・九州	○	
ナス	マルバハダカホオズキ	<i>Tubocapsicum anomalum</i> (Franch. & Sav.) Makino var. <i>obtusum</i> Makino	CR	CR		○						○	海岸	本州・四国・九州・琉球	○	
モクセイ	シオジ	<i>Fraxinus platypodo</i> Oliv.	VU	VU		○						○	山地	本州・四国・九州	○	
イワタバコ	シシラン	<i>Lysionotus pauciflorus</i> Maxim.	CR	CR	VU	○						○	樹上着生	本州・四国・九州	○	
イワタバコ	イワギリソウ	<i>Opithandra primuloides</i> (Miq.) B. L. Burt	CR	CR	VU	○						○	樹上着生	本州・四国・九州	○	
オオバコ	マルバナソウトウガラシ	<i>Deinostema adenocaulum</i> (Maxim.) T. Yamaz.	EN	EN	VU	○						○	湿地	本州・四国・九州	○	

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取採	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
オオバコ	オオアブノメ	<i>Gratiola japonica</i> Miq.	EX	EX	VU	○	○					湿地	本州・九州		○
オオバコ	シソクサ	<i>Linnophila chinensis</i> (Osbeck) Merr. <i>ssp. aromatica</i> (Lam.) T. Yamaz.	VU	VU		○	○					湿地	本州・四国・九州・琉球		○
オオバコ	ウンラン	<i>Linaria japonica</i> Miq.	EX	EX		○	○					海浜	北海道・本州		○
オオバコ	ハマクワガタ	<i>Veronica javanica</i> Blume	EN	EN	VU	○	○					海浜	本州・四国・九州・琉球		○
オオバコ	ホンバヒメトラノオ※	<i>Veronica linariifolia</i> Pall. ex Link	CR	CR	EN	○	○					草地	本州・四国・九州		○
オオバコ	クワガタソウ (コクワガタ)	<i>Veronica miqueliana</i> Nakai	VU	VU		○	○					林内	本州・四国・九州		○
オオバコ	イヌノフグリ	<i>Veronica polita</i> Fr. <i>ssp. lilacina</i> (T. Yamaz.) T. Yamaz.	DD	VU	VU	○	○					路傍	本州・四国・九州・琉球		○
オオバコ	カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i> Wall.	NT	NT	NT	○	○					湿地・河川敷	本州・四国・九州・琉球		○
オオバコ	ナンゴククワイソウ	<i>Veronicastrum japonicum</i> (Nakai) T. Yamaz. <i>var. australe</i> (T. Yamaz.) T. Yamaz.	EX	EX	VU							草地	本州・四国・九州		○
オオバコ	キノクニスズカケ※	<i>Veronicastrum tagawae</i> (Ohwi) T. Yamaz.	EN	EN	VU	○	○				●	林内・林縁	紀伊半島南部 (和歌山県)		○
ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	<i>Scrophularia buergeriana</i> Miq.	CR	CR	VU	○	○					草地	本州・四国・九州		○
ゴマノハグサ	オオヒナノウスツボ	<i>Scrophularia kakuensis</i> Franch.	VU	VU		○	○					山地・林縁	北海道・本州・四国・九州		○
アゼナ	シンバウリクサ	<i>Vandellia setulosa</i> (Maxim.) T. Yamaz.	NT	NT		○	○					草地	本州 (紀伊半島)・四国・ 奄美		○
シン	カワミドリ	<i>Agastache rugosa</i> (Fisch. & C. A. Mey.) Kuntze	VU	VU		○	○					草地・林縁	本州・四国・九州		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採集	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
シソ	オウギカズラ	<i>Ajuga japonica</i> Miq.	NT	NT		○						山地・林縁	本州・四国・九州	○	○
シソ	ジュウニヒトエ	<i>Ajuga nipponensis</i> Makino	EN	EN		○						林縁・林内	本州・四国	○	
シソ	ツルカコソウ (ケブカツルカコソウ)	<i>Ajuga shikotanensis</i> Miyabe & Tatew.	EN	EN	VU	○						海岸・草地	本州	○	
シソ	ニシキゴロモ	<i>Ajuga yezoensis</i> Maxim. ex Franch. & Sav.	EN	EN		○						山地・林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
シソ	トサムラサキ	<i>Callicarpa shikokiana</i> Makino	EN	EN	VU					○		林内	本州・四国・九州	○	○
シソ	タニジャコウソウ	<i>Chelonopsis longipes</i> Makino	VU	VU	NT	○						山地・林内	本州・四国・九州	○	○
シソ	ジャコウソウ	<i>Chelonopsis moschata</i> Miq.	VU	NT		○						山地・林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
シソ	シモバシラ	<i>Keiskea japonica</i> Miq.	EN	EN		○						林縁	本州・四国・九州	○	
シソ	マネキブサ	<i>Loxocalyx ambiguus</i> (Makino) Makino	VU	VU	NT	○						林内	本州・四国・九州	○	○
シソ	ヒメシロネ	<i>Lycopus maackianus</i> (Maxim. ex Herder) Makino	EN			○						湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
シソ	オチフシ※	<i>Meehania montis-koyae</i> Ohwi	EX	CR	VU	○				●		林内	本州 (近畿地方)	○	○
シソ	ラショウモンカズラ	<i>Meehania urticifolia</i> (Miq.) Makino	VU	VU		○						林内	本州・四国・九州	○	○
シソ	ヒメハッカ	<i>Mentha japonica</i> (Miq.) Makino	CR	CR	NT	○				○		湿地	北海道・本州	○	○
シソ	ヤマシソ	<i>Mosla japonica</i> (Benth. ex Oliv.) Maxim. var. <i>japonica</i>	EN	EN	NT	○						林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
シソ	トラノオシソ	<i>Perilla hirtella</i> Nakai	EN	EN		○						海岸・林縁	本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
シン	スズコウジュ	<i>Perillula reptans</i> Maxim.	VU	VU		○						山地	本州・四国・九州・琉球		○
シン	ミズネコノオ	<i>Pogostemon stellatus</i> (Lour.) Kuntze	NT	NT	NT	○						湿地	本州・四国・九州・奄美諸島		○
シン	ミゾコウジュ	<i>Salvia plebeia</i> R. Br.	VU	VU	NT	○						湿地・河川	本州・四国・九州・琉球		○
シン	ヒメナミキ	<i>Scutellaria dependens</i> Maxim.	EN	EN		○						湿地	北海道・本州・四国・九州		○
シン	コナミキ	<i>Scutellaria guillemii</i> A. Gray	CR	CR	VU	○						林内	本州・四国・九州・琉球		○
シン	シンバツツナミ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> Koidz.	NT	NT		○						林縁	本州・四国・九州		○
シン	ヤマツツナミソウ	<i>Scutellaria pekinensis</i> Maxim. var. <i>transitira</i> (Makino) H. Hara	EN	EN		○						林内	北海道・本州・四国・九州		○
シン	ミヤマミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> Makino	VU	VU		○						山地・溪谷	本州・四国・九州		○
ハエドクソウ	スズメノハコベ	<i>Microcarpaea minima</i> (K. D. Koenig ex Retz.) Merr.	EN	EN	EN	○						湿地	本州・四国・九州・琉球		○
ハマウツボ	オオナンバンギセル	<i>Aeginetia sinensis</i> G. Beck.	VU	VU		○				○		草地	本州・四国・九州		○
ハマウツボ	ゴマクサ	<i>Centranthera cochinchinensis</i> (Lour.) Merr. ssp. <i>lutea</i> (H. Hara) H. Hara	EN	EN	VU	○						湿地	本州・四国・九州・琉球		○
ハマウツボ	オオマコナ	<i>Melanopyrum macranthum</i> Murata	CR	CR		○						林内	本州 (和歌山県)		○
ハマウツボ	ハマウツボ	<i>Orobanche coerulescens</i> Stephan ex Willd.	EN	EN	VU	○						海浜	北海道・本州・四国・九州・琉球		○
ハマウツボ	シオガマギク	<i>Pedicularis resupinata</i> L. ssp. <i>oppositifolia</i> (Miq.) T. Yamaz.	VU			○						草地	北海道・本州・四国・九州		○
ハマウツボ	キヨスミウツボ	<i>Phacellanthus tubiflorus</i> Siebold & Zucc.	EN	EN		○						山地・林内	北海道・本州・四国・九州		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布	
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採集	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	生育環境	国内分布
ハマウツボ	ヒキヨモギ	<i>Siphonostegia chinensis</i> Benth. ex Hook. & Arn.	EN	EN									北海道・本州・四国・九州・琉球	○	○
ハマウツボ	オオヒキヨモギ	<i>Siphonostegia laeta</i> S. Moore	NT	NT	VU	○							本州・四国	○	○
タヌキモ	ノタヌキモ	<i>Utricularia aurea</i> Lour.	EN	EN	VU	○	○						本州・四国・九州・琉球	○	○
タヌキモ	ミミカキグサ	<i>Utricularia bifida</i> L.	VU	VU		○							本州・四国・九州・琉球	○	○
タヌキモ	ホザキノミミカキグサ	<i>Utricularia caerulea</i> L.	EN	EN		○	○						北海道・本州・四国・九州・琉球	○	○
タヌキモ	フサタヌキモ	<i>Utricularia dimorphantha</i> Makino	EX	EX	EN	○							本州	○	○
タヌキモ	ミカワタヌキモ (イトタヌキモ)	<i>Utricularia exoleta</i> R. Br.	EN	EN	VU	○	○						本州・九州・琉球	○	○
クマツツラ	イワダレンソウ	<i>Phyla nodiflora</i> (L.) Greene	EN	EN		○							本州・四国・九州・琉球	○	○
クマツツラ	クマツツラ	<i>Verbena officinalis</i> L.	NT	NT		○							本州・九州・琉球	○	○
モチノキ	ツゲモチ*	<i>Ilex goshiensis</i> Hayata	NT	NT						○			本州 (紀伊半島)・四国・九州・琉球	○	○
キキョウ	ツルギキョウ	<i>Campanumoea javanica</i> (Blume) Hook. f. & Thomson var. <i>japonica</i> (Makino) Lammers	EN	VU	VU	○	○						本州・四国・九州	○	○
キキョウ	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorus</i> (Jacq.) A. DC.	VU	NT	VU	○	○						北海道・本州・四国・九州・奄美	○	○
ミツガシワ	ヒメシロアサザ*	<i>Nymphoides coreana</i> (H. Lévl.) H. Hara	EN	EN	VU	○	○						本州・四国・九州・琉球	○	○
ミツガシワ	ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i> (L.) Kuntze.	VU	VU	NT	○	○						本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
ミツガシワ	アサザ	<i>Nymphoides peltata</i> (S. G. Gmel.) Kuntze	CR	EN	NT	○	○					池沼	本州・四国・九州		○
キク	ヒロハテイシヨウソウ	<i>Ainslia cordifolia</i> Franch. & Sav. var. <i>maruoi</i> (Makino) Makino ex Kitam.	EN	EN								草地	本州・四国		○
キク	ホンパンノヤマハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. & Hook. f. var. <i>angustifolia</i> (Franch. & Sav.) Hayata	NT	NT		○	○					草地	本州・四国・九州		○
キク	フクド	<i>Artemisia fukudo</i> Makino	CR	EN	NT	○	○					塩性湿地	本州・四国・九州		○
キク	ミヤマヨメナ	<i>Aster savatieri</i> Makino	VU	VU		○	○					林内	本州・四国・九州		○
キク	ホンパンギク※	<i>Aster sohayakiensis</i> Koidz.	EN	EN	VU	○	○					岩上・岩隙地	本州（紀伊半島南部）		○
キク	クルマギク※	<i>Aster tenuipes</i> Makino	EN	EN	EN	○	○					岩上・岩隙地	本州（和歌山県南部）		○
キク	オケラ	<i>Atractylodes ovata</i> (Thunb.) DC.	EN	EN		○	○					林縁	本州・四国・九州		○
キク	キノクニシオギク (キイシオギク) ※	<i>Chrysanthemum kinokuniense</i> (Shimot. & Kitam.) H. Ohashi & Yonek.	NT	NT		○	○					海岸	本州（紀伊半島南部）		○
キク	モリアザミ	<i>Cirsium dipsacolepis</i> (Maxim.) Matsum.	EN	EN		○	○					草地	本州・四国・九州		○
キク	イズハハコ	<i>Conyza japonica</i> (Thunb.) Less.	NT	NT	VU	○	○					岩上・岩隙地	本州・四国・九州・琉球		○
キク	ヨツバヒヨドリ	<i>Eupatorium glehnii</i> F. Schmidt ex Trautv.	EN	EN		○	○					林縁	北海道・本州・四国・九州		○
キク	ヤマヒヨドリバナ	<i>Eupatorium variabile</i> Makino	EN	EN								林縁	本州・四国・九州・琉球		○
キク	アキノハハコグサ	<i>Graphium hypoleucum</i> (DC.) Hilliard & B. L. Burt	CR	DD	EN	○	○					山地	本州・四国・九州		○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採採	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
キク	スイラン	<i>Holeileion krameri</i> (Franch. & Sav.) Kitam.	NT	NT		○						湿地	本州・四国・九州	○	○
キク	オグルマ	<i>Inula britannica</i> L. ssp. <i>japonica</i> (Thunb.) Kitam.	EN	EN		○						草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
キク	カセンソウ	<i>Inula salicina</i> L. var. <i>asiatica</i> Kitam.	VU	VU		○						草地	北海道・本州・四国・九州	○	
キク	ホンバニガナ	<i>Ixeridium beauverdianum</i> (H. Lév.) Springate	CR	CR	EN	○						草地	本州・四国・九州		○
キク	ドロニガナ※	<i>Ixeridium dentatum</i> (Thunb.) Tzvelev ssp. <i>kitayamense</i> (Murata) Pak & Kawano	NT	NT	VU	○					○	岩上・岩隙地	本州 (紀伊半島南部)	○	
キク	タカサゴソウ	<i>Ixeris chinensis</i> (Thunb.) Nakai ssp. <i>strigosa</i> (H. Lév. & Vaniot) Kitam.	VU	VU	VU	○						草地	本州・四国・九州	○	○
キク	ノニガナ	<i>Ixeris polycephala</i> Cass.	EN	EN		○						草地	本州・四国・九州	○	
キク	ハマニガナ	<i>Ixeris repens</i> (L.) A. Gray	EN	EN	EN	○						海浜	北海道・本州・四国・九州・琉球		○
キク	テバコモミシガサ	<i>Japonicalia tebakaensis</i> (Makino) C. Ren & Q. E. Yang	NT	NT		○						山地・林内	本州・四国・九州	○	○
キク	マルバダケブキ	<i>Ligularia dentata</i> (A. Gray) H. Hara	CR	CR		○						林内	本州・四国		○
キク	オオハマグルマ※	<i>Melanthera robusta</i> (Makino) K. Ohashi & H. Ohashi	EN	EN		○						海岸	本州 (紀伊半島)・四国・九州・琉球	○	
キク	ヒメコウモリソウ	<i>Parasenecio shikokianus</i> (Makino) H. Koyama	CR	CR	VU	○						山地	本州 (紀伊半島)・四国	○	○
キク	カシワバハグマ	<i>Pertya robusta</i> (Maxim.) Makino	NT	NT		○						林縁	本州・四国・九州	○	
キク	ミヤコアザミ	<i>Saussurea maximowiczii</i> Herder	EN	EN		○						草地	本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012		2020	環境変化	採取	特殊環境	特殊生態	特殊分布			固有性	希少性
キク	ヒメヒゴタイ	<i>Saussurea pulchella</i> (Fisch. ex Hornem.) Fisch.	EN	EN	VU	○						草地	北海道・本州・四国・九州	○	
キク	キクアザミ	<i>Saussurea ussuriensis</i> Maxim.	EN	EN		○						草地	本州・九州	○	
キク	タイキンギク	<i>Senecio scandens</i> Buch.-Ham. ex D. Don	NT	NT	NT	○		○				海岸・草地	本州（紀伊半島南部）・四国	○	○
キク	タムラソウ	<i>Serratula coronata</i> L. ssp. <i>insularis</i> (Ilijin) Kitam.	VU	VU	VU	○						山地・草地	本州・四国・九州	○	○
キク	クマノギク※	<i>Sphagneticola calendulacea</i> (L.) Pruski	VU	VU	VU	○						草地	本州・四国・九州・琉球	○	○
キク	ハバヤマボクチ	<i>Synurus excelsus</i> (Makino) Kitam.	EN	EN	EN							草地	本州・四国・九州	○	
キク	サワオグルマ	<i>Tephrosia pierotii</i> (Miq.) Holub	VU	VU	VU	○		○				湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
キク	ウラギク	<i>Tripolium pannonicum</i> (Jacq.) Dobrocz.	VU	VU	VU	○		○				塩性湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
キク	オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i> L. ssp. <i>sibiricum</i> (Patrin ex Widder) Greuter	EX	EX	VU	○						路傍	北海道・本州・四国・九州・琉球	○	○
スイカズラ	ナベナ	<i>Dipsacus japonicus</i> Miq.	VU		VU	○						山地	本州・四国・九州	○	
スイカズラ	ウスバヒヨウタンボク	<i>Lonicera cerasina</i> Maxim.	NT	NT	VU	○						林内・林縁	本州・四国・九州	○	
スイカズラ	オミナエシ	<i>Patrinia scabiosaefolia</i> Link	NT	NT	NT	○		○				草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
スイカズラ	キンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> (Miq.) Miq. var. <i>palmata</i> (Maxim.) H. Hara	EN	EN	EN	○						山地	本州・九州	○	○
スイカズラ	マツムシソウ	<i>Scabiosa japonica</i> Miq. var. <i>japonica</i>	EN	EN	EN	○		○				草地	北海道・本州・四国・九州	○	
スイカズラ	タニウツギ	<i>Weigela hortensis</i> (Siebold & Zucc.) K. Koch	DD	CR								山地・林縁	北海道・本州	○	○

植物 (維管束植物) の一覧表

科名	和名	学名	和歌山県		国	選定理由						国内分布		県内分布		
			2022	2012		2020	環境悪化	採取採採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性	生育環境	国内分布	紀北
スイカズラ	イワツクバネウツギ	<i>Zabelia integrifolia</i> (Koidz.) Makino ex Ikuse & S. Kuros.	CR	CR	VU	○	○							本州・四国・九州		○
ウコギ	ミヤマウコギ	<i>Eleutherococcus trichodon</i> (Franch. & Sav.) H. Ohashi	EN	EN		○								本州・四国		○
セリ	ノダケ	<i>Angelica decursiva</i> (Miq.) Franch. & Sav.	NT	NT		○								本州・四国・九州		○
セリ	アシタバ	<i>Angelica keiskei</i> (Miq.) Koidz.	DD	NT		○								本州・伊豆諸島・小笠原		○
セリ	カワセンゴゴ*	<i>Angelica tenuisecta</i> (Makino) Makino var. <i>tenuisecta</i>	VU	VU	VU			○						本州 (紀伊半島南部)		○
セリ	ミシマサイコ	<i>Bupleurum stenophyllum</i> (Nakai) Kitag.	CR	CR	VU			○						本州・四国・九州		○
セリ	カワラボウフウ	<i>Kitagawia terebinthacea</i> (Fisch. ex Trevir.) Pimenov	VU	VU		○								北海道・本州・四国・九州		○
セリ	ボタンボウフウ	<i>Peucedanum japonicum</i> Thunb. var. <i>japonicum</i>	CR	CR		○								本州・四国・九州・琉球		○
セリ	キイウマノミツバ*	<i>Sanicula lamelligera</i> Hance var. <i>wakayamensis</i> (Masam.) Murata	CR	CR	CR							●		本州 (和歌山県)		○
セリ	ムカゴニンジン	<i>Stium ninsi</i> L.	VU	VU				○						北海道・本州・四国・九州		○
セリ	カノツメソウ	<i>Spuriopimpinella calycina</i> (Maxim.) Kitag.	CR											本州・四国・九州		○

● 主な植物（維管束植物）の解説 ●

ヒモヅル *Lycopodium casuarinoides* Spring ヒカゲノカズラ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	---------	----	------	---------	---	-------------

主茎が伸びてつる状となり樹幹や枝に絡みついて生育する常緑のシダ植物。山地の明るい林内や林縁部に生育する。葉は先端が糸状に伸び、茎に圧着する。胞子のう穂は枝端につく。有田川町に記録がある。絶滅要因として、元々、産地が局限されており、生育地の環境変化によって絶滅したと考えられる。

執筆者 (植物・植物群落専門部会)

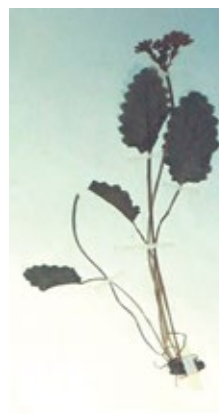
参考文献・情報

- 1 海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ. 475pp. 学研プラス, 東京.
- 2 中畠章和・瀬戸 剛・佐久間大輔 編. 1997. 真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録. 118pp. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集. 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 3 小川由一. 1952. ヒモヅルは紀州にも産する. 植物分類・地理. 14 (5) : 163-164.
- 4 山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改定委員会植物部会. 2010. 和歌山県絶滅危惧植物目録 (1) シダ植物門. 和歌山県立自然博物館館報, (28) : 41-55.

サクラソウ *Primula sieboldii* E. Morren サクラソウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	---------	----	------	---------	---	------------

山地の湿った草地に生育する多年草。全体に白色の長い縮毛が生える。葉身は長卵形～卵状長楕円形で長い葉柄がある。花は4～5月、花茎の先に散形状につける。がくは筒状、花冠は紅紫色で花喉部は白い。高野町に記録がある。絶滅要因として、産地が局限されていたことに加えて、園芸目的の採取の他、乾燥化による生育環境の変化や他種の植物との競合が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

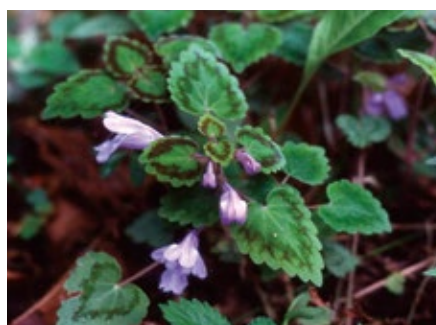
参考文献・情報

- 1 山本修平・中野玖美. 2007. 高野山植物目録. 77pp. ウイング, 和歌山. 写真: 山本修平提供

オチフジ *Meehania montis-koyae* Ohwi シソ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	---------	----	------	--------------	---	-------------

和歌山県北部と兵庫県に分布域が限られる小形の多年生草本。全体にカメムシ様の臭いがある。葉は小さく、長さ2～4 cm、三角状心形。4～5月、葉の上部に数個の赤紫色の花をつける。高野町に記録がある。絶滅要因として、極めて個体数が少なく、園芸用採取及び森林環境の改変が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 山本修平・中野玖美. 2007. 高野山植物目録. 77pp. ウイング, 和歌山. 写真: 山本修平提供

ヘゴ *Cyathea spinulosa* Wall. ex Hook. ヘゴ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	—
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

選定理由

海岸近くの湿度の高い林内に生育する木生のシダ植物。直立する茎は高さ 4 m に達する。葉身は 3 回羽状深裂。茎の上部に枯れた葉柄の基部が残る。茎は保水性があり、ヘゴ板として山野草栽培に用いられることから採取の対象となる。和歌山県は分布の限界にあたり、田辺市、那智勝浦町及びすさみ町に記録があるが、かつては新宮市にも分布していた。減少要因として、産地が局限されていることに加え、園芸目的の採取が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

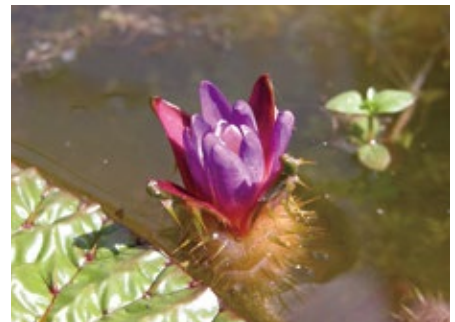
- 1 海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 I. 475pp. 学研プラス, 東京.
- 2 中嶋章和・瀬戸 剛・佐久間大輔 編. 1997. 真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録. 118pp. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集. 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 3 山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改定委員会植物部会. 2010. 和歌山県絶滅危惧植物目録 (1) シダ植物門. 和歌山県立自然博物館館報, (28) : 41-55.
写真: 瀧野秀二提供

オニバス *Euryale ferox* Salisb. スイレン科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

選定理由

水面に葉を広げて生活する一年生の浮葉植物。やや富栄養化した湖沼、ため池に生育する。鋭い刺が全体にあり、特に葉の両面脈上の刺は顕著。茎は塊状、葉は根生し、浮葉の直径は 0.3~1.5 m に達する。開花期は 8~9 月で、水中で自家受粉する閉鎖花と水面上で頂生する開放花とがある。種子は長期にわたり休眠するため発生する個体数の年変動が激しい。和歌山市、紀の川市及び田辺市に記録がある。減少要因として、ため池や池沼の管理の変化や放棄、水質汚濁が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 後藤岳志. 2008. オニバスの新産地. くろしお, (27), 13.
- 2 山元 晃. 1995. 和歌山県北部に見られるため池の水草. 和歌山県立自然博物館館報, (13) : 33-48.
写真: 和歌山県立自然博物館提供

タキユリ *Lilium speciosum* Thunb. var. *clivorum* S. Abe & T. Tamura ユリ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

選定理由

山地の岩崖に下垂して生育する多年生草本。葉は卵状披針形で長さ 10~18 cm、短い葉柄がある。花期は 8~9 月、白地に紅色の鹿の子状の斑点を持つ花被片が著しく反り返る。これまで長崎県及び四国からのみ記録されており、和歌山県は分布の東限にあたる。古座川町から記録があるが、産地が局限されており、個体数も極めて少なく、園芸目的の採取の恐れが非常に大きい。

執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司. 2015. 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 666pp. 平凡社, 東京.
- 2 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (4) 種子植物予報. 南紀生物, 56 (2) : 153-158.

ヤクシマアカシュスラン *Hetaeria yakusimensis* (Masam.) Ormerod ラン科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

選定理由

常緑樹林内に生える多年生草本。地下茎の節から発根し、地表面を匍匐する。花茎を合わせた草丈は10~25 cm、全体無毛、葉は倒卵形、互生するが放射状に集まってつく。表面に微突起がありビロード状で乾くと赤変する。白浜町及び新宮市に記録がある。減少要因として、園芸を目的とした採取が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 2 山本修平. 2013. 和歌山県絶滅危惧植物 (2) 種子植物予報. 南紀生物, 55 (2) : 131-136. 写真: 和歌山県立自然博物館提供

コウヤハリスゲ *Carex koyaensis* J. Oda & Nagam. カヤツリグサ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	-
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

選定理由

林内または林縁部の陽湿地に生育する。根茎が長く横走する小形の草本で、草丈10~20 cm、葉はやわらかく反曲し、幅1~2 mm、横断面はV字形または鋭3稜形。ハリガネスゲより少数花で、果実表皮細胞の構造が特徴的である。高野町に記録があるが、生育地及び個体数が極めて少ない。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 Oda, J. & Nagamasu, H. 2008. Two new species of *Carex* sect. *Capitellatae* (Cyperaceae) from Japan. *Acta Phytotax. Geobot.* 59 (1) : 55-66.
- 3 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (4) 種子植物予報. 南紀生物, 56 (2) : 153-158.
- 4 山本修平・中野玖美. 2007. 高野山植物目録. 77pp. ウイング, 和歌山. 写真: 和歌山県立自然博物館提供

ハイキビ *Panicum repens* L. イネ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	-
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

選定理由

海岸近くの砂地に長い地下茎を伸ばさせて群落状に生育する多年草。全体的に硬質で淡緑色、葉は線形、葉縁はゆるく内曲する。花序は長さ15~25 cm、小穂は淡緑白色で長さ約3 mm、狭卵状長楕円形で先が鋭頭になる。美浜町及び那智勝浦町に記録がある。産地が極めて少なく、海岸域の改変や護岸工事等によって、容易に絶滅の恐れがある。

執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 藤井伸二. 2007. 近畿地方におけるハイキビ2例目の産地. *分類*, 7 (1) : 39-42.
- 2 村田 源・山本修平. 2002. ハイキビ (イネ科) を和歌山県に記録する. *南紀生物*, 44 (2) : 123-124.

ヒメノボタン *Osbeckia chinensis* L. ノボタン科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

選定理由

日当たりの良い草地に生える多年生草本または半低木。茎は直立し、高さ 10~60 cm、4 稜があり、伏剛毛を持つ。葉は対生、短い葉柄があり、線形~披針形、全縁で先は鈍形か鋭形、長さ 2~6 cm、幅 3~15 cm、よく目立つ 3~5 本の平行脈がある。花期は 8~9 月、紅紫色、稀に白色の花を 2~10 個つける。新宮市に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取及び草地の管理放棄に伴う植生遷移が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 2 内藤麻子. 2019. 和歌山県産野生植物分布資料 (1). 和歌山県立自然博物館館報, (37): 75-85. 写真: 瀧野秀二提供

ソハヤキミズ *Pilea swinglei* Merr. イラクサ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

選定理由

湿った岩上等に生育する小形で軟弱な一年生草本。草丈は 4~12 cm、葉は広卵形で 3 脈が目立つ。葉身の基部は円形~やや心形、鈍鋸歯がある。5~10 mm の花柄を持つ点が類似種のコケミズとの区別点である。新宮市に記録がある。産地が局限されており、個体数も極めて少ない。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 2 内藤麻子・瀧野秀二・谷関俊男・高須英樹・藤井伸二. 2015. 和歌山県におけるソハヤキミズ (イラクサ科) の再発見と新産地. 南紀生物, 57 (2): 115-116. 写真: 和歌山県立自然博物館提供

アサノハカエデ *Acer argutum* Maxim. ムクロジ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------------	----	------	---	---	---

選定理由

渓谷林に生育する落葉小高木。凹んだ葉脈の様子がアサの葉に似ることから和名がある。葉は対生で掌状、春に開花し、秋に翼果をつけるが、大形個体が少なく、開花する成熟個体を確認することができていない。日本固有種で、和歌山県の分布は本州南限となる。有田川町及び田辺市に記録があるが、産地が局限されている上、個体数が極めて少ない。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 内藤麻子. 2021. 和歌山県産野生植物分布資料 (3). 和歌山県立自然博物館館報, (39): 67-74.
- 2 岡本省吾. 1941. 和歌山演習林植物誌. 京都帝国大学演習林報告, (14): 1-220. 写真: 和歌山県立自然博物館提供

タチバナ *Citrus tachibana* (Makino) Tanaka ミカン科

県カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR) 旧県 2012 絶滅危惧 I A 類 (CR) 国 準絶滅危惧 (NT)

高さ 3~5 m の常緑小高木で、栽培種のミカンに似る。沿海地の林縁等に生育する。若枝は緑色で 2~3 稜があり、鋭い棘を持つ。葉は互生、複葉であるが側小葉が退化し、単葉状となる。花期は 5~6 月、花は両性で花弁は 5 枚、白色で芳香がある。秋に黄熟する果実は扁平な球形で長さ 2~2.5 cm、直径 2.5~3 cm で、多汁であるが生食は不可。みなべ町及び白浜町の記録の他、県内数箇所から分布情報があるが、本来の自生かどうか定かではない。減少要因として、園芸用採取及び森林伐採が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 2 内藤麻子. 2020. 和歌山県産野生植物分布資料 (2). 和歌山県立自然博物館館報, (38): 51-62.
- 3 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山. 写真: 瀧野秀二提供

イソフサギ *Blutaparon wrightii* (Hook. f. ex Maxim.) Mears ヒユ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR) 旧県 2012 絶滅危惧 I A 類 (CR) 国 -

海岸の岩場に生える多肉植物で、茎が分枝してマット状になる。満潮時には波をかぶるような岩上の隙間に生育する。葉は小さく、多肉質で対生し、長さ約 6 mm、幅約 3 mm の楕円形。花は 10~12 月に開花し、淡紅色を帯び、花床は海綿状に膨れる。胞果は楕円形で裂開せず、宿存するがくに包まれたまま花床と共に落ちる。すさみ町に記録がある。生育地が局限されている上、個体数が少なく、海岸の改変による個体数の減少が著しい。

執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.

シマユキカズラ *Hydrangea viburnoides* (Hook. f. & Thomson) Y. De Smet & Granados アジサイ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR) 旧県 2012 絶滅危惧 I B 類 (EN) 国 -

樹幹に巻きついて生育する、つる性常緑の木本で、葉は対生し、長さ 10~15 cm、幅 3.5~6 cm で革質、長楕円形から倒卵形で全縁。花は 8~9 月に咲き、両性で装飾花はない。田辺市 1 箇所記録があるが、和歌山県以外では奄美大島以南に分布しており、著しい隔離分布を示す。個体数も極めて少ない。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 瀬戸 剛・山元 晃. 1981. 紀伊半島のシマユキカズラ. 南紀生物, 23 (1): 1-4. 写真: 瀧野秀二提供

ホソバヒメトラノオ *Veronica linariifolia* Pall. ex Link オオバコ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	-----------------

選定理由

火入れや採草によって植生管理された山地の草地に生育する多年生草本。茎は直立して高さ 30~70 cm に達し、短い毛が散生する。下部の葉は対生し、上部の葉は互生する。広線形または線状披針形で先は尖る。花期は 8~10 月、細い穂状花序に青紫の花を密につける。近畿地方では紀美野町・有田川町以外、大阪府のごく一部に生育するのみである。産地が局限されており、草地管理の変化も個体数の減少に大きく影響を与えている。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 2 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
 - 3 山本修平. 2015. 和歌山県絶滅危惧植物 (5) 種子植物予報. 南紀生物, 57 (1) : 57-62.
- 写真: 松本伸次提供

キイウマノミツバ *Sanicula lamelligera* Hance var. *wakayamensis* (Masam.) Murata セリ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	絶滅危惧 I A 類 (CR)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	-----------------

選定理由

小形の多年生草本で、高さ約 10 cm。湿度と照度が保たれた常緑樹林内の林床に生育する。葉は 3 小葉で、側小葉は深裂しない。花期は 4~5 月、茎の先に暗紫色の花を 2~3 個つける。ヒメウマノミツバは側小葉が深裂するので識別される。海南市及び紀の川市に記録がある。産地が局限されており、園芸目的の採取も個体数の減少に大きく影響している。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 2 谷口丈夫. 1971. キイウマノミツバ. 南紀生物, 13 (1) : 20-22.
 - 3 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
- 写真: 松本伸次提供

リュウビнтаイ *Angiopteris lygodifolia* Rosenst. リュウビнтаイ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	—
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

選定理由

葉は長さ 2 m に達する大形のシダ植物。沿岸域の湿度・照度が保たれた林内に生育する。根茎は太い塊状、葉柄基部の托葉から増殖が可能。葉身は 2 回羽状複葉、小羽片は 15~25 対、披針形、浅い鋸歯縁があり、緑のくぼみから偽脈がのびる。5~15 個から成る胞子のう群が葉縁近くに一列に並ぶ。紀南地域 (白浜町、すさみ町、串本町、那智勝浦町、太地町及び新宮市) に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取及び森林伐採が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ. 475pp. 学研プラス, 東京.
 - 2 榎本 敬・狩山俊悟. 1999. 高等植物. 紀伊大島植物目録. 11-71. 京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所, 串本.
 - 3 内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改訂委員会植物部会. 2012. 那智山維管束植物目録(予報). 和歌山県立自然博物館館報, (30): 58-70.
 - 4 中嶋章和・瀬戸 剛・佐久間大輔 編. 1997. 真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録. 118pp. 大阪府立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集. 大阪府立自然史博物館, 大阪.
 - 5 山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改訂委員会植物部会. 2010. 和歌山県絶滅危惧植物目録(1)シダ植物門. 和歌山県立自然博物館館報, (28): 41-55.
- 写真: 和歌山県立自然博物館提供

ユノミネシダ <i>Histiopteris incisa</i> (Thunb.) J. Sm. コバノイシカグマ科						
県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	—

選定理由

やや明るい林内又は林縁部に生育する。源泉地や鉱山跡等に特異的に見られることが多い。1 対の羽片が伸長した後、基部の新芽が成長を繰り返し、大形になる常緑のシダ植物である。葉身は 2 回羽状複葉、鮮緑色、裏面は粉白色、葉縁はわずかに裏面に巻く。胞子のう群は葉縁について長く伸びる。和名は田辺市本宮町湯峯で発見されたことによるもので、発見地は国指定天然記念物「ユノミネシダ自生地」となっている。紀南地域(由良町、田辺市、上富田町、那智勝浦町及び新宮市)に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、森林伐採が挙げられる。



執筆者(植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ. 475pp. 学研プラス, 東京.
 - 2 中嶋章和・瀬戸 剛・佐久間大輔 編. 1997. 真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録. 118pp. 大阪府立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集. 大阪府立自然史博物館, 大阪.
 - 3 山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改訂委員会植物部会. 2010. 和歌山県絶滅危惧植物目録(1)シダ植物門. 和歌山県立自然博物館館報, (28): 41-55.
- 写真: 瀧野秀二提供

テツホシダ <i>Thelypteris interrupta</i> (Willd.) K. Iwats. ヒメシダ科						
県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	—

選定理由

湿地に群生する亜熱帯性のシダ植物。根茎は黒色で長く這う。葉身は 1 回羽状複葉、羽片は硬い草質で羽状に浅~中裂する。鱗片は葉柄の基部にまばらにつく。胞子のう群は辺縁につき、包膜は円腎形で縁に毛がある。和歌山県では夏緑性で分布の限界にあたる。和歌山市(友ヶ島)の自生地は県指定天然記念物「深蛇池湿地帯植物群落」、新宮市(浮島の森)の自生地は国指定天然記念物「新宮藺沢浮島植物群落」である。和歌山市、串本町、那智勝浦町及び新宮市に記録がある。減少要因として、水質汚濁や湿地の乾燥化に伴う植生遷移が挙げられる。



執筆者(植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ. 475pp. 学研プラス, 東京.
- 2 中嶋章和・瀬戸 剛・佐久間大輔 編. 1997. 真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録. 118pp. 大阪府立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集. 大阪府立自然史博物館, 大阪.

参考文献
・情報

- 3 山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改定委員会植物部会. 2010. 和歌山県絶滅危惧植物目録 (1) シダ植物門. 和歌山県立自然博物館館報, (28): 41-55.
写真: 瀧野秀二提供

キクシノブ *Humata repens* (L. f.) Kuhn シノブ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

選定理由

小形で常緑性のシダ植物。岩上や樹上に着生する。根茎は長く這い、鱗片が密生する。葉身は硬質で長三角形、無毛で2回羽状に深裂する。葉縁の胞子のう群は裂片凹部につき、ほぼ円形の包膜を持つ。紀南地域(日高川町、田辺市、古座川町及び新宮市)に記録がある。園芸目的の採取によって産地及び個体数の減少が著しい。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 海老原淳. 2017. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507pp. 学研プラス, 東京.
2 中嶋章和・瀬戸 剛・佐久間大輔 編. 1997. 真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録. 118pp. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集. 大阪市立自然史博物館, 大阪.
3 山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改定委員会植物部会. 2010. 和歌山県絶滅危惧植物目録 (1) シダ植物門. 和歌山県立自然博物館館報, (28): 41-55.
写真: 谷関俊男提供

コウヤカンアオイ *Asarum kooyanum* Makino var. *kooyanum* ウマノスズクサ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	-----------------

選定理由

小形の多年生草本。山地の林下や林縁の日陰等に生育する。葉は楕円状卵形で先は広く尖り、葉の斑紋は通常見られない。花期は4~5月で花筒は鐘形、花被片は短く筒部の1/2、やや薄質で、筒内の縦線は9~11程度。筒の開口部は大きい、口環の発達は著しくない。高野山を模式産地とする紀伊半島固有種である。かつらぎ町、高野町及び田辺市に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取や森林伐採が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
2 木下慶二. 1970. 和歌山県におけるカンアオイ属とその分布についてⅡ. 南紀生物, 12 (2): 45-46.
3 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
4 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
5 山本修平・中野玖美. 2007. 高野山植物目録. 77pp. ウイング, 和歌山.
写真: 瀧野秀二提供

リュウノヒゲモ *Potamogeton pectinatus* L. ヒルムシロ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	------------

流れのある水路に生育する沈水植物。水中茎は上部で分枝し、沈水葉は長さ約 15 cm、幅約 1 mm、全縁で、先は鋭頭または鈍頭である。夏に小さな塊茎 (4~8 mm) を土中に形成する。紀北地域 (和歌山市、紀の川市及び岩出市) に記録がある。減少要因として、水路の改修及び水質汚濁が挙げられる。

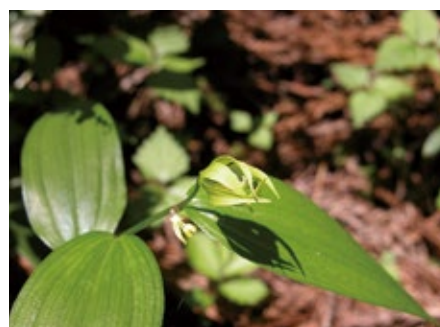
執筆者 (植物・植物群落専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 2 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (4) 種子植物予報. 南紀生物, 56 (2) : 153-158.

キバナチゴユリ *Disporum lutescens* (Maxim.) Koidz. イヌサフラン科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	-
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

小形の多年草で、高さ 20~30 cm、全体無毛、下部は膜質の葉鞘で包まれ、上部はしばしば分枝する。葉は長楕円形で長さ約 10 cm、両面無毛、短柄の基部に毛状突起がある。初夏に淡黄色の花が斜め下向きに咲く。花期以外にはチゴユリとの区別が困難である。土壌の発達した森林内部もしくは林縁部に生育する。かつらぎ町、高野町、有田川町及び田辺市に記録がある。園芸目的の採取により、生育地及び個体数が減少している。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 2 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
 - 3 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (3) 種子植物予報, 南紀生物, 56 (1) : 86-91.
 - 4 山本修平・中野玖美. 2007. 高野山植物目録. 77pp. ウイング, 和歌山.
- 写真：和歌山県立自然博物館提供

ハルザキヤツシロラン *Gastrodia nipponica* (Honda) Tuyama ラン科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

特殊な生態を持つ菌従属栄養植物。社叢等の常緑樹林下やその林縁部に見られる。塊茎は紡錘状で斜上、5月頃、紫褐色の花を開花させ、花後著しく伸長した花柄から出る糸状の根から新個体を生ずる。果実は直立し、長さ約 2.5 cm。紀南地域 (田辺市、上富田町、すさみ町及び古座川町) に記録がある。減少要因として、森林の伐採や植生遷移による環境の変化が挙げられる。

執筆者 (植物・植物群落専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 榎本 敬・狩山俊悟. 1999. 高等植物, 紀伊大島植物目録. 11-71. 京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所, 串本.
 - 2 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 3 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 4 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
 - 5 山本修平. 2013. 和歌山県絶滅危惧植物 (2) 種子植物予報. 南紀生物, 55 (2) : 131-136.

キイトラッキョウ *Allium kiiense* (Murata) Hir. Takahashi & M. Hotta ヒガンバナ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN) 旧県 2012 絶滅危惧 I B 類 (EN) 国 絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由

川岸の適湿な岩上・岩隙地に生育する。葉は細くて長さ 10~20 cm、直径約 1 mm。11 月初旬に長さ 20~30 cm の花茎の先に紅紫色の花をつける。和名は和歌山県（古座川町）で初めて発見されたことによる。紀南地域（田辺市、古座川町、新宮市及び北山村）に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、道路工事等が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

- 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (3) 種子植物予報. 南紀生物, 56 (1) : 86-91. 写真: 瀧野秀二提供

ヤマトミクリ *Sparganium fallax* Graebn. ミクリ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN) 旧県 2012 絶滅危惧 I B 類 (EN) 国 準絶滅危惧 (NT)

選定理由

河川・湖沼・ため池等に群生する多年生の抽水植物。全高約 1 m、葉の幅は 10~20 mm、断面は三角形。花期は 5~9 月、雌性頭花 (3~6 個) は、やや離れあって付き、上部には 4~8 個の雄性頭花が付く。果実は紡錘形、両端に狭くなり、長さは 5~6 mm。紀の川市、岩出市、かつらぎ町、高野町、海南市、有田川町、印南町及び新宮市に記録がある。減少要因として、河川改修及び池沼の管理の変化や水質汚濁等が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 2 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
- 3 山元 晃. 1995. 和歌山県北部に見られるため池の水草. 和歌山県立自然博物館館報, (13) : 33-48.
- 4 山本修平. 2013. 和歌山県絶滅危惧植物 (2) 種子植物予報. 南紀生物, 55 (2) : 131-136.
- 5 山本修平・中野玖美. 2007. 高野山植物目録. 77pp. ウイング, 和歌山.

コウヤハンショウヅル *Clematis obvallata* (Ohwi) Tamura var. *obvallata* キンポウゲ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN) 旧県 2012 絶滅危惧 I B 類 (EN) 国 絶滅危惧 I A 類 (CR)

選定理由

多年生のつる植物。林縁に生育する。茎は木化して細く、暗紫色を帯び、本年枝には軟毛があるが、後に落ちる。葉は長柄のある 3 出複葉、小葉は卵形、葉縁、葉脈上は有毛。開花は 5~7 月、花は鐘形で下向き、暗紫色。がくに接した 1 対の小苞が花柄につく。小苞は暗紫色か緑色で先に鋸歯がある。そう果は多数、長卵形、長さ約 6 mm、まばらに毛がある。紀北地域（高野町及び有田川町）に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、森林伐採等が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

- 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 3 内藤麻子. 2020. 和歌山県産野生植物分布資料 (2). 和歌山県立自然博物館館報, (38) : 51-62.
- 4 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
- 5 山本修平・中野玖美. 2007. 高野山植物目録. 77pp. ウイング, 和歌山. 写真: 和歌山県立自然博物館提供

コウヤシロカネソウ *Dichocarpum numajirianum* (Makino) W. T. Wang & P. K. Hsiao キンポウゲ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	-----------------

選定理由

谷間の岩上や砂上に生える小形の多年生草本。地下茎は短く、茎は高さ 15 cm、基部に広い鱗片葉に包まれた芽がある。根出葉はある場合とない場合がある。茎葉は 2 回 3 出葉、茎の下部は互生、上部は対生する。花は 4~5 月、横向きに開き黄白色で直径 8 mm。学名の種小名 *numajirianum* は高野山中学校教諭、沼尻 好氏に因む。高野町、有田川町、日高川町及び田辺市に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、森林伐採、植生遷移が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 土永知子. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の種子植物. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 72-82. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 3 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 4 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
 - 5 山本修平・中野玖美. 2007. 高野山植物目録. 77pp. ウイング, 和歌山.
- 写真: 瀧野秀二提供

ハカマカズラ *Phanera japonica* (Maxim.) H. Ohashi マメ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	-
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

選定理由

亜熱帯~暖帯にかけて分布する常緑のつる性木本。海岸近くの林内や林縁部に生育する。葉の先が切れ込み、基部は円心形。花期は 8 月、頂生する総状花序に淡黄緑色の花をつける。熟した豆果には硬い黒褐色の種子があり、古くから数珠に用いられている。和歌山県が分布域の北限で、由良町 (黒島) に県指定天然記念物「ハカマカズラ自生北限地」がある。由良町、田辺市、すさみ町及び串本町に記録がある。産地が局限されており、森林伐採等により個体数が減少している。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 2 内藤麻子. 2020. 和歌山県産野生植物分布資料 (2). 和歌山県立自然博物館館報, (38): 51-62.
 - 3 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
- 写真: 水野泰邦提供

ハドノキ <i>Oreocnide pedunculata</i> (Shirai) Masam. イラクサ科						
県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	—

選定理由 亜熱帯～暖帯にかけて分布する雌雄異株の常緑低木で、高さ 4～5 m になる。林内や林縁に生育する。葉は長楕円状披針形で互生し、長さ 5～15 cm、幅 2～4 cm で、先は尖り、3 行脈性で、葉柄は紅色を帯びる。花期は 2～4 月、雌花、雄花ともに団集花序をなし、瘦果は卵形で多肉質の花被に合着する。串本町に記録がある。森林伐採や道路工事等による環境変化によって、個体数が減少している。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 榎本 敬・狩山俊悟. 1999. 高等植物. 紀伊大島植物目録. 11-71. 京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所, 串本.
 - 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
写真: 瀧野秀二提供

ホソバシロスマレ <i>Viola patrinii</i> DC. var. <i>angustifolia</i> Regel スミレ科						
県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 日当たりの良い草地に生育する。花期は 5 月、葉はシロスマレよりも細く、葉の基部はくさび形で、翼となって葉柄に流れる。花弁は白色で細長い。紀美野町、有田川町、日高川町及び田辺市に記録がある。草地管理の変化に伴う植生遷移等によって、産地、個体数ともに減少している。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 山元 晃. 1992. 和歌山県のスミレ. 和歌山県立自然博物館館報, (10) : 69-104.
写真: 松本伸次提供

シマヒメタデ <i>Persicaria tenella</i> (Blume) H. Hara タデ科						
県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	—

選定理由 ため池等の湿草地に生育する。本来一年生草本であるが、和歌山県では多年生草本となる。葉は異形葉性で、水中に展開する葉 (水中葉) と地上に展開する葉 (気中葉) で形態が著しく異なる。水中葉は葉質が薄く、気中葉の先は尖り、基部は円形、長さ 5～8 cm。開花期は 9～12 月、花序は 1.5～2.5 cm で、密に穂状につく。果実はレンズ形、長さ約 1 mm、黒色で光沢がある。印南町及びみなべ町に記録がある。産地が局限されていることに加えて、ため池や湿地の改変により、減少している。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 山本修平・北野一夫. 2011. シマヒメタデ (タデ科) を和歌山県から記録する. 南紀生物, 53 (1) : 35-37.
写真: 北野一夫提供

ノアサガオ *Ipomoea indica* (Burm.) Merr. ヒルガオ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	—
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

亜熱帯性のつる植物。日当たりの良い海岸の砂地や岩崖地に生育する。生育条件の良好な所では群落を形成し、地上部は冬にも枯れず、越年する多年生草本。葉は心形で、長い柄がある。6月から10月頃にかけて、紫色で漏斗状の直径6~7 cmの大形の美花を開く。孔島・鈴島（新宮市）の群落は市指定天然記念物である。美浜町及び串本町にも記録がある。産地が局限されている上、アサガオに非常に似ているために地元住民に希少性の認識が欠けている場合も多く、草刈り等で除去される可能性が高い。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献
・情報

- 榎本 敬・狩山俊悟. 1999. 高等植物. 紀伊大島植物目録. 11-71. 京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所, 串本.
- 内藤麻子. 2019. 和歌山県産野生植物分布資料 (1). 和歌山県立自然博物館館報, (37): 75-85. 写真: 瀧野秀二提供

キノクニスズカケ *Veronicastrum tagawae* (Ohwi) T. Yamaz. オオバコ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

茎の先端に殖芽を作って群生する多年生草本。適湿で腐植の多い林内に群生する。茎はややつる状に伸び、長さ1~1.5 m、先端が着床すると発根する。葉は互生、卵形で先は尾状に伸びて尖り、長さ約15 cm、幅約5 cm。表面は無毛で、裏面の脈上に短毛がある。開花は9~10月、葉腋に白い筒状の花が穂状につき、花冠は約5 mm。さく果は卵円形。和歌山県南部の固有種で、すさみ町、串本町及び古座川町に記録がある。減少要因として、森林伐採、道路及び河川改修が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献
・情報

- 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
- 山本修平. 1993. キノクニスズカケについて. 南紀生物, 35 (1): 24-26.
- 山本修平. 2015. 和歌山県絶滅危惧植物 (5) 種子植物予報. 南紀生物, 57 (1): 57-62. 写真: 瀧野秀二提供

ヒメシロアサザ *Nymphoides coreana* (H. Lév.) H. Hara ミツガシワ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

湖沼やため池等の水面に葉を広げて生活する浮葉植物である。葉は長さ2~6 cm、幅は2~4 cm、花は径8 mm程で白色、花冠の内側は毛がなく、縁のみ有毛。花期は7~9月、果実は長楕円形。葉の表面に紫褐色の模様が見られることが多い。紀南地域(印南町、田辺市、串本町)に記録がある。産地が局限されていることに加えて、池沼の改変、水質汚濁、植生遷移等によって個体数が減少している。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 内藤麻子. 2019. 和歌山県産野生植物分布資料 (1). 和歌山県立自然博物館館報, (37): 75-85.
- 2 山元 晃. 1995. 和歌山県北部に見られるため池の水草. 和歌山県立自然博物館館報, (13): 33-48.
写真: 和歌山県立自然博物館提供

ホソバノギク *Aster sohayakiensis* Koidz. キク科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

川岸の岩上に地下茎を這わせて生育する多年生草本。茎の高さ30~60 cm、無毛、分枝は少数。葉は線状披針形で表面に光沢があり、葉脈が凹む。花期は7~9月、白色の頭花を少数つける。花柄は短く苞があり、冠毛はやや少ない。キシウギクの別名を持つ。紀伊半島南部の固有種で、田辺市、古座川町、那智勝浦町、新宮市及び北山村に記録がある。産地が局限されており、個体群サイズも小さい。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 3 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
- 4 山本修平. 2015. 和歌山県絶滅危惧植物 (5) 種子植物予報. 南紀生物, 57 (1): 57-62.
写真: 和歌山県立自然博物館提供

クルマギク *Aster tenuipes* Makino キク科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	-----------------

やや湿り気のある岩壁に垂れ下がるように生育する多年生草本。茎の高さ30~60 cm。茎葉は細長く、長さ約4 cm、幅約4 mmで、根生葉はやや幅広い。開花は10~11月、上部で短い枝を多数出して、枝先に1個の頭花をつける。舌状花は白色でイナカギクに似ているが、それより細い。和歌山県南部の固有種で、田辺市、那智勝浦町、古座川町及び新宮市に記録がある。園芸目的の採取や道路工事、河川改修等によって個体群、個体数ともに減少している。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 土永知子. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の種子植物. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 72-82. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 3 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 4 山本修平. 2015. 和歌山県絶滅危惧植物 (5) 種子植物予報. 南紀生物, 57 (1), 57-62.
 - 5 山本修平・大谷雄一・松下 弘. 1992. クルマギクの分布. 南紀生物, 34 (1) : 8-10.
- 写真: 瀧野秀二提供

オオハマグルマ *Melanthera robusta* (Makino) K. Ohashi & H. Ohashi キク科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	-
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

選定理由

海岸の砂地に生育する多年生草本。つる状の茎の節より発根し群落状となって生育する。葉は厚く対生し、長さ3~5 cm、鈍鋸歯を持つ。花は4~9月。頭花は3個、稀に1個、黄花で、直径2~2.5 cm。花の形状はネコノシタに似るが、葉がより大きく、頭花の数で区別できる。和歌山県が分布の北限で、美浜町及び串本町に記録がある。減少要因として、海岸域の改変が挙げられる。希少性が認識されることなく、海岸整備等で除去される可能性がある。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 2 山本修平. 2015. 和歌山県絶滅危惧植物 (5) 種子植物予報. 南紀生物, 57 (1) : 57-62.
- 写真: 和歌山県立自然博物館提供

トガサワラ *Pseudotsuga japonica* (Shiras.) Beissn. マツ科

県カテゴリー	絶滅危惧 II 類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧 II 類 (VU)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	----------------	----	------	----------------	---	----------------

選定理由

限られた地域に遺存的に分布する常緑針葉高木。標高400~800 mの山地の急傾斜地や尾根筋の陽地に生育する。四国東南部(魚梁瀬)と紀伊半島にのみ分布する。樹皮は灰褐色で厚く、縦裂、葉は線形で20~25 mm、裏面に白色の気孔帯が2条ある。球花は4月、球果は10月に熟し、苞鱗が種鱗より長く突出して反曲し、先が三裂する。暖温帯・冷温帯移行部の森林植生における遺存種として重要である。印南町の自生地(川又観音社寺林)は、県自然環境保全地域に指定されている。高野町、日高川町、印南町、田辺市、新宮市及び北山村に記録がある。減少要因として森林伐採が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 土永知子. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の種子植物. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 72-82. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 3 木下慶二. 1996. 和歌山県におけるトガサワラの自生状況について. 御坊文化財研究会創立三十周年記論集「紀州の歴史と風土」. 267-281. 御坊文化財研究会, 御坊.
 - 4 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
 - 5 山本修平・中野玖美. 2007. 高野山植物目録. 77pp. ウイング, 和歌山.
- 写真: 和歌山県立自然博物館提供

ナンゴクウラシマソウ *Arisaema thunbergii* Blume subsp. *thunbergii* サトイモ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

選定理由 土壌の腐植層が発達した森林内に生える多年生草本。地下茎は小さく、扁球形、径約2 cm。葉鞘は長さ4~14 cm、葉柄は長さ17~40 cm、葉身は鳥足状に深裂し、小葉は披針形、ウラシマソウとは小葉がより細長く中央脈沿いに斑が入り、付属体基部に皺がある点で区別する。和歌山市、紀の川市、有田川町、日高川町、日高町及び田辺市に記録がある。園芸目的の採取や森林伐採によって減少している。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 2 山本修平. 1990. 和歌山県産植物分布資料補遺. 南紀生物, 32 (2): 129.
 - 3 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (3) 種子植物予報. 南紀生物, 56 (1): 86-91.
 - 4 山本修平・大谷雄一. 1988. 和歌山県産テンナンショウの分布 I. 南紀生物, 30 (2): 135-138.
- 写真: 和歌山県立自然博物館提供

キイジョウロウホトトギス *Tricyrtis macranthopsis* Masam. ユリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	-------------	---	-------------

選定理由 川沿いの岩上・岩隙地に下垂して生育する多年生草本。茎の長さ40~80 cm、茎の左右に並ぶ葉の基部は茎を抱き、長さ約15 cm、下面脈上に粗毛を散生する。花は9~10月に上部の各葉腋から黄色の1花を斜下向きに出す。花被の長さ約4 cm、外花被片の基部に距がある。紀伊半島南部の固有種で、紀南地域 (田辺市、古座川町及び新宮市) に記録がある。園芸目的の採取や道路工事等によって個体数が減少している。一方で、各地で野生個体から増やした株の栽培が行われている。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 土永知子. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の種子植物. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 72-82. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 3 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 4 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
 - 5 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (4) 種子植物予報. 南紀生物, 56 (2): 153-158.
- 写真: 瀧野秀二提供

アオノクマタケラン *Alpinia intermedia* Gagnep. ショウガ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

大形の常緑多年生草本で、高さ50~150 cmに達する。海岸近くの湿潤な林内に生育する。葉は狭長楕円形、長さ30~50 cm、幅6~12 cm。花期は7月、花序は総状円錐状花序で直立、花は白色で唇弁は紅色の筋がある。果実は球形無毛で冬に赤く熟し、径10~12 mm。近縁種のクマタケランに似るが、全体に赤味が少ない。紀伊大島では半野生状に栽培され、花卉として出荷されている。紀南地域（串本町及び那智勝浦町）に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、森林伐採が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献
・情報

- 1 榎本 敬・狩山俊悟. 1999. 高等植物. 紀伊大島植物目録. 11-71. 京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所, 串本.
- 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 3 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (3) 種子植物予報. 南紀生物, 56 (1): 86-91.
写真: 瀧野秀二提供

ツゲ *Buxus microphylla* Siebold & Zucc. var. *japonica* (Müll. Arg. ex Miq.) Rehder & E. H. Wilson ツゲ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

暖地に生育する常緑低木。山地の中腹斜面、尾根筋、岩崖等に見られる。樹高は2~4 m程度で、密に分枝し、葉は小形で革質、表面に光沢を持つ。花は淡黄色の小花で、3~4月頃開き、枝先や上部の葉腋に束生する。蒴果は楕円形または球形で長さ約1 cm。庭園樹や街路樹として利用される。蛇紋岩地や石灰岩地といった特殊岩石地植生の指標として重要である。海南市、広川町、田辺市、古座川町及び北山村に記録がある。園芸を目的とした採取により、個体数が減少している。また、変種コツゲ var. *riparia* が古座川、北山川の岩上で見られる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献
・情報

- 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 3 内藤麻子. 2019. 和歌山県産野生植物分布資料 (1). 和歌山県立自然博物館館報, (37): 75-85.
写真: 和歌山県立自然博物館提供

シマサルナシ *Actinidia rufa* (Siebold & Zucc.) Planch. ex Miq. マタタビ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

選定理由

暖帯南部から亜熱帯にかけて分布する落葉つる性木本。海岸付近から沿海地の林縁または林内に生育する。葉はやや厚くてかたく、楕円形または卵形。雌雄異株で、花は5~6月に咲き白色。葉腋から集散花序を出す。果実は漿果で楕円形、長さ2~4 cm、緑黄色で褐色の斑点がある。由良町、日高町、みなべ町、田辺市、すさみ町、串本町、那智勝浦町、太地町及び新宮市に記録がある。減少要因として、道路造成や森林伐採が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 榎本 敬・狩山俊悟. 1999. 高等植物. 紀伊大島植物目録. 11-71. 京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所, 串本.
- 2 藤井伸二・狩山俊悟・榎本 敬. 2003. 1999年版紀伊大島植物目録(高等植物)の補遺およびカンアオイ属に関する分類学的ノート. 南紀生物, 45(2):115-117.
- 3 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 4 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
写真: 瀧野秀二提供 (果実, 花: 左上)

シラタマカズラ *Psychotria serpens* L. アカネ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

選定理由

海岸近くの常緑樹林内または林縁部に生育する常緑つる性木本で、付着根を出して樹幹や岩上を這い上る。葉は対生し、葉身は革質で倒卵状楕円形、長さ2~4 cm。花期は5~7月、枝先の集散花序に白色小形の漏斗状の花をまばらにつける。果実は液果で、球状楕円形で白色、長さ4~5 mmである。本州では和歌山県のみ分布し、串本町及び那智勝浦町に記録がある。産地が局限されており、道路改修や森林伐採によって、個体数が減少している。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 榎本 敬・狩山俊悟. 1999. 高等植物. 紀伊大島植物目録. 11-71. 京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所, 串本.
- 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 3 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
写真: 瀧野秀二提供

クマノギク *Sphagneticola calendulacea* (L.) Pruski **キク科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

選定理由

海岸近くのやや湿った草地に生育する多年生草本で、茎の節から発根し、地上を這って生育する。葉は対生、披針形～長楕円形、長さ2~7 cm、幅6~12 mm、葉に2~3個の低鋸歯があり、表面はざらつく。花期は5~9月で茎の先に頭花を1つ頂生する。美浜町、日高町、御坊市、田辺市、串本町及び那智勝浦町に記録がある。産地が局限されていることに加えて、草地の管理の変化に伴う環境の変化や管理放棄による植生の遷移によって、生育地、個体数ともに減少している。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 2 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
- 3 山本修平. 2015. 和歌山県絶滅危惧植物 (5) 種子植物予報. 南紀生物, 57 (1) : 57-62.
写真: 瀧野秀二提供

カワゼンゴ *Angelica tenuisecta* (Makino) Makino var. *tenuisecta* **セリ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	-------------	---	-------------

選定理由

川岸の岩上に生える大形草本で高さ1 mに達する。葉は3出羽状複葉。細長く鮮緑色で、光沢のある小葉と葉脈上の毛が、近縁種イヌトウキとの区別点。花は8~9月、複散形花序に白い小さな花をつける。果実は楕円形、長さ6~7 mm、幅3~4 mm、基部は凹入しない。紀伊半島南部の固有種で、新宮市及び北山村に記録がある。減少要因として、河川や道路の改修、植生遷移が挙げられる。

執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 3 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
- 4 山本修平・大谷雄一. 1999. 紀伊半島における襲速紀要素植物の分布Ⅲイヌトウキとカワゼンゴ (セリ科). 南紀生物, 41 (2) : 125-127.
- 5 山本修平・大谷雄一. 2009. 紀伊半島におけるカワゼンゴ (セリ科) の分布. 南紀生物, 51 (1) : 43-45.

キキョウラン *Dianella ensifolia* (L.) DC. **ススキノキ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

海岸に近い草地に生育する。葉は線形で長さ40~60 cm、幅15~20 mm、皮質で厚く基部は互いに重なり合う。花は5~7月、高さ50~100 cmの花茎の先に横向きまたは下向きに青色の花を咲かせる。和歌山県は分布の北限にあたる。和歌山市、海南市、有田市、湯浅町、由良町、白浜町及び串本町に記録がある。減少要因として、草地の樹林化等、植生の遷移が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献・情報

- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
- 2 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.

- 3 山本修平. 1988. 紀伊半島におけるキキョウランの分布. 南紀生物, 30 (1): 51-53.
 参考文献・情報 4 山本修平. 1990. 和歌山県産植物分布資料補遺. 南紀生物, 32 (2): 129.
 5 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (4) 種子植物予報. 南紀生物, 56 (2): 153-158.
 写真: 和歌山県立自然博物館提供

ウナズキギボウシ *Hosta kikutii* F. Maek. var. *tosana* (F. Maek.) F. Maek. **クサスギカズラ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由 紀伊半島南部並びに四国の東部に分布し、河川や溪流の岩崖地に群生する多年性草本。地際で屈曲した花茎が側方に伸長し、下垂した花序を持つ。花被は白色で8~9月頃開花する。紀南地域（田辺市、古座川町及び新宮市）に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、道路工事や河川改修が挙げられる。
 執筆者（植物・植物群落専門部会）



- 参考文献・情報**
- 1 土永知子. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の種子植物. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 72-82. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 3 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
 - 4 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (4) 種子植物予報. 南紀生物, 56 (2): 153-158.
 写真: 瀧野秀二提供

キノクニスゲ (キシウスゲ) *Carex matsumurae* Franch. **カヤツリグサ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

選定理由 暖地の海岸近くの湿潤な林内に生育する多年生草本。叢生し、大きな株を作る。茎は高さ30~40cm、葉は厚く光沢があり、幅8~12mm、基部の鞘に褐色の条線がある。花期は3~5月、小穂は4~5個、頂小穂は雄性、側小穂は雌性、密に多数の花がつく。キシウスゲ、クロシマスゲの別名を持つ。博物学者・南方熊楠の高等植物研究史をたどる上で重要である。由良町、みなべ町、田辺市及び串本町に記録がある。産地が局限されており、環境の変化によって急激に個体数を減らす可能性がある。
 執筆者（植物・植物群落専門部会）



- 参考文献・情報**
- 1 榎本 敬・狩山俊悟. 1999. 高等植物. 紀伊大島植物目録. 11-71. 京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所, 串本.
 - 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 3 山本修平. 2005. キノクニスゲ (カヤツリグサ科) について. 近畿植物同好会誌, (28): 27-30.
 - 4 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (4) 種子植物予報. 南紀生物, 56 (2): 153-158.
 写真: 土永浩史提供

キシウナキリスゲ *Carex nachiana* Ohwi カヤツリグサ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

沿岸域の林内に生育する。他のナキリスゲ類に比べて、桿の高さは約 1 m に達する大形の多年生草本。葉は幅 3~4 mm、果期は 9~10 月で頂小穂は一節に 2~3 個、全て雌性で雄花部は短い。果胞も大きく、長さは 3.5~4.5 mm、幅も広く約 1.5 mm。両面はほとんど平滑である。ふちに短い毛がある。和名、学名ともに和歌山県那智山で発見されたことによる。和歌山市、由良町、御坊市、美浜町、印南町、みなべ町、田辺市、白浜町、上富田町、那智勝浦町及び新宮市に記録がある。植生遷移に伴う個体数減少の恐れがある。

執筆者 (植物・植物群落専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 2 山本修平. 2014. 和歌山県絶滅危惧植物 (4) 種子植物予報. 南紀生物, 56 (2) : 153-158.

ドロノシモツケ *Spiraea japonica* L. f. var. *ripensis* Kitam. バラ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

川岸の岩上に生える小低木。母種のシモツケと草丈 30~50 cm (シモツケは 60~100 cm)、全体無毛、茎に稜がない点で変種として区別される。葉は細長く、長さ約 5 cm、幅約 1 cm。開花は 6 月、淡紅色の花が散房花序につく。紀南地域 (新宮市及び北山村) に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、河川改修に伴う環境の変化が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 3 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
 - 4 山本修平. 1997. 和歌山県産のキイシモツケとドロノシモツケについて. 南紀生物, 39 (2) : 135-138. 写真: 瀧野秀二提供

アコウ *Ficus superba* (Miq.) Miq. var. *japonica* Miq. クワ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

主に海岸の向陽の低地や林縁部に生育する亜熱帯性の常緑高木。幹の周囲から気根を垂らして成長し、高さ 10 m 以上の大木となる。葉腋または葉の落ちた跡の周囲に雄花・雌花・虫えい花が混在した花のうを束生する。美浜町龍王神社のアコウ巨木は県指定天然記念物、日高町産湯のアコウ巨木、日高町比井の群生地は町指定天然記念物である。



有田郡から串本町にかけての沿岸域に記録があるが、防風・防潮林として植栽されたものと区別が困難。減少要因として、道路改修が挙げられる。

執筆者 (植物・植物群落専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 榎本 敬・狩山俊悟. 1999. 高等植物. 紀伊大島植物目録. 11-71. 京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所, 串本.
 - 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 3 山本修平. 2000. 和歌山県のアコウ (クワ科) は植栽起源か. 南紀生物, 42 (2) : 149-152.

- 参考文献
・情報 4 吉田元重. 1983. 和歌山県におけるアコウの知見 [I]. 南紀生物, 25 (1) : 130-131.
写真: 瀧野秀二提供

ハマボウ *Hibiscus hamabo* Siebold & Zucc. アオイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由 本州（三浦半島以西）、四国、九州、奄美大島等に分布する落葉低木で、高さ3~4 mに達する。河口部の塩性湿地に群生する。葉は倒卵状円形で、花期は7~8月、直径約5 cmの黄色の一日花をつける。蒴果は卵形で先が尖り、後に裂開する。日高川河口（御坊市）の群落は市指定天然記念物、みなべ町西岩代川河口の群落は町指定天然記念物である。和歌山市、御坊市、印南町、みなべ町、田辺市、白浜町、那智勝浦町及び新宮市に記録がある。港湾開発や河川改修等に伴う生育地の消失や伐採による個体数の減少が懸念される。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

- 参考文献
・情報 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
3 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
4 山本修平. 1990. 和歌山県産植物分布資料補遺. 南紀生物, 32 (2) : 129.
5 山本修平・農本章子. 1990. 和歌山県におけるハマボウの分布. 南紀生物, 32 (1) : 27-30.
写真: 瀧野秀二提供

シチョウゲ *Leptodermis pulchella* Yatabe アカネ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

選定理由 川岸の岩上に生える落葉小低木。若枝は淡紫黒色で短毛を密生、古くなると樹皮は縦裂する。葉は対生で狭長楕円形または披針形、長さ2~4 cm、裏面の中肋に短毛がある。花は7~8月、花冠は淡紫色で、長い漏斗状の花を葉腋または枝の先につける。花柱に長短がある。蒴果は長楕円形、宿存するがくを含めて長さ約5 mm。紀伊半島南部と四国に分布し、田辺市、古座川町、那智勝浦町、新宮市及び北山村に記録がある。減少要因として、道路工事や川岸の改変、園芸目的の採取が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

- 参考文献
・情報 1 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
写真: 瀧野秀二提供

ツゲモチ *Ilex goshiensis* Hayata **モチノキ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

常緑樹林内に生える高さ 5~10 m の常緑高木で、紀伊半島を北限として、四国、九州、琉球、台湾に分布する。和歌山県では 3~4 m 程度の小高木が多いが、ときに高木のものが見られる。雌雄異株でモチノキにやや似るが、葉・果実ともにより小形である。有田川町、選定理由 由良町、日高川町、印南町、白浜町、上富田町、すさみ町、串本町、古座川町及び新宮市に記録がある。際立った特徴の少ない種であり、認識されないまま伐採される恐れがある他、道路工事に伴う環境の改変や園芸目的の採取による個体数の減少が認められる。

執筆者 (植物・植物群落専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 2 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
 - 3 山本修平. 2010. 近畿地方におけるツゲモチ (モチノキ科) の分布. 南紀生物, 52 (2) : 155-156.

キノクニシオギク (キイシオギク) *Chrysanthemum kinokuniense* (Shimot. & Kitam.) H. Ohashi & Yonek. **キク科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

海岸に生える小形の多年生草本。海岸の波が直接被らない岩崖地等に群生する。茎の下部はやや匍匐し、高さ 20~30 cm。葉は長さ 2~5 cm、幅 1~3 cm で、全縁または上半は羽状に浅裂する。裏は銀白色。花期は 11~12 月、直径 8 mm 内外の多数の筒状花をつける。キイシオギクの別名を持つ。美浜町、選定理由 日高町、田辺市、白浜町、すさみ町、串本町、太地町、那智勝浦町及び新宮市に記録がある。減少要因として、海岸の改変が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

- 参考文献・情報
- 1 榎本 敬・狩山俊悟. 1999. 高等植物. 紀伊大島植物目録. 11-71. 京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所, 串本.
 - 2 加藤雅啓・海老原淳. 2011. 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 3 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
 - 4 山本修平. 1984. 和歌山県産野生キク属の分布 I. 南紀生物, 26 (1) : 53-55.
 - 5 山本修平. 2015. 和歌山県絶滅危惧植物 (5) 種子植物予報. 南紀生物, 57 (1) : 57-62.
- 写真: 和歌山県立自然博物館提供

ドロニガナ *Ixeridium dentatum* (Thunb.) Tzvelev ssp. *kitayamense* (Murata) Pak & Kawano **キク科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	----------------

川岸の岩の割れ目に根茎を這わせて生育する多年生草本。根生葉は小さく、葉柄を含めて長さ 3~5 cm で、ほとんど全縁。花期は 3~5 月、径約 1.5 cm。舌状花は約 10 個、瘦果の長さが 2.5~3 mm という点でニガナと区別される。北山村の瀨峡で発見されたので和名がつけられた。田辺市、選定理由 古座川町、那智勝浦町、新宮市及び北山村に記録がある。減少要因として、河川改修が挙げられる。



執筆者 (植物・植物群落専門部会)

参考文献
・情報

- 1 土永知子. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の種子植物. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 72-82. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. 257pp. 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 大阪.
 - 3 和歌山県立自然博物館. 2004. 小川植物コレクション標本目録. 292pp. 第一製版印刷, 和歌山.
 - 4 山本修平. 2015. 和歌山県絶滅危惧植物 (5) 種子植物予報. 南紀生物, 57 (1) : 57-62.
 - 5 山本修平・大谷雄一. 1994. ドロニガナについて. 南紀生物, 36 (2) : 130-132.
- 写真：瀧野秀二提供

●絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

イヌカメゴケ
 フウリンゴケ※
 ウチワチョウジゴケ（キセルゴケ）※
 クマノチョウジゴケ※
 ヤリノホゴケ※
 ヒロスジツリバリゴケ
 フロウソウ※
 ヒメソテツゴケ
 ミギワイクビゴケ
 カシ米尔クマノゴケ※
 フガゴケ※
 マムシゴケ※
 ヤクシマナワゴケ※
 ナミカワスナゴケ
 ササオカゴケ（アオモリカギハイゴケ）※
 タマゴバムチゴケ
 シャクシゴケ（ミドリシャクシゴケ）※
 ツクシシゲリゴケ
 ムチハネゴケ
 イボケクサリゴケ
 オオスミヨウジョウゴケ
 ヨシナガキララゴケ
 ボウズムシトリゴケ※
 ナガバムシトリゴケ※
 オキナワヤスデゴケ※
 ヤマトクロウロコゴケ
 オオサワラゴケ※
 コクサリゴケモドキ
 コオイフタマタゴケ
 サワラゴケ
 キウロコゴケ※
 オオハネゴケ
 マキノハネゴケ

アツメハネゴケ
 タマゴバヒシャクゴケ
 ホリカワツボミゴケ
 オオツボミゴケ
 ゴマダラツボミゴケ
 キノボリツノゴケ※

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）

ミヤマハリゴケ
 キジノオゴケ※
 ヘリトリシッポゴケ
 オオミツヤゴケ※
 ビルマハウオウゴケ
 イリオモテハウオウゴケ
 ジョウレンハウオウゴケ
 ハネハウオウゴケ
 ニセタマウケゴケ（シバゴケ）
 イバラヤエゴケ
 ケサガリゴケ
 オオキヌタゴケ
 タチチョウチンゴケ※
 ハシボソゴケ※
 ヤマトキンチャクゴケ
 フタバムチゴケ
 フォーリームチゴケ
 ヤマムチゴケ
 ホリカワキララゴケ
 ミヤジマヨウジョウゴケ
 サンカクゴケ※
 サカワヤスデゴケ
 タラダケヤスデゴケ
 エゾヤバネゴケ
 エゾヤハズゴケ
 コダマクサリゴケ

ナカジマトサカゴケ
カギフタマタゴケ
チチブハネゴケ
ヤハズハネゴケ
ヒメハネゴケ
トゲアイバゴケ※
オカムラケビラゴケ
ムラサキヒシヤクゴケ
オチツボミゴケ
ハネツボミゴケ
アカツボミゴケ

●準絶滅危惧 (NT)

コキジノオゴケ※
カワブチゴケ※
ヤクシマツガゴケ
アオシマヒメシワゴケ
オウギホウオウゴケ
ヒロハチャイロホウオウゴケ
ニセチャイロホウオウゴケ
ミヤマクサゴケ
ホンダゴケ (コアオギヌゴケ)
シナクジャクゴケ (ヒナクジャクゴケ)
コモチイチイゴケ※
トサヒラゴケ※
キノクニオカムラゴケ
コゴメタチヒダゴケ
キノクニキヌタゴケ
カトウゴケ
トサノタスキゴケ※
ヒゴイチイゴケ
コフサゴケ
コバノホソベリミズゴケ※
オオミズゴケ
イサワゴケ※
ユガミタチヒラゴケ

リュウキュウホソエゴケ
ヒログチキンモウゴケ
ヨシナガクロウロコゴケ
ヨシナガムチゴケ
ヒメシロクサリゴケ
キタガワシロクサリゴケ
スケバウロコゴケ
シロコオイゴケ
マルバコオイゴケモドキ
カミムラヤステゴケ
オニヤステゴケ
オンタケヤステゴケ
コアミメミゾゴケ
タカサゴソコマメゴケ
ヒメコミミゴケ
ホリカワトサカゴケ
フォーリーイチョウウロコゴケ
チャボミゾゴケ
ヒメマルバハネゴケ
アイバゴケ
ケクラマゴケモドキ
タカキクラマゴケモドキ
ヨウジョウケビラゴケ
シゲリケビラゴケ
イチョウウキゴケ※
オヤコゴケ※
タチツボミゴケ

●情報不足 (DD)

ヒカゲノカズラモドキ※
ヒロハフサゴケ
ナヨナヨカガミゴケ
マキハハリゴケ
ホソハリゴケ
キヌヒバゴケ
ナスシッポゴケ

コカモジゴケ
マルバホウオウゴケ
ホンコンホウオウゴケ
ヒメスズゴケ
ケアサゴケ
イトクサゴケ
イワダレゴケ
ヨコグライタチゴケ
オオミミゴケ
タチハイゴケ※

ホソヘチマゴケ
ナメハヤスジゴケ
ホソバミズゴケ
キツネノオゴケ
ハナシセンボンゴケ
ヒメテングサゴケ
ミヤケハタケゴケ
ムカシヒシャクゴケ※
ホウキゴケ

植物（蘚苔類）の一覧表の凡例

1. 配列は蘚類・苔類・ツノゴケ類の順で、それぞれ学名のアルファベット順とした。
2. 蘚類・苔類の和名および学名は、それぞれ主に以下の文献に従った。
蘚類：Suzuki (2016)、苔類及びツノゴケ類：片桐・古木 (2018)
片桐知之・古木達郎. 2018. 日本産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト, 2018. Hattoria, 9: 53-102.
Suzuki, T. 2016. A revised new catalog of the mosses of Japan. Hattoria, 7: 9-223.
3. 和名の後に※印を示した種については「主な植物（蘚苔類）の解説」に詳細を掲載した。
4. カテゴリー（評価区分）は以下の通りである。
和歌山県 (2022)：和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版のカテゴリー
CR + EN：絶滅危惧 I A 類 + 絶滅危惧 I B 類
VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足
近隣府県および国のカテゴリー
奈良県 (2016)：蘚苔類. in 大切にしたい奈良県の野生動植物 - 奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版 -. 613-675. 奈良県くらし創造部景観・環境局景観・自然環境課, 奈良.
三重県 (2015)：三重県レッドデータブック 2015. 13 セン類・タイ類.
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000401562.pdf> (2021 年 7 月 1 日参照)
大阪府 (2014)：大阪府における保護上重要な野生生物 レッドリスト. コケ植物.
<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21490/00148206/12.kokeshokubutsu.pdf>
(2021 年 7 月 1 日参照)
国 (2020)：環境省レッドリスト 2020. レッドリスト (植物 II) 蘚苔類.
<http://www.env.go.jp/press/files/jp/9948.pdf> (2021 年 7 月 1 日参照)
5. 選定理由は以下の通りである。
環境悪化：人為による直接的な環境破壊（森林伐採、道路開発工事等）により生育環境が悪化しているもの
採取：人為による選択的な採取（園芸用等）により群落の減少が著しいもの
特殊環境：湿地、溪谷（樹枝からの下垂、生葉上）等
希少性：自生地における群落が小さいものや産地が極めて少ないもの
6. 生育環境及び生育基物は以下の通りである。
生育環境：森林内、溪谷、山地、低地等
生育基物：樹幹（枝）、倒木、腐木、岩上、土上、葉上等
7. 国内分布について示した。

植物 (苔類) の一覧表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由			生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境			
藓類	ハイヒモゴケ科	ヒカゲノカズラモドキ※	<i>Aerobryopsis parisii</i> (Card.) Broth.	DD			VU	○			○	渓谷	樹枝	四国・琉球
藓類	タチヒダゴケ科	イヌカメゴケ	<i>Amplidium mougeotii</i> (Bruch & Schimp.) Schimp.	CR+EN	NT			○			○	林内	岩上	本州・四国
藓類	スギゴケ科	フウリンゴケ※	<i>Bartramioopsis lescurii</i> (James) Kindb.	CR+EN				○			○	林内	土上	北海道・本州・四国・九州
藓類	アオギヌゴケ科	ヒロハフサゴケ	<i>Brachythecium salebrosum</i> (F. Weber & Mohr) Bruch & Schimp. in Bruch et al.	DD		CR+EN		○			○	林内	土上、岩上	北海道・本州・四国・九州
藓類	ナガハシゴケ科	ナヨナヨカガミゴケ	<i>Brotherella herbacea</i> Sakurai ex Oti	DD				○			○	渓谷	樹枝	本州・四国・九州
藓類	キセルゴケ科	ウチワチョウジゴケ (キセルゴケ) ※	<i>Buxbaumia aphylla</i> Hedw.	CR+EN	CR+EN	VU		○			○	林内	土上	北海道・本州・四国・九州
藓類	キセルゴケ科	クマノチョウジゴケ※	<i>Buxbaumia minakatae</i> S. Okam.	CR+EN	CR+EN	EX		○			○	林内	倒木、腐木	北海道・本州・四国・九州
藓類	ハイゴケ科	ヤリノホゴケ※	<i>Calliergonella cuspidata</i> (Hedw.) Loeske	CR+EN		VU		○			○	湿地	湿土上	北海道・本州
藓類	シツボゴケ科	ヒロスジツリバリゴケ	<i>Campylopus gracilis</i> (Mitt.) A. Jaeger.	CR+EN	CR+EN		CR+EN	○			○	林外	岩上、土上	本州・九州
藓類	シノブゴケ科	マキハハリゴケ	<i>Claopodium assurgens</i> (Sull. & Lesq.) Cardot	DD	EX	CR+EN		○			○	林内	樹幹、岩上	本州・四国・九州・琉球・小笠原
藓類	シノブゴケ科	ミヤマハリゴケ	<i>Claopodium crispifolium</i> (Hook.) Ren. & Card.	VU				○			○	林内	岩上、腐木	北海道・本州
藓類	シノブゴケ科	ホンハリゴケ	<i>Claopodium gracillimum</i> (Cardot & Thér.) Nog.	DD				○			○	林内	土上、岩上	本州・四国・九州・琉球・小笠原
藓類	コウヤノマンネングサ科	フロウソウ※	<i>Climacium dendroides</i> (Hedw.) F. Web. & Mohr	CR+EN	VU			○			○	林外	湿土上	北海道・本州・四国・九州
藓類	クジャクゴケ科	ヒメソウツゴケ	<i>Cyathophorella kyuusyuensis</i> Hor. & Nog.	CR+EN				○			○	渓谷	樹幹	本州・四国・九州

植物 (蕨苔類) の一覽表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由			生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境			
蕨類	フジャクゴケ科	キジノオゴケ※	<i>Cyathophorum asiantum</i> (Griff.) Mitt.	VU	CR+EN	CR+EN	NT	○	○	○	渓谷	樹幹	本州・四国・九州・琉球	
蕨類	フジャクゴケ科	コキジノオゴケ※	<i>Cyathophorum hookeriana</i> (Griff.) Mitt.	NT		NT	NT	○	○	○	渓谷	樹幹、岩上	本州・四国・九州・琉球	
蕨類	イトヒバゴケ科	カワブチゴケ※	<i>Cyrtodontopsis levellei</i> (Thér.) P. Rao & Enroth	NT	CR+EN	CR+EN	NT	○	○	○	溪流	樹枝	本州・四国	
蕨類	ハイヒモゴケ科	キヌヒバゴケ	<i>Di cladella trichophora</i> (Mont.) Redf. & B. C. Tan	DD	NT			○		○	林内	樹枝・岩 (下垂)	本州・四国・九州	
蕨類	シッポゴケ科	ヘリトリシッポゴケ	<i>Dicranodontium uncinatum</i> (Harv.) A. Jaeger	VU				○		○	林内	土上、岩上	本州・四国・九州	
蕨類	シッポゴケ科	ナスシッポゴケ	<i>Dicranum leitodontum</i> Cardot	DD				○		○	林内	腐木、樹幹	北海道・本州・四国・九州	
蕨類	シッポゴケ科	ココモジゴケ	<i>Dicranum mayrii</i> Broth.	DD		CR+EN	VU	○		○	林内	腐木、土上、岩上	北海道・本州・四国・九州	
蕨類	イクビゴケ科	ミギワイクビゴケ	<i>Diphyscium chiapense</i> D. H. Norris ssp. <i>unipapillosum</i> (Deguchi) T. Y. Chiang & S. H. Lin	CR+EN			CR+EN	○		○	林内	土上、岩上	本州・四国・九州	
蕨類	イクビゴケ科	カシミールフマノゴケ※	<i>Diphyscium kashmirensis</i> (H. Rob.) Magombo	CR+EN	VU		VU	○	○	○	渓谷	湿岩上	本州・四国・九州	
蕨類	アブラゴケ科	ヤクシマツガゴケ	<i>Distichophyllum collenchymatosum</i> Cardot	NT				○		○	渓谷	岩上	本州・四国・九州・琉球	
蕨類	ツヤゴケ科	オオミツヤゴケ※	<i>Entodon conchophyllus</i> Cardot	VU			VU	○		○	林内	樹幹	本州・九州・琉球	
蕨類	ヒナノハイゴケ科	アオシマヒメシワゴケ	<i>Erpodium glaucum</i> (Wilson) I. G. Stone var. <i>trichophyllum</i> (Ångstr. ex Müll. Hall.) I. G. Stone	NT			VU	○		○	低地	樹幹	本州・四国・九州	
蕨類	ホウオウゴケ科	ビルマホウオウゴケ	<i>Fissidens beckettii</i> Mitt.	VU				○		○	低地	土上	本州・四国・九州・琉球	
蕨類	ホウオウゴケ科	イリオモテホウオウゴケ	<i>Fissidens bogoriensis</i> Fleisch.	VU				○		○	林内	土上	本州・四国・九州・琉球・小笠原	

植物 (蘚苔類) の一覧表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由			生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境			
蘚類	ホウオウゴケ科	マルバホウオウゴケ	<i>Fissidens diversifolius</i> Mitt.	DD				○			林外	湿岩上、土上	本州・四国・九州	
蘚類	ホウオウゴケ科	オウギホウオウゴケ	<i>Fissidens flabellatus</i> Thawites & Mitt.	NT				○			林外	岩上、土上	本州・小笠原	
蘚類	ホウオウゴケ科	ヒロハチヤイロホウオウゴケ	<i>Fissidens ganguleei</i> Norkett ex Gangulee	NT				○			林外	土上	本州	
蘚類	ホウオウゴケ科	ジョウレンホウオウゴケ	<i>Fissidens geppii</i> M. Fleisch.	VU	VU	CR+EN	VU	○			渓谷	湿岩上	本州・四国・九州	
蘚類	ホウオウゴケ科	ニセチヤイロホウオウゴケ	<i>Fissidens guangdongensis</i> Z. Iwats. & Z. H. Li	NT				○			林内	湿岩上	本州	
蘚類	ホウオウゴケ科	ハネホウオウゴケ	<i>Fissidens involutus</i> Wilson ex Mitt.	VU			VU	○			渓谷	湿岩上	本州・四国・九州	
蘚類	ホウオウゴケ科	ホンコンホウオウゴケ	<i>Fissidens oblongifolius</i> Hook. & Wilson	DD				○			低地	土上、岩上	本州・九州・琉球・小笠原	
蘚類	イトヒバゴケ科	ヒメスズゴケ	<i>Forsstroemia cryphaeoides</i> Cardot	DD				○			林内	樹幹	本州・四国・九州	
蘚類	シツポゴケ科	ニセタマウケゴケ (シバゴケ)	<i>Garckea flexuosa</i> (Griff.) Marg. & Nork.	VU				CR+EN			草地	土上	本州・四国・九州・小笠原	
蘚類	マルダイゴケ科	フガゴケ※	<i>Gymnostomiella longinervis</i> Broth.	CR+EN				VU			林内	岩上	本州・九州・琉球	
蘚類	シノブゴケ科	ケアサゴケ	<i>Haplodladium perparaphyllum</i> R. Watanabe	DD							林内	根元、土上	本州・四国	
蘚類	ナガハシゴケ科	ミヤマクサゴケ	<i>Heterophyllum affine</i> (Hook. ex Kuntz) M. Fleisch.	NT							林内	倒木、腐食土上	北海道・本州	
蘚類	ナガハシゴケ科	イトクサゴケ	<i>Heterophyllum nematosum</i> Broth. ex P. Varde & Thér.	DD							林内	岩上	北海道・本州	
蘚類	ハイゴケ科	ホンダゴケ (コアオギヌゴケ)	<i>Hondaella caperata</i> (Mitt.) Ando	NT							林内	樹幹、岩上	北海道・本州・四国・九州	

植物 (蕨苔類) の一覽表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由				生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性		
蕨類	イワダレゴケ科	イワダレゴケ	<i>Hylocomium splendens</i> (Hedw.) Bruch & Schimp. in B. S. G.	DD		VU		○			林内	林床、岩上、 腐木上	北海道・本州・ 四国・九州	
蕨類	フジャクゴケ科	シナフクジャクゴケ (ヒナクフジャクゴケ)	<i>Hypopterygium tamarisci</i> (Sw.) Brid. ex Müll. Hal.	NT		VU	NT	○			林内	岩上、腐木	本州・九州・琉球・ 小笠原	
蕨類	コモチイゴケ科	コモチイゴケ※	<i>Isopterygium propaguliferum</i> Toyama	NT			CR+EN	○			林内	倒木、腐木	本州・四国・九州	
蕨類	イタチゴケ科	ヨコグライイタチゴケ	<i>Leucodon sohayakiensis</i> H. Akiyama	DD			CR+EN	○			林内	樹幹、岩上	本州・四国・九州	
蕨類	ナガハシゴケ科	マムシゴケ※	<i>Meiothecium microcarpum</i> (Harv.) Mitt.	CR+EN			CR+EN	○			林内	樹幹	本州・九州・琉球	
蕨類	ハイヒモゴケ科	オオミミゴケ	<i>Meteoriella soluta</i> (Mitt.) S. Okam.	DD		CR+EN		○			林内	樹幹	本州・四国・九州	
蕨類	ハイヒモゴケ科	イバラヤエゴケ	<i>Meteoriopsis undulata</i> Horik. & Nog.	VU		NT	CR+EN	○			林内	樹幹	本州・四国・九州	
蕨類	ヒラゴケ科	トサヒラゴケ※	<i>Neckeropsis obtusata</i> (Mont.) M. Fleisch.	NT		VU	CR+EN	○			林内	樹幹、岩上	本州・四国・九州・ 琉球・小笠原	
蕨類	トラノオゴケ科	ケサガリゴケ	<i>Neobarbella comes</i> Nog. var. <i>pilifera</i> (Broth. & M. Yasuda) B. C. Tan, S. He & Isov.	VU		CR+EN		○			渓谷	樹枝 (下垂)	本州・四国・九州	
蕨類	ナフゴケ科	ヤクシマナフゴケ※	<i>Oedocladium rufescens</i> (Reinw. & Hornsch.) Mitt. var. <i>yakushimense</i> (Sak.) Z. Iwats.	CR+EN		CR+EN	VU	○			林内	岩上	本州・九州	
蕨類	ナフゴケ科	オオキヌタゴケ	<i>Oedocladium serricuspae</i> (Broth.) Hog. & Z. Iwats.	VU				○			林内	岩上、樹幹	本州・四国・九州・ 琉球	
蕨類	アオギヌゴケ科	キノクニオカムラゴケ	<i>Okamuraea plicata</i> Card.	NT		NT		○			林内	樹幹	本州・四国・九州	
蕨類	チョウチンゴケ科	タチチョウチンゴケ※	<i>Orthomnion dilatatum</i> (Mitt.) P. C. Chen	VU		CR+EN	EX	○			林内	樹幹、岩上	本州・四国・九州	
蕨類	タチヒダゴケ科	コゴメタチヒダゴケ (ヒメタチヒダゴケ)	<i>Orthotrichum erubescens</i> Müll. Hal.	NT				○			林内	樹枝	本州・四国・九州	

植物 (蘚苔類) の一覧表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由			生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境			
蘚類	ナワゴケ科	キノクニキヌタゴケ	<i>Palisadula chrysophylla</i> (Card.) Toyama	NT	NT	VU		○			林内	岩上	本州・四国・九州	
蘚類	ナワゴケ科	カトウゴケ	<i>Palisadula katoi</i> (Broth.) Z. Iwats.	NT	NT	VU	NT	○			林内	岩上	本州・四国・九州	
蘚類	ナガハシゴケ科	ハシボンゴケ※	<i>Papillidiopsis macrosticta</i> (Broth. & Par.) W. R. Buck & B. C. Tan	VU			VU	○			渓谷	樹枝	本州・九州・琉球	
蘚類	キンシゴケ科	ヤマトキンチャクゴケ	<i>Pleuridium japonicum</i> Deguchi, Matsui & Z. Iwats.	VU					○		林外	土上	北海道・本州・四国・九州	
蘚類	イワレゴケ科	タチハイゴケ※	<i>Pleurozium schreberi</i> (Brid.) Mitt.	DD		VU		○			林内	土上、腐木、岩上	北海道・本州・四国・九州	
蘚類	ハリガネゴケ科	ホンヘチマゴケ	<i>Pohlia leucostoma</i> (Bosch & Sande Lac.) M. Fleisch.	DD				○			渓谷	土上	本州・四国	
蘚類	ハイヒモゴケ科	トサノタスキゴケ※	<i>Pseudobarbella laosensis</i> (Broth. & Paris) Nog.	NT	NT		VU	○			渓谷	樹枝 (下垂)	本州・四国・九州・琉球	
蘚類	ハイゴケ科	ヒゴイチイゴケ	<i>Pseudotaxiphyllum maebarae</i> (Sakurai) Z. Iwats.	NT				○			林外	土上	本州・九州	
蘚類	スナゴケ科	ナミカワスナゴケ	<i>Racomitrium aquaticum</i> (Schrad.) Brid.	CR+EN		CR+EN		○			林外	湿岩上	北海道・本州・四国・九州	
蘚類	シツボゴケ科	ナメハヤスジゴケ	<i>Rhabdoweisia crispata</i> (With.) Lindb.	DD				○			林内	岩上	北海道・本州・四国・九州	
蘚類	ハイゴケ科	コフサゴケ	<i>Rhytidadelphus squarrosus</i> (Hedw.) Warnst.	NT		NT		○			林内	腐植土	北海道・本州・四国	
蘚類	ヤナギゴケ科	ササオカゴケ (アオモリカギハイゴケ)※	<i>Sasaokaea aomoriensis</i> (Par.) Kanda	CR+EN	CR+EN	EX	CR+EN	○			湿地	湿土上	本州・四国・九州	
蘚類	ミスゴケ科	ホンバミズゴケ	<i>Sphagnum girgensohnii</i> Russ.	DD	VU			○			湿地	湿岩	北海道・本州・四国・九州	
蘚類	ミスゴケ科	コバノホンバミズゴケ※	<i>Sphagnum junghuhnianum</i> Dozy & Molk. ssp. <i>pseudomolle</i> (Warnst.) H. Suzuki	NT	VU			○			渓谷	湿岩	本州・四国	

植物 (蘚苔類) の一覽表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由				生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性		
蘚類	ミズゴケ科	オオミズゴケ	<i>Sphagnum palustre</i> L.	NT	VU	VU	NT	○	○	○	○	湿地	北海道・本州・四国・九州	
蘚類	カタシロゴケ科	イサワゴケ※	<i>Syrrhopodon tosaensis</i> Card.	NT			VU	○				林内	本州・四国・九州・琉球	
蘚類	ハイゴケ科	ユガミタチヒラゴケ	<i>Taxiphyllum arcuatum</i> (Bosch & Sande Lac.) S. He	NT	NT	CR+EN		○				林内	本州・四国・九州・琉球	
蘚類	ヒラゴケ科	キツネノオゴケ	<i>Thamnobryum alopecurum</i> (Hedw.) Nieuwl.	DD				○				渓谷	北海道・本州・四国・九州	
蘚類	センボンゴケ科	ハナシセンボンゴケ	<i>Tortula truncata</i> (Hedw.) Mitt.	DD	NT			○				低地	本州・九州	
蘚類	ナガハシゴケ科	リュウキウホソエゴケ	<i>Trichosteleum lutschianum</i> (Broth. & Paris) Broth.	NT	NT	VU	CR+EN	○				渓谷	本州・四国・九州・琉球	
蘚類	タチダゴケ科	ヒロブチキンモンウゴケ	<i>Ulota eurystoma</i> Nog.	NT	NT		VU	○				林内	本州・四国・九州	
苔類	ワサリゴケ科	ヨシナガクロウロコゴケ	<i>Acanthocoleus yoshinaganus</i> (S. Hatt.) Kruijt	NT	CR+EN	VU		○				渓谷	本州・四国・九州	
苔類	ムチゴケ科	フタバムチゴケ	<i>Bazzania bidentata</i> (Steph.) Steph. ex Yasuda	VU				○				林内	本州・四国・九州	
苔類	ムチゴケ科	タマゴバムチゴケ	<i>Bazzania denudata</i> (Torr. ex Lindenb.) Trevis.	CR+EN				○				林内	北海道・本州・四国・九州	
苔類	ムチゴケ科	フォーリームチゴケ	<i>Bazzania fauriana</i> (Steph.) S. Hatt.	VU				○				林内	本州・四国・九州・琉球	
苔類	ムチゴケ科	ヤマムチゴケ	<i>Bazzania pearsonii</i> Steph.	VU	VU			○				林内	本州	
苔類	ムチゴケ科	ヨシナガムチゴケ	<i>Bazzania yoshinagana</i> (Steph.) S. Hatt.	NT				○				林内	北海道・本州・四国・九州	
苔類	ウスバゼニゴケ科	シヤクシゴケ (ミドリシヤクシゴケ)※	<i>Cavicularia densa</i> Steph.	CR+EN	VU	NT		○				林外	北海道・本州・四国・九州	

植物 (維管束植物及び蘚苔類)

植物 (苔類) の一覧表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由			生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境			
苔類	クサリゴケ科	ヒメシロクサリゴケ	<i>Cheilolejeunea japonica</i> (Horik.) W. Ye & R. L. Zhu	NT	NT			○			林内	樹幹	本州・九州	
苔類	クサリゴケ科	キタガワシロクサリゴケ	<i>Cheilolejeunea kitagawae</i> W. Ye & R. L. Zhu	NT	CR+EN			○			林内	樹幹	本州・九州	
苔類	クサリゴケ科	ツクシシゲリゴケ	<i>Cheilolejeunea obtusilobula</i> (S. Hatt.) S. Hatt.	CR+EN				○			渓谷	樹幹 (枝)	本州・九州・琉球・ 小笠原	
苔類	ハネゴケ科	ムチハネゴケ	<i>Chiasstocaulon dendroides</i> (Nees) Carl	CR+EN	CR+EN			○			林内	樹幹、岩上	本州・四国・九州・ 琉球	
苔類	ウロコゴケ科	スケバウロコゴケ	<i>Chiloscyphus pallescens</i> (Ehrh. ex Hofm.) Dumort.	NT	NT	DD		○			渓谷	湿岩上、 倒木	北海道・本州	
苔類	クサリゴケ科	イボケクサリゴケ	<i>Cololejeunea denticulata</i> (Horik.) S. Hatt.	CR+EN				○			渓谷	葉上	本州・琉球	
苔類	クサリゴケ科	ホリカワキアラゴケ	<i>Cololejeunea horikawana</i> (S. Hatt.) Mizut.	VU				○			渓谷	樹幹、葉上	本州・九州・琉球	
苔類	クサリゴケ科	オオスミヨウジウゴケ	<i>Cololejeunea lanciloba</i> Steph.	CR+EN		DD		○			渓谷	葉上	本州・九州・琉球	
苔類	クサリゴケ科	ミヤジマヨウジウゴケ	<i>Cololejeunea planissima</i> (Mitt.) Abeyw.	VU	VU	CR+EN		○			林内	樹幹、葉上	本州・四国・九州・ 琉球・小笠原	
苔類	クサリゴケ科	ヨシナガキアラゴケ	<i>Cololejeunea yoshinagana</i> (S. Hatt.) Mizut.	CR+EN				○			林内	岩上、樹幹	本州・四国・九州	
苔類	クサリゴケ科	ボウズムシトリゴケ※	<i>Colura meijeri</i> Jovet-Ast	CR+EN	EX		VU	○			渓谷	樹枝、葉上	本州・九州・琉球	
苔類	クサリゴケ科	ナガバムシトリゴケ※	<i>Colura tenuicornis</i> (A. Evans) Steph.	CR+EN			CR+EN	○			渓谷	樹枝、葉上	本州・四国・九州・ 小笠原	
苔類	ヒシヤクゴケ科	シロコオイゴケ	<i>Diplophyllum albicans</i> (L.) Dumort.	NT				○			林内	土上、岩上	北海道・本州・ 四国・九州	
苔類	ヒシヤクゴケ科	マルバコオイゴケモドキ	<i>Diplophyllum andrewsii</i> A. Evans	NT				○			林内	土上	北海道・本州・ 四国・九州	

植物 (蘚苔類) の一覽表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由			生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境			
苔類	クサリゴケ科	サンカクゴケ※	<i>Drepanolejeunea teysmannii</i> (Gottsche) Steph.	VU	CR+EN			○			林内	樹幹	本州・四国・九州	
苔類	ヤスデゴケ科	カミムヤスデゴケ	<i>Frullania brotheri</i> Steph.	NT	CR+EN			○			林内	岩上	本州・四国	
苔類	ヤスデゴケ科	オニヤスデゴケ	<i>Frullania nepalensis</i> (Spreng.) Lehm. & Lindenb.	NT	VU	VU		○			林内	岩上・樹幹	本州・四国・九州	
苔類	ヤスデゴケ科	オキナワヤスデゴケ※	<i>Frullania okinawensis</i> Kamim.	CR+EN			DD	○			林内	樹皮	本州・琉球	
苔類	ヤスデゴケ科	サカフヤスデゴケ	<i>Frullania sackawana</i> Steph.	VU		NT	VU	○			林内	岩上・樹幹	本州・四国	
苔類	ヤスデゴケ科	オンタケヤスデゴケ	<i>Frullania schensiana</i> C. Massal.	NT				○			林内	樹幹・岩上	本州・九州	
苔類	ヤスデゴケ科	タラダケヤスデゴケ	<i>Frullania taradakensis</i> Steph.	VU		VU		○			林内	岩上	本州・四国・九州	
苔類	ヤハネゴケ科	エンヤハネゴケ	<i>Fuscocephaloziaopsis connivens</i> (Dicks.) Vaňá & L. Söderstr.	VU				○			林内	腐木上	北海道・本州・ 四国	
苔類	ミゾゴケ科	コアミミミゴケ	<i>Gymnomitrium commutatum</i> (Limpr.) Schiffn.	NT				○			林内	岩上	北海道・本州・ 四国・九州	
苔類	チヂレヤハズゴケ科	エンヤハズゴケ	<i>Hattorianthus erimonus</i> (Steph.) R. M. Schust. & Inoue	VU	NT			○			渓谷	岩上・ 腐食土上	北海道・本州・ 九州	
苔類	タカサゴソコマメ ゴケ科	タカサゴソコマメゴケ	<i>Jackiella javanica</i> Schiffn.	NT		VU		○			林内	土上	本州・四国・九州・ 琉球	
苔類	クサリゴケ科	ヒメコミミゴケ	<i>Lejeunea curviloba</i> Steph.	NT				○			林内	樹幹	本州・四国・九州・ 琉球	
苔類	クサリゴケ科	コダマクサリゴケ	<i>Lejeunea kodamae</i> Ikegami & Inoue	VU	CR+EN			○			渓谷	樹幹	本州	
苔類	ウロコゴケ科	ホリカワトサカゴケ	<i>Lophocolea horikawana</i> S. Hatt.	NT				○			林内	湿岩上	本州・九州	
苔類	ウロコゴケ科	ナカジマトサカゴケ	<i>Lophocolea nakajimae</i> S. Hatt. & Inoue	VU		NT		○			林内	腐木上	本州・四国・九州	

植物 (蘚苔類) の一覧表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由			生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境			
苔類	クサリゴケ科	ヤマトクロウロコゴケ	<i>Lopholejeunea zollingeri</i> (Steph.) Schiffn.	CR+EN				○			林内	岩上・樹幹	本州・四国・九州・琉球	
苔類	タナネイチョウゴケ科	フォーリーイチョウウロコゴケ	<i>Lophozia guttulata</i> (Lindb. & Arnell) A. Evans	NT				○			林内	倒木・腐植土	北海道・本州・四国・九州	
苔類	ミゾゴケ科	チャボミゾゴケ	<i>Marsupella disticha</i> Steph.	NT				○			林内	岩上 (隙間)	本州	
苔類	オオサワラゴケ科	オオサワラゴケ※	<i>Mastigophora diclados</i> (Brid. ex F. Weber) Nees	CR+EN			VU	○			渓谷	岩上	本州・四国・九州・琉球・小笠原	
苔類	クサリゴケ科	コクサリゴケモドキ	<i>Metalejeunea cucullata</i> (Reinw., Blume & Nees) Grolle	CR+EN				○			林内	樹幹	本州・九州・琉球	
苔類	フタマタゴケ科	コオイフタマタゴケ	<i>Metzgeria crassipilis</i> (Lindb.) A. Evans	CR+EN	VU			○			林内	樹幹	本州・九州	
苔類	フタマタゴケ科	カギフタマタゴケ	<i>Metzgeria leptoneura</i> Spruce	VU				○			林内	岩上	本州・四国・九州	
苔類	サワラゴケ科	サワラゴケ	<i>Neotrichocolea bissetii</i> (Mitt.) S. Hatt.	CR+EN				○			渓谷	湿岩上	本州・四国・九州	
苔類	キウロコゴケ科	キウロコゴケ※	<i>Notoscaphus paroicus</i> Schiffn.	CR+EN				○			林外	岩上・倒木	本州・四国・九州・琉球	
苔類	ハネゴケ科	チチブハネゴケ	<i>Plagiochila flexuosa</i> Mitt.	VU	NT			○			渓谷	岩上	本州	
苔類	ハネゴケ科	ヤハズハネゴケ	<i>Plagiochila furcifolia</i> Mitt.	VU		VU		○			渓谷	樹幹	本州・四国・九州・琉球	
苔類	ハネゴケ科	オオハネゴケ	<i>Plagiochila magna</i> Inoue	CR+EN				○			稜線	岩上	本州・四国・九州	
苔類	ハネゴケ科	マキノハネゴケ	<i>Plagiochila nepalensis</i> Steph.	CR+EN	NT			○			林内	岩上・根元	本州・四国	
苔類	ハネゴケ科	ヒメマルバハネゴケ	<i>Plagiochila orbicularis</i> (S. Hatt.) S. Hatt.	NT	NT			○			渓谷	湿岩上	北海道・本州・四国・九州・琉球	

植物 (蘚苔類) の一覽表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由			生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境			
苔類	ハネゴケ科	アツメハネゴケ	<i>Plagiochila peculiaris</i> Schiffn.	CR+EN				○			林内	岩上・樹幹	本州・四国・九州	
苔類	ハネゴケ科	ヒメハネゴケ	<i>Plagiochila porelloides</i> (Torr. ex Nees) Lindenb.	VU				○			林内	樹幹	本州・四国・九州	
苔類	アミバゴケ科	アイバゴケ	<i>Plicanthus birmensis</i> (Steph.) R. M. Schust.	NT				○			林内	岩上	本州・四国・九州	
苔類	アミバゴケ科	トゲアミバゴケ※	<i>Plicanthus hirtellus</i> (F. Weber) R. M. Schust.	VU				○			林外	岩上	本州・四国・九州	
苔類	クラマゴケモドキ科	ケクラマゴケモドキ	<i>Porella fauriei</i> (Steph.) S. Hatt.	NT				○			林内	樹幹	北海道・本州	
苔類	クラマゴケモドキ科	タカキクラマゴケモドキ	<i>Porella oblongifolia</i> S. Hatt.	NT	VU			○			林内	樹幹・岩上	本州・四国	
苔類	ケビラゴケ科	ヨウジョウケビラゴケ	<i>Radula acuminata</i> Steph.	NT		CR+EN		○			林内	樹幹・岩上	本州・四国・九州・琉球	
苔類	ケビラゴケ科	シゲリケビラゴケ	<i>Radula javanica</i> Gottsche	NT		CR+EN		○			渓谷	岩上・樹幹	本州・四国・九州・琉球・小笠原	
苔類	ケビラゴケ科	オカムラケビラゴケ	<i>Radula okamurana</i> Steph.	VU				○			林内	樹幹	本州・四国・九州・琉球	
苔類	スジゴケ科	ヒメテングサゴケ	<i>Riccardia planiflora</i> (Steph.) S. Hatt.	DD		DD		○			林内	腐木上	北海道・本州・四国・九州	
苔類	ウキゴケ科	ミヤケハタケゴケ	<i>Riccia latifrons</i> var. <i>miyakeana</i> (Schiffn.) Furuki	DD		DD		○			低地	土上	本州・四国・九州・琉球	
苔類	ウキゴケ科	イチヨウウキゴケ※	<i>Ricciocarpos natans</i> (L.) Corda	NT		NT		○			水田・湿地	浮遊・土上	北海道・本州・四国・九州・琉球	
苔類	ヒシヤクゴケ科	ムカシヒシヤクゴケ※	<i>Scapania ornithopoides</i> (With.) Waddell	DD	CR+EN			○			渓谷	湿岩上	本州・四国	
苔類	ヒシヤクゴケ科	タマゴバヒシヤクゴケ	<i>Scapania subnimbosa</i> Steph.	CR+EN				○			林内	湿岩・腐木	本州・四国・九州	
苔類	ヒシヤクゴケ科	ムラサキヒシヤクゴケ	<i>Scapania undulata</i> (L.) Dumort.	VU		VU		○			渓流	湿岩～水中	北海道・本州・四国・九州	

植物 (苔類) の一覧表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由			生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境薬化	採取	特殊環境			
苔類	ヒシャクゴケ科	オヤコゴケ※	<i>Schistochilopsis cornuta</i> (Steph.) Konstant.	NT				○			林内	土上、 倒木上	北海道・本州・ 四国・九州	
苔類	ソロイゴケ科	ホウキゴケ	<i>Solenostoma comatum</i> (Nees) C. Gao	DD				○			低地	土上	本州・四国・九州・ 琉球・小笠原	
苔類	ソロイゴケ科	タチツボミゴケ	<i>Solenostoma erectum</i> (Amakawa) C. Gao	NT				○			渓谷	湿岩上	本州・四国・九州	
苔類	ソロイゴケ科	ホリカワツボミゴケ	<i>Solenostoma horikawanum</i> (Amakawa) Váňa, Hentschel & Heinrichs	CR+EN				○			林外	岩上	本州・四国・九州	
苔類	ソロイゴケ科	オチツボミゴケ	<i>Solenostoma oitianum</i> (S. Hatt.) R. M. Schust.	VU	VU	VU		○			低地	土上	本州・四国・九州	
苔類	ソロイゴケ科	ハネツボミゴケ	<i>Solenostoma plagiochilaceum</i> (Grolle) Váňa & D. G. Long	VU	CR+EN	VU		○			林外	湿岩上、 湿土上	本州	
苔類	ソロイゴケ科	オオツボミゴケ	<i>Solenostoma radiceulosum</i> Mitt.	CR+EN				○			渓谷	岩上	本州・四国・九州	
苔類	ソロイゴケ科	アカツボミゴケ	<i>Solenostoma rubripunctatum</i> (S. Hatt.) R. M. Schust.	VU	CR+EN			○			低地	土上	本州・四国・九州	
苔類	ソロイゴケ科	ゴマダラツボミゴケ	<i>Solenostoma tetragonum</i> (Lindenb.) R. M. Schust. ex Váňa & D. G. Long	CR+EN				○			低地	湿岩、土上	本州・九州・琉球	
ツノ ゴケ 類	キノボリツノゴケ科	キノボリツノゴケ※	<i>Dendroceros japonicus</i> Steph.	CR+EN	CR+EN		CR+EN	○			渓谷	樹幹	本州・四国・九州・ 琉球・小笠原	

● 主な植物（蘚苔類）の解説 ●

フウリンゴケ *Bartramiopsis lescurii* (James) Kindb. 蘚類 スギゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------------	----	------	---	---	---

選定理由

亜高山の針葉樹林下の土上に群落を形成する蘚類である。針金のような茎の下半分には葉がない。葉は乾燥すると強く巻縮する。葉鞘部の縁に数本の長毛が並ぶのも特徴である。葉身部の断面は2細胞層で、薄板は中肋の腹面側にのみ数列あり、高さは3~8細胞ある。蒴は風鈴のような形をし、蒴歯がなく、帽も無毛である。

紀南の大塔山系の渓谷に生育しており、しかも標高の低い場所でのみ記録されている。本来ならば山地上部の樹林帯で大きな群落として見られ、奈良県では千数百mを超える場所では普通である。亜高山帯のない和歌山県の照葉樹林内での生育は珍しく、本種の南限域としても貴重である。今後の詳細な調査が待たれる。



執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 1990. 照葉樹林にフウリンゴケ見つかる. 植物地理・分類研究, 38 (1) : 21.
 - 2 岩月善之助 編. 2001. 日本の野生植物 コケ. 355pp. 平凡社, 東京.
 - 3 Noguchi, A. 1987. Illustrated moss flora of Japan Part 1. 1- 242. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 写真: 土永浩史撮影

ウチワチョウジゴケ (キセルゴケ) *Buxbaumia aphylla* Hedw. 蘚類 キセルゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------------	----	------	---	---	---

選定理由

緑色の配偶体は退化し、葉がない。孢子体の蒴がよく発達していて、一見するとコケには見えない。針葉樹林帯の腐植土上等に散在し生育しているが、高さが15mmほどと小さい。蒴は成熟すると赤褐色で、傾いてつき、上面は平らになり、側部は明瞭な稜がある。また、蒴柄は密に乳頭で被われている。

和歌山県内でも護摩壇山や果無山脈等、標高の高い場所に限定され、記録されている。中部地方以北の亜高山帯では稀ではないが、本県では生育の条件は狭められているであろう。上述のようにコケとして目立つ存在ではないため、見逃されている可能性は否定できないが、今後も詳細な調査が必要である。



執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史・山本誠二. 1994. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅰ. 南紀生物, 36 (1) : 15-20.
 - 2 Noguchi, A. 1987. Illustrated moss flora of Japan Part 1. 1- 242. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
 - 3 山本誠二・土永浩史. 1993. 紀伊半島に新たに見つかったキセルゴケについて. 日本蘚苔類学会会報, 6 (1) : 5.
- 写真: 土永浩史撮影

クマノチョウジゴケ *Buxbaumia minakatae* S. Okam. 蘚類 キセルゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	--------------------	----	------	---	---	---

選定理由

同属のウチワチョウジゴケと同様に配偶体は退化していて、葉が見られない。発見者の南方熊楠は「葉ナシゴケ」だと記している。熊楠もキノコ的一种と思い採集したが、キセルゴケ属の1種で、同郷の岡村周諦により新種記載された。蒴柄が短いので、ほとんど目立たない。発達した蒴はほぼ円筒形で側部に稜がないのが特徴である。

最初に見つかった紀南での記録は、国内での分布からすると南限域にあたる。熊楠は熊野地方の植物調査で、本種を熱心に採集していて、国立科学博物館に標本が保管されている。和歌山県を代表する植物の一つと言えるが、当時の自然林がない現在、極めて貴重な記録である。山地の腐木上に稀に生育するが、コケのイメージとはかけ離れているので、調査も容易ではない。



執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 Noguchi, A. 1987. Illustrated moss flora of Japan Part 1. 1- 242. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
 - 2 Okamura, S. 1911. Neue Beiträge zur Moosflora Japans. I. Botanical Magazine, 25 (288) : 30-34.
 - 3 太田耕二郎. 1976. 南方熊楠と蘚の考証. 田辺文化財, (19) : 1-4.
 - 4 太田耕二郎. 1988. 和歌山県の蘚類おぼえがき. 13pp. (自費出版)
- 写真：土永浩史撮影

ヤリノホゴケ *Calliergonella cuspidata* (Hedw.) Loeske 蘚類 ハイゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	--------------------	----	------	---	---	---

選定理由

湿地や放棄水田等に黄緑色から緑色の群落を形成する。茎は羽状に分枝し、枝先では覆瓦状に葉をつけて、真っ直ぐに尖る。茎葉は卵形から楕円状卵形で凹み、先端は丸いが、ときに短尖頭である。葉は全縁で、中肋は2本で短く、ときに欠く。葉身細胞は線形で、薄壁である。翼細胞は方形で膨らみ薄膜、やや透明で明瞭な区画をつくる。



和歌山県に少ない湿原と類似した生育環境として、近年増加しつつある放棄水田で、その生育が見られた。植物体の大きさも手のひらサイズであるが、他の蘚類と混生していれば、詳細に調べないと野外で判断は難しい。今後新たな生育環境として放棄水田に注意を払う必要があり、更なる調査に期待したい。

執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 土永浩史・山本誠二. 2020. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類VI. 南紀生物, 62 (1) : 40-44.
 - 2 岩月善之助 編. 2001. 日本の野生植物 コケ. 355pp. 平凡社, 東京.
 - 3 Noguchi, A. 1991. Illustrated moss flora of Japan Part 4. 743-1012. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 写真：土永浩史撮影

フロウソウ	<i>Climacium dendroides</i> (Hedw.) F. Web. & Mohr	藓類	コウヤノマンネングサ科
県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012
			-
		国	-

選定理由

湿った土上や腐植土上で樹状に分枝して立ち上がって生育する。一次茎は匍い、5 cm ほど二次茎が起き上がるが、同属のコウヤノマンネングサほど大きくない。主茎はまっすぐに伸びて湾曲せず、枝先もあまり細くならないという違いがある。また、枝の表面には毛葉が多く見られる。枝葉は幅広く、先端は広く尖り、中肋の背面は平滑である。



近年、紀南で新たに見つかったので、和歌山県内の実態は不明である。植物体が伸び上がり大きな群落を形成するので、目立つ存在であるにも関わらず記録がなかった。もともと県内に生育している個体自体が少量なのかも知れないので、広く調査を進めて実態を把握する必要がある。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史・山本誠二. 2020. 紀伊半島産の興味ある藓類Ⅵ. 南紀生物, 62 (1) : 40-44.
 - 2 岩月善之助 編. 2001. 日本の野生植物 コケ. 355pp. 平凡社, 東京.
 - 3 Noguchi, A. 1994. Illustrated moss flora of Japan Part 5. 1013-1253. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 写真: 土永浩史撮影

カシミールクマノゴケ	<i>Diphyscium kashmirensis</i> (H. Rob.) Magombo	藓類	イクビゴケ科
県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012
			-
		国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

溪流の岩場に生育する小形の藓類である。配偶体の葉は黒緑色で、幅広い基部から細いひも状に伸びる。中肋背面には線形の透明な細胞が葉の先端近くまで並ぶのが特徴である。乾燥すると葉は強く巻縮する。

同属のクマノゴケと似た環境に生育するが、水が滴る岩上にクマノゴケが見られるのに対して、本種は、やや乾燥気味の岩上に生育している。本種の和歌山県内産地は極めて限定されていて貴重である。同様の生育場所を再調査すれば、本種の実態が得られる可能性も高く、今後の調査に期待したい。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 2009. 紀伊半島における藓類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会誌, (45) : 24-37.
- 2 Magombo, Z. 2003. Taxonomic revision of the moss family Diphysciaceae M. Fleisch. (Musci). The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (94) : 1-86.
- 3 太田耕二郎. 1988. 和歌山県の藓類おぼえがき. 13pp. (自費出版)

フガゴケ	<i>Gymnostomiella longinervis</i> Broth.	藓類	マルダイゴケ科			
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

石灰岩や石灰質を含む岩上に生育する5 mmほどの小形の藓類である。茎の頂端に楕円形で多細胞の無性芽をつける。葉はまばらにつき、倒卵形からへら形で、葉先は円頭をしている等の特徴がある。葉縁は平坦であるが、上部の縁にパピラがある。葉身細胞は四角形から六角形で、2~4個の小さいパピラがあるが、下部の細胞は平滑である。中肋は葉先から少し下で終わっている。



選定理由

紀南の産地は石灰岩ではなく、一部石灰質を含んだ岩上に少量生育していた。道路拡張に伴い生育地は影響を受け、詳細な調査が望まれる。県内には石灰岩地域が少ないので、稀少性に富む種とみられる。全国的にも本種は記録が少なく、また環境の変化に対して大きく影響を受けやすいとみられる。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 1997. 千葉県におけるフガゴケの新たな産地. 藓苔類研究, 7 (3) : 81-82.
 - 2 土永浩史. 2009. 紀伊半島における藓苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45) : 24-37.
 - 3 岩月善之助 編. 2001. 日本の野生植物 コケ. 355pp. 平凡社, 東京.
 - 4 環境省 編. 2015. レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 9 植物Ⅱ (藓苔類・藻類・地衣類・菌類). 580pp. ぎょうせい, 東京.
- 写真: 土永浩史撮影

マムシゴケ	<i>Meiothecium microcarpum</i> (Harv.) Mitt.	藓類	ナガハシゴケ科			
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)

樹幹に着生する黄緑色をした中形の藓類で、一見ハシボソゴケに似ている。茎は樹皮に密着し、あまり分枝しない。葉は卵形から狭卵形で短く尖る。葉面は凹み、縁は全縁で中肋を欠く。葉身細胞は長菱形で、翼部には3~5個の大形で透明な細胞が並ぶ。蒴柄は短く1~2 mmほどで、蒴は小形でやや傾くか、ほぼ相称である。



選定理由

紀伊半島以南に分布するが、産地は極めて限られている。生育地は国立公園内に含まれていることから、樹木が伐採される危険は少ない。しかし、谷間周辺が環境が変化することでダメージを受けやすいので、継続して見守るとともに、新たな生育地の調査や確認が必要である。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 2009. 紀伊半島における藓苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45) : 24-37.
 - 2 土永浩史・山本誠二. 2013. 紀伊半島産のマムシゴケ. 藓苔類研究, 10 (10) : 355-356.
 - 3 Noguchi, A. 1994. Illustrated moss flora of Japan Part 5. 1013-1253. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 写真: 土永浩史撮影

ヤクシマナワゴケ *Oedocladium rufescens* (Reinw. & Hornsch.) Mitt. var. *yakushimense* (Sak.) Z. Iwats. 蘚類 ナワゴケ科

県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
-------	------------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

溪流近くの岩壁等に生育する暗い黄緑色をした大形の蘚類である。植物体は赤褐色の光沢を持ち、他の緑色の蘚類とは異なるマットを形成する。葉は密につけ、3~4 mm の長さで、乾燥しても縮れない。卵形から倒卵形で葉縁は内曲して凹み、先は急に細く針状に尖る。葉身細胞の壁は厚く、ところどころくびれがある。中肋はほとんどなく、葉基部の翼細胞は褐色の明瞭な区画をつくる。



基本種は熱帯地方に広く分布し、紀伊半島は北限域にあたる。今のところ産地も限られ、多産しないことから注目すべき種群に含まれる。生育していれば、野外でも肉眼で確認できるほどの大きな群落を形成するので、今後も詳細な調査から実態を把握する必要がある。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45): 24-37.
 - 3 土永浩史・山本誠二. 1997. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ. 南紀生物, 39 (1): 9-13.
 - 4 Iwatsuki, Z. 1979. Re-examination of *Myurium* and its related genera from Japan and its adjacent areas. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (46): 257-283.
- 写真: 土永浩史撮影

ササオカゴケ (アオモリカギハイゴケ) *Sasaokaea aomoriensis* (Par.) Kanda 蘚類 ヤナギゴケ科

県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)
-------	------------------	----	------	---	---	------------------

選定理由

湿原や湿地、水中にも生育する鮮やかな黄緑色をした大形の蘚類である。茎は長く 10 cm 以上にもなり、羽状に分枝する。大きな特徴として、茎には、先が分かれた細長い毛葉が多数見られることがあげられる。茎葉は卵状披針形で凹み、鋭頭で鎌状に曲がり、葉先には小歯がある。中肋は 1 本で長く、3/4 以上になり、翼細胞はあまり分化しない。胞子体が数年前に国内で見つかった。和歌山県内には雌株の個体が多いが、胞子体はまだ知られていない。



近年になって紀南で生育が確認された貴重な種である。よく日の当たる湿った場所に限られる。最近、増加している放棄水田の一部に繁殖している産地もあるが、周囲が草本で覆われると生育が妨げられ、他種との競争に負けるようである。今のところ紀南に点在しているが、明るくて湿った環境が維持されていないと姿を消してしまう種とみられ、調査が急がれる。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史・鶴沢美穂子・秋山弘之. 2020. 紀伊半島南部のササオカゴケ. 蘚苔類研究, 12 (5): 130-132.
 - 2 土永浩史・山本誠二. 2020. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅵ. 南紀生物, 62 (1): 40-44.
 - 3 Noguchi, A. 1991. Illustrated moss flora of Japan Part 4. 743-1012. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 写真: 土永浩史撮影

シャクシゴケ (ミドリシャクシゴケ) *Cavicularia densa* Steph. 苔類 ウスバゼニゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------------	----	------	---	---	---

選定理由

山地の湿った土上や崖面に生育する暗緑色の葉状体で、純群落を形成する。同科のウスバゼニゴケ属と同様に小さな点状にラン藻が2列に並び、共生するという特徴を持つ。葉状体は匍匐し、先端で二叉状に分枝する。翼部は細かく切れ込んでいる。葉状体の先端部には半月形の凹みがあり、金平糖状の無性芽をつける。日本固有種である。



比較的日本海側に分布し、近畿では北部に多いとされていて、和歌山県内の産地は限定されている。上記の生育環境はどこにでもありそうであるが、これまで記録されていなかった。葉状体内の腔所にある黒色のラン藻や特異な形態をした無性芽の存在で、野外でも同定することが可能な種である。詳細な調査が望まれる。

執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 土永浩史・山本誠二. 2020. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅵ. 南紀生物, 62 (1) : 40-44.
- 2 井上 浩. 1976. 続・日本産苔類図鑑. 193pp. 築地書館, 東京.
- 3 児玉 努. 1972. 近畿地方の苔類 (第二部), 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第4集. 132pp. 大阪.
写真: 土永浩史撮影

ボウズムシトリゴケ *Colura meijeri* Jovet-Ast 苔類 クサリゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

溪流沿いや常緑樹林内の樹幹や樹枝、生葉上に着生する微小な苔類である。淡緑色で、5 mm 足らずの茎でほとんど分枝しない。葉は著しく背側に偏向し、背片は接在して、卵形で全縁である。腹片の上部は膨らみ、楕円形で鈍頭の袋状になる。葉身細胞は薄膜だが、トリゴンが大きく、円形である。腹葉は葉1枚につき1枚ずつあり、深く2裂する。葉の先端には円盤状の無性芽をつける。



紀南の高湿度の谷間に生育する貴重種だが、現地で見分けるのは困難である。同環境にはクサリゴケ科が多産するので、顕微鏡下で詳細に調べることで判明するが、森林の伐採等で乾燥が進めば、すぐに消えていく種群である。生育環境の維持が大切である。

執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 土永浩史. 1991. 北海道大学和歌山地方演習林産蘚苔類2種. 南紀生物, 33 (2) : 97-99.
- 2 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 3 土永浩史・山本誠二. 1997. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ. 南紀生物, 39 (1) : 9-13.
- 4 児玉 努. 1972. 近畿地方の苔類 (第二部), 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第4集. 132pp. 大阪.
- 5 Mizutani, M. 1961. A revision of Japanese Lejeuneaceae. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (24) : 115-302.
写真: 土永 (1991) 典拠

ナガバムシトリゴケ *Colura tenuicornis* (A. Evans) Steph. 苔類 フサリゴケ科

県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) 旧県 2012 国 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)

湿度の高い溪流の灌木や常緑樹林内の樹幹に着生する微小な苔類である。淡緑色で5 mm 足らずの莖に、著しく偏向する葉を接在させる。葉は全縁で、腹片は背片より長く円筒形で、上部が膨らみ細長い牛の角状の袋となる。葉身細胞は薄膜でトリゴンがない。袋状の内側の先端に小さい開口部があり、透明で円形の弁がある。また腹葉は葉1枚につき1枚ずつで、深く2裂し、円盤状の無性芽をつける等は同属のボウズムシトリゴケと同じ特徴である。



熱帯から亜熱帯に分布する両種は、紀伊半島が北限域で和歌山県内の産地も限定されている貴重な種である。繊細で微小な植物体なので、わずかな環境の変化に影響を受けやすい。個体が減少しないように、より広い範囲の生育環境を維持していくことが求められる。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史・山本誠二. 1997. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ. 南紀生物, 39 (1) : 9-13.
 - 2 土永浩史・山本誠二. 2008. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅴ. 南紀生物, 50 (2) : 222-226.
 - 3 児玉 努. 1972. 近畿地方の苔類 (第二部), 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第4集. 132pp. 大阪.
 - 4 Mizutani, M. 1961. A revision of Japanese Lejeuneaceae. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (24) : 115-302.
- 写真: 土永浩史撮影

オキナワヤスデゴケ *Frullania okinawensis* Kamim. 苔類 ヤスデゴケ科

県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) 旧県 2012 国 情報不足 (DD)

樹幹に着生する淡緑褐色から褐色をしたヤスデゴケ属の一種である。植物体は20 mm程度で不規則に分枝する。莖葉の背片は広卵形から円形、全縁で先端は丸く、背片の基部は耳状に発達する。葉身細胞の細胞壁は薄い、中間部が肥厚し、トリゴンは大きい。腹片は帽状で嘴がよく伸びる。腹葉は円形でゆるく重なり合い、莖の4倍ほどの横幅があり、1 / 6~1 / 4まで2裂する。花被の表面は平滑である。

近年、沖縄のタイプ標本以外で記録された稀少な種で、本土で初めての記録である。1964年に採集された標本から見出された。現状は不明である。カラヤスデゴケに似ている点から、これまで同定された標本を再調査する必要も出てきた。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 細井啓子・山田耕作. 2010. オキナワヤスデゴケ (ヤスデゴケ科, タイ類) が和歌山県で見つかる. 蘚苔類研究, 10 (2) : 50-52.
- 2 Kamimura, M. 1982. Some addenda to the *Frullania* of Japan and neighboring area III. Miscellanea Bryologica et Lichenologica, 9 (4) : 87-93.

オオサワラゴケ *Mastigophora diclados* (Brid. ex F. Weber) Nees 苔類 オオサワラゴケ科

県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) 旧県 2012 国 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

山地の岩上や樹幹に黄褐色のマットを形成する大形の苔類である。莖は直立から斜上しており、1~2回羽状に分枝し、枝の先は鞭枝状に伸びる。葉は重なり偏平に展開し、1 / 2~1 / 3まで3裂する。葉裂片は三角形で尖り、背片ほど大きく全縁、基部に裂片状の突起がある。葉身細胞は薄壁で、トリゴンを極めて大きい。腹葉は楕円形で、1 / 2まで2裂する。

熱帯地域に普通に見られる本種は、屋久島では旺盛な生育が見られる。紀伊半島南部は

その北限域にあたり、貴重な生育地であるが、産地は限定されている。他の地域では、森
 選定理由 林伐採等、生育地の乾燥化により消失したという報告もされている。

執筆者（土永浩史）

参考文献
・情報

- 1 環境省 編. 2015. レッドデータブック 2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物－ 9 植物Ⅱ（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）. 580pp. ぎょうせい, 東京.
- 2 児玉 努. 1968. 紀州産苔類雑記. 南紀生物, 10 (1・2) : 15.
- 3 児玉 努. 1972. 近畿地方の苔類（第二部）, 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第4集. 132pp. 大阪.
- 4 太田耕二郎. 1989. 和歌山県の苔類おぼえがき. 10pp. (自費出版)

キウロコゴケ *Notoscyphus paroicous* Schiffn. 苔類 キウロコゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------------	----	------	---	---	---

低山地の土上や腐木上に生育する 10 mm 程度の黄緑色をした小形の苔類である。分枝は少なく、仮根は無色で、腹葉の基部から出る。葉は斜めについて、広く開出し、舌形で円頭・全縁、背縁は茎に流下する。葉身細胞は薄膜でトリゴンが大きく、表面にベルカがある。油体は各細胞に 2~8 個、球形から楕円体、微粒の集合である。腹葉は茎幅より狭く、
 選定理由 1 / 2~1 / 3 まで 2 裂する。花披が痕跡的で鱗片状であるのが特徴である。

東南アジアから琉球や四国まで分布していて、本州では紀伊半島南部が北限域となっている。常緑広葉樹林内に生育し、小形の蘚苔類と混生することもあるので、注意が必要である。和歌山県でも産地が限られている貴重な種で、紀南地域を中心に詳細な調査が望まれる。
 執筆者（土永浩史）

参考文献
・情報

- 1 井上 浩. 1976. 続・日本産苔類図鑑. 193pp. 築地書館, 東京.
- 2 岩月善之助 編. 2001. 日本の野生植物 コケ. 355pp. 平凡社, 東京.
- 3 太田耕二郎. 1989. 和歌山県の苔類おぼえがき. 10pp. (自費出版)

キノボリツノゴケ *Dendroceros japonicus* Steph. ツノゴケ類 キノボリツノゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)
--------	------------------	----	------	---	---	------------------

溪流沿いの樹幹や枝に着生する暗緑色のツノゴケの一種である。葉状体の長さは 2~3 cm、幅は 1.2~2 mm で、不規則に二叉状に分岐する。中肋部と翼部に明瞭に分かれ、翼部は全縁で、単細胞層で著しく波打つ。翼部の細胞壁は薄く、トリゴンは大きくて孔がある。葉緑体は大きく各細胞に 1 個見られる。胞子体は円柱状で 1~2 cm、蒴に気孔はなく、胞子は淡緑色の多細胞性で 120 μm ほどである。



選定理由

高湿度な環境を維持している紀南の渓谷に限定し生育している。本属が唯一の着生性のツノゴケで、森林の伐採や渓谷への土砂の流入により環境が変化することで消滅する可能性が極めて高い種である。近隣の県では生育の確認されていない所が増え、和歌山県内の同様の生育地を早急に調べておく必要がある。

執筆者（土永浩史）

参考文献
・情報

- 1 土永浩史・山本誠二. 1994. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅱ. 南紀生物, 36 (2) : 120-122.
 - 2 土永浩史・山本誠二. 1999. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅳ. 南紀生物, 41 (1) : 11-14.
 - 3 Hasegawa, J. 1980. Taxonomical studies on Asian Anthocerotae II. Some Asian species of *Dendroceros*. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (47) : 287-309.
 - 4 環境省 編. 2015. レッドデータブック 2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物－ 9 植物Ⅱ（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）. 580pp. ぎょうせい, 東京.
 - 5 太田耕二郎. 1989. 和歌山県の苔類おぼえがき. 10pp. (自費出版)
- 写真：土永浩史撮影

キジノオゴケ *Cyathophorum asiantum* (Griff.) Mitt. 蘚類 クジャクゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	---	---	------------

選定理由

溪流沿いの樹幹や岩上に着生する比較的大形の濃い緑色した蘚類で、二次茎がほとんど枝分かれない。長さは4~5 cmで、先端は尾状に尖り、線状の無性芽を多くつける。側葉は狭楕円状卵形で非相称、葉縁に鋭い刺状の長い歯がまばらにある。舷は不明で、中肋は短い。葉身細胞は狭い六角形で厚壁、くびれがある。腹葉は倒卵形から楕円形で中肋を欠き、先端は急に尖る。蒴は極めて稀である。

紀南の渓谷に生育しているが、産地は少なく、限定的である。同属のコキジノオゴケよりも生育範囲は狭く、より貴重な種である。林道の拡張工事から生育地の湿度が保てずに姿を消している場所もあった。



執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 土永浩史. 2008. 紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種. 南紀生物, 50 (1) : 6-14.
 - 3 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45) : 24-37.
 - 4 土永浩史・山本誠二. 1997. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ. 南紀生物, 39 (1) : 9-13.
 - 5 Noguchi, A. 1991. Illustrated moss flora of Japan Part 4. 743-1012. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 写真：土永浩史撮影

オオミツヤゴケ *Entodon conchophyllus* Cardot 蘚類 ツヤゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

山地、特に山頂やそれに近い尾根筋の樹幹に着生する蘚類である。光沢のある鮮やかな黄緑色から褐色を帯びた緑色の植物体で、孢子体をよくつける。葉は茎に密につき、卵形から楕円状卵形で、深く凹み、先端は急に細く尖る。葉は先端を除き全縁である。中肋は2叉して短く、葉身細胞は線形である。蒴は短くて卵形から球形に近く、孢子の長径が35~55 μmと著しく大きいことが特徴である。

和歌山県内の標高1000 mを超える山地の樹幹に数箇所生育しているが、ブナ等が残されている僅かな場所には、今後も見つかる可能性はある。森林の伐採で消失してしまうので、早急に調べておく必要がある。他県でも、その生育が確認できていないという報告がある。



執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 2008. 紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種. 南紀生物, 50 (1) : 6-14.
 - 2 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45) : 24-37.
 - 3 土永浩史. 2009. 紀伊半島大塔山山頂におけるオオミツヤゴケの生育状況. 蘚苔類研究, 9 (12) : 395-396.
 - 4 土永浩史・山本誠二. 2020. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅵ. 南紀生物, 62 (1) : 40-44.
 - 5 環境省 編. 2015. レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 9 植物Ⅱ (蘚苔類・藻類・地衣類・菌類). 580pp. ぎょうせい, 東京.
 - 6 Noguchi, A. 1994. Illustrated moss flora of Japan Part 5. 1013-1253. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 写真：土永浩史撮影

タチチョウチンゴケ *Orthomnion dilatatum* (Mitt.) P. C. Chen 蘚類 チョウチンゴケ科

県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 旧県 2012 - 国 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)

やや濃い緑色をした匍匐茎が樹幹に着生する大形の蘚類である。茎は不規則に分枝し、褐色の仮根を密につけ、直立茎の先端に孢子体をつける。他のチョウチンゴケとは異なり、蒴柄は短く、楕円状円筒形の蒴は、直立して曲がらない。匍匐茎の葉は偏平につき、円形から広楕円形で、先端は円頭、ときに微凸頭となる。葉縁に2細胞列の筋があるが、全縁で、中肋は葉先よりかなり下でなくなる。葉身細胞は六角形で厚壁である。



紀南の山地で記録されているものの、生育地は限定されていて、森林伐採等による乾燥地化が進めば生育を維持していくことは困難である。国内でも群落が消滅していたという報告もなされ、注視する必要がある。

執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 土永浩史. 2008. 紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種. 南紀生物, 50 (1) : 6-14.
 - 3 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45) : 24-37.
 - 4 環境省 編. 2015. レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 9 植物Ⅱ (蘚苔類・藻類・地衣類・菌類). 580pp. ぎょうせい, 東京.
 - 5 中嶋徳一郎. 1966. 大塔村蘚類目録の追加. 南紀生物, 8 (2) : 65-66.
 - 6 Noguchi, A. 1989. Illustrated moss flora of Japan Part 3. 493-742. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 写真: 土永浩史撮影

ハシボソゴケ *Papillidiopsis macrosticta* (Broth. & Par.) W. R. Buck & B. C. Tan 蘚類 ナガハシゴケ科

県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 旧県 2012 - 国 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

暖地の溪流沿いの灌木や樹枝に着生し、光沢をもった黄緑色の群落を形成する。茎は匍い、枝をたくさん上方へ伸ばす。葉は丸くついて、乾燥しても展開したままである。枝葉は楕円形で基部が少し狭く、先端はやや鈍頭または短く広く尖る。また深く凹み、中肋は短い。葉身細胞は狭菱形から線形で厚壁、背面側の中央に1個の大きなパピラがある。翼部の細胞は大きくて細長く、厚壁である。雌雄同株なのでよく孢子体をつける。



本州では紀伊半島南部のみで、渓谷等、湿度の高い環境は本種の生育には最適の場所と言える。人為的でなくても災害等土砂崩れにより溪流が埋まり、乾燥化による生育環境の悪化が大きく懸念される。

執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 2 土永浩史. 2008. 紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種. 南紀生物, 50 (1) : 6-14.
- 3 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45) : 24-37.
- 4 土永浩史・山本誠二. 1997. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ. 南紀生物, 39 (1) : 9-13.

- 参考文献・情報
- 5 Noguchi, A. 1994. Illustrated moss flora of Japan Part 5. 1013-1253. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 6 太田耕二郎. 1973. 小口観察会で得た珍しい蘚類. 南紀生物, 15 (2) : 30.
写真: 土永浩史撮影

サンカクゴケ <i>Drepanolejeunea teysmannii</i> (Gottsche) Steph. 苔類 クサリゴケ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-

霧がかかるような山地の樹幹に着生する黄緑色の微小な苔類である。糸くずのような5 mm ほどの茎が不規則に少なく分枝し、葉は披針形で斜めに開出して、背片は離在する。先端は三角形状で、あまり鎌状にならず、鋭頭でやや内曲するのが区別点とされる。縁は鋸歯状で、基部には眼点細胞が1~2個ある。腹片は背片の約1/2の長さで卵形、キールは円錐形の細胞で歯状となる。葉身細胞は薄壁でトリゴンは大きい。腹葉は茎幅とほぼ同じ、1/2まで広く2裂し、裂片基部は1細胞幅で、長さは2~3細胞である。

熱帯アジアの山地に広く分布する本種は、紀伊半島が北限域となり、貴重な存在である。植物体が極めて小さいので、詳細に樹皮を調べないと見逃す恐れもある。現在のところ、紀南の山間部でのみ記録されている。

執筆者 (土永浩史)

- 参考文献・情報
- 1 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 2 児玉 努. 1971. 那智の苔類. 杉野久雄教授停年退官記念誌, 41-48. 大阪.
- 3 児玉 努. 1972. 近畿地方の苔類 (第二部), 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第4集. 132pp. 大阪.
- 4 Mizutani, M. 1961. A revision of Japanese Lejeuneaceae. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (24) : 115-302.

トゲアイバゴケ <i>Plicanthus hirtellus</i> (F. Weber) R. M. Schust. 苔類 アミバゴケ科						
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-

山地の岩上でマットを形成する緑褐色から黄褐色の苔類で、茎は3 cm ほどである。斜上し、分枝も仮根も少ない。葉は重なって、ほぼ横につき、斜めに開出して基部近くまで不等に3裂する。背側の裂片が最も大きく、各裂片の先端は細く尖り、両側が外曲し、縁には細長い歯があるのが特徴である。葉身細胞は長方形で、波状に肥厚した細胞壁でトリゴンが大きい。また、表面にベルカがある。腹葉は小さく、茎幅とほぼ同じで、深く2裂する。



紀南で数箇所記録されている程度で、産地は多くない。生育していれば、純群落をつくることが多いので、葉が3裂する点にも着目すれば、野外でも見分けがつく。今後の詳細な調査が待たれる。

執筆者 (土永浩史)

- 参考文献・情報
- 1 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 2 土永浩史・山本誠二. 2008. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類V. 南紀生物, 50 (2) : 222-226.
- 3 Kitagawa, N. 1965. A revision of the family Lophoziaceae of Japan and its adjacent regions. I. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (28) : 239-291.
- 4 児玉 努. 1971. 近畿地方の苔類 (第一部), 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第3集. 116pp. 大阪.
写真: 土永浩史撮影

コキジノオゴケ *Cyathophorum hookeriana* (Griff.) Mitt. 蘚類 クジャクゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

渓谷や林内の樹幹や岩上に散生する黄緑色の蘚類である。同属のコキジノオゴケよりも小さく、二次茎は2 cm ほどで柔らかい植物体である。側葉は卵形で非相称、先端は短く尖る。葉縁には舷があり、上部の縁に微歯があるか、ほぼ全縁。葉身細胞は六角形で厚壁、くびれがある。腹葉は円形から卵形で、先端は細く尖り、中肋は中部以下で終わるか、稀に欠く。茎の先端は尾状に尖り、葉腋に線状の無性芽をつける。



キジノオゴケ (VU) は主に樹幹に着生しているが、本種は岩上にも見られ、より生育範囲は広い。やはり湿度の高いことが条件で、紀南地域の山間部でも生育地の乾燥化を促す要因は、生育の妨げとなり、また消滅につながる恐れが大きい。

執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45): 24-37.
 - 3 Noguchi, A. 1991. Illustrated moss flora of Japan Part 4. 743-1012. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 写真: 土永浩史撮影

カワブチゴケ *Cyptodontopsis leveillei* (Thér.) P. Rao & Enroth 蘚類 イトヒバゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

増水時には水に浸る溪流沿いの岩場に生育するサツキやヤナギ等の枝に着生するという生態をもつ蘚類である。枝には強く固着しているので容易には流されない。長いものは数10 cm にもなる。不規則に枝分かれし、葉は茎に密につけ、乾くと枝に接する。葉は卵状楕円形で凹み、先端は狭い円頭から鈍頭で、中肋は葉頂下に終わる。葉身細胞は不規則な方形であり、やや厚壁で、1個のパピラがある。雌雄同株でよく蒴をつけるが、蒴柄は短く苞葉の間に沈生して見られる。



紀南の渓谷の淵のある岩場等で、容易に近づけない場所に注目すると、今後も産地は増える可能性はある。ただし、河川改修や護岸工事等で知らぬ間に生育環境は確実に狭められているので、早急に実態を把握しておく必要がある。

執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 土永浩史. 2008. 紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種. 南紀生物, 50 (1): 6-14.
 - 2 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45): 24-37.
 - 3 土永浩史・山本誠二. 1997. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ. 南紀生物, 39 (1): 9-13.
 - 4 太田耕二郎. 1988. 和歌山県の蘚類おぼえがき. 13pp. (自費出版)
- 写真: 土永浩史撮影

コモチイチイゴケ <i>Isopterygium propaguliferum</i> Toyama 蘚類 コモチイトゴケ科						
県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)

山地の腐木や倒木に生育する白緑色で一部緑色が混じることもある。匍匐性の蘚類で、しばしば大きなマットを形成する。茎はやや羽状に分枝するが、細い枝を立ち上げて、その上部に棍棒状の無性芽を多数つけるのが特徴で、この仲間では特異である。無性芽は 10 個足らずの細胞がほぼ 1 列に並び、長さは 40~100 μm 近くまでである。葉は卵形から卵状披針形で、先端部は急に細くなり尖る。葉身細胞は線状で薄壁、平滑である。中肋は欠き、翼部の細胞は長方形から長楕円形で少ない。



全国的には極めて稀で国のカテゴリでは絶滅危惧 I 類 (CR + EN) に属しているが、紀南の山間では点在して分布していることが判明してきている。しかし、同じ腐木上でも他の種が優占していることが大半で、稀少な種である。繁殖や分布の拡大にはこの無性芽の生産が重要な役割をもっていると考えられる。無性芽に着目すれば、野外でも容易に同定することは可能で、引き続き注目し、調査を重ねていく必要がある。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45): 24-37.
- 2 土永浩史・山本誠二. 2008. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類 V. 南紀生物, 50 (2): 222-226.
- 3 土永浩史・山本誠二. 2013. 紀伊半島南部のコモチイチイゴケ. 蘚苔類研究, 10 (12): 413-414.
- 4 土永浩史・山本誠二. 2020. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類 VI. 南紀生物, 62 (1): 40-44.
- 5 環境省 編. 2015. レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 9 植物 II (蘚苔類・藻類・地衣類・菌類). 580pp. ぎょうせい, 東京.
- 6 Noguchi, A. 1994. Illustrated moss flora of Japan Part 5. 1013-1253. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
写真: 土永浩史撮影

トサヒラゴケ <i>Neckeropsis obtusata</i> (Mont.) M. Fleisch. 蘚類 ヒラゴケ科						
県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)

暖地の樹幹や岩上に生育する薄い黄緑色の蘚類で、同属のセイナンヒラゴケによく似る。本種は茎が短く、分枝も少なく、葉の先端は円頭で角張ることはない。また葉の横じわがやや弱く、葉の配列もあまり偏平でないことで区別される。葉身細胞は楕円形から細長い菱形で、厚壁で途中にくびれがある。蒴は苞葉の間に沈生する。

紀南の大塔山系でも産地は少ない。近年、隣の三重県大宮町のスダジイの樹幹で再確認されたが、各地での森林の伐採等の影響で、生育量の減少が報告されている。今後の詳しい調査から新たな産地が得られることを期待したい。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 芦田喜治・木村全邦. 2005. 三重県のトサヒラゴケ. 蘚苔類研究, 8 (11): 373-374.
- 2 土永浩史. 2008. 紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種. 南紀生物, 50 (1): 6-14.
- 3 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45): 24-37.
- 4 土永浩史・立石幸敏. 2016. 北海道大学和歌山研究林で観察された蘚類数種. くろしお, (35): 52-83.

トサノタスキゴケ *Pseudobarbella laosiensis* (Broth. & Paris) Nog. 蘚類 ハイヒモゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

暖地の渓谷の樹枝や灌木から下垂する黄緑色の蘚類であるが、古くなると茶色を帯びてくる。このツヤススキゴケ属の他の種が、茎や枝先まで葉が扁平につくのに対して、本種は小形の葉を丸くつけて紐状となることが特徴である。また、二次茎の葉も小形で上部の縁が波打ち、葉身細胞は線状で、中央に1個のパピラが見られる。中肋は1本で葉の半分で終わる。

熊野川や古座川等、紀南の渓流沿いの湿度の高い環境下に、他の下垂性の蘚類と生育している。東南アジアから北上し、国内では近畿地方以西に分布するとされている。近年の豪雨等で、渓谷が土砂等で埋まり、十分な湿度が得られず、乾燥している場所も見受けられる。今後も継続して生育環境への影響を調べておく必要がある。



執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 土永浩史. 2008. 紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種. 南紀生物, 50 (1) : 6-14.
 - 3 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45) : 24-37.
 - 4 土永浩史・山本誠二. 2020. 紀伊半島の興味ある蘚苔類Ⅵ. 南紀生物, 62 (1) : 40-44.
 - 5 Noguchi, A. 1989. Illustrated moss flora of Japan Part 3. 493-742. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 写真：土永浩史撮影

コバノホソベリミズゴケ *Sphagnum junghuhnianum* Dozy & Molk. ssp. *pseudomolle* (Warnst.) H. Suzuki 蘚類 ミズゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

黄緑色から淡緑色をしたやや大形のミズゴケで、山地の水がしみ出す岩棚や岩壁に生育している。茎葉は三角形から舌状三角形で、先端は狭い切形で鋸歯がある。肋は基部で3~5細胞列あり、ほとんど広がらない。透明細胞には、らせん状の肥厚が見られ、表面の孔は腹面で明瞭である。枝葉はまばらにつき、卵形から卵状披針形で凹み、先端付近で縁は著しく内曲する。

紀南の崖地や切り通しの高所に白っぽいマットを形成するのを見かけるが、生育環境は限定的で貴重な存在である。本種に限らずミズゴケ類の需要は高く、盗掘により減少しているのは事実である。湿原生でない本種が生育できる環境を注意深く見守り、公園内では管理体制も対策として必要である。



執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
 - 2 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45) : 24-37.
 - 3 松田行雄. 2017. ミズゴケ類 Sphagnaceae の絶滅危惧種の指定について. 長野県植物研究会誌, (50) : 101-112.
 - 4 太田耕二郎. 1988. 和歌山県の蘚類おぼえがき. 13pp. (自費出版)
- 写真：土永浩史撮影

イサワゴケ *Syrrhodon tosaensis* Card. 蘚類 カタシロゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	---	---	-------------

選定理由

山地の樹幹基部や岩上に灰緑色の群落を形成する小形の蘚類である。茎は10 mmほどで、葉は乾燥してもあまり縮れない。葉は披針形で、2~3細胞列の透明な脈があり、先端を除き全縁である。中肋は葉先に達し、葉先の背面には大きな鋭い刺が集まってつく特徴がある。葉身細胞は四角形から六角形で薄壁、高くて先端がいくつかに分かれたパピラがある。また、葉先には紡錘形の無性芽が集まってつくことが多く、野外では葉の先端が丸く見える。



国のカテゴリーでは絶滅危惧Ⅱ類 (VU) であるが、和歌山県内では比較的産地が多く、危険度は少ないのではないかとみられる。しかし、森林伐採等で直ぐに状況は悪化するので注視する必要がある。無性芽による繁殖が多いとされるが、胞子体が大塔山系の渓谷で近年記録されていて貴重である。

執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 土永浩史. 2008. 紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種. 南紀生物, 50 (1) : 6-14.
- 2 土永浩史. 2018. 広瀬谷 (すさみ町) で観察されたイサワゴケ. くろしお, (37) : 52.
- 3 樋口正信・土永浩史・山本誠二. 2007. 和歌山県大塔山系のイサワゴケとカトウゴケ. 蘚苔類研究, 9 (7) : 234-235.
- 4 Noguchi, A. 1988. Illustrated moss flora of Japan Part 2. 243-491. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 5 太田耕二郎. 1975. 大塔山系の蘚苔目録. 23pp. (自費出版)
写真: 土永浩史撮影

イチヨウウキゴケ *Ricciocarpos natans* (L.) Corda 苔類 ウキゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	---	---	------------

選定理由

水田や池の水面に浮かび、水がなくなってもその土上に生育するユニークな苔類である。葉状体は濃い緑色で、秋から冬には赤紫色を帯び、長さ1~1.5 cmで二叉状に分枝し、真にイチヨウの葉に似た形となる。気室は数層、気室孔は小さく単純である。腹鱗片は多数つき、リボン状をなし紫色で、縁に微鋸歯がある。



近年増加している放棄水田で見られることもあるが、毎年継続して生育しているとは限らない。生育地は多くはないが、条件が良ければ、水面を広く埋め尽くすこともある。平地に多いので、容易に宅地等の開発により、急に姿を消してしまうこともある。水面に浮遊する生態をもつので、注目していく必要がある。

執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45) : 24-37.
- 2 土永浩史・山本誠二. 2008. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類V. 南紀生物, 50 (2) : 222-226.
- 3 土永浩史・山本誠二. 2020. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類VI. 南紀生物, 62 (1) : 40-44.
写真: 土永浩史撮影

オヤコゴケ *Schistochilopsis cornuta* (Steph.) Konstant. 苔類 ヒシャクゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

山地の腐木上や岩上に黄緑色の小さな群落を形成する。茎は匍い約 10 mm で、葉はゆるく重なる。葉は不等に 2 裂し、2 つに折れキールに翼がある。背側の裂片は小さく不定形、1~2 個の歯があり、腹側の裂片は舌形で鋭頭、数個の歯がある。葉身細胞は薄壁で、トリゴンはないか小さい。腹葉はない。油体は球形で、30~60 個ある。卵形から多角形の無性芽が葉先につく。



ブナ帯以上の山地に見られる本種は、本県では稀な存在である。野外でも大きな群落は形成しないので、見過ごされている可能性はある。今後も注視していくことが必要である。

執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 土永浩史. 1990. 照葉樹林にフウリンゴケ見つかる. 植物地理・分類研究, 38 (1): 21.
- 2 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 3 Kitagawa, N. 1965. A revision of the family Lophoziaceae of Japan and its adjacent regions. I. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (28): 239-291.
- 4 北川尚史. 1971. 大塔山系の注目すべき苔類. 大塔山系の自然Ⅱ: 7-8.
写真: 土永浩史撮影

ヒカゲノカズラモドキ *Aerobryopsis parisii* (Card.) Broth. 蘚類 ハイヒモゴケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-----------	----	------	---	---	-------------

森林内や溪流沿いの樹幹や灌木の枝から下垂する大形の蘚類である。植物体は柔らかく黄緑色だが、古い下部は黒褐色になる。同属のミズスギモドキの葉が横に広がるのに対して、本種は茎や枝に弱く圧着する。また葉は卵形で葉先が短く尖るのに対して、本種は狭卵形で葉先が長く曲がりくねり、強くしわ寄る。葉身細胞は長い菱形で 1 個のパピラがある。中肋は 1 本で上部まで達する。

熱帯地域に分布の中心をおく本種は、紀南の大塔山系でも記録されているが、分布の北限域にあたり、貴重な存在である。紀伊半島にも広く分布しているミズスギモドキとして同定されている標本の中に本種が含まれている可能性もあり、見直す作業が必要であるとともに、新たな生育地の調査も急がれる。

執筆者 (土永浩史)

参考文献
・情報

- 1 岩月善之助 編. 2001. 日本の野生植物 コケ. 355pp. 平凡社, 東京.
- 2 Noguchi, A. 1989. Illustrated moss flora of Japan Part 3. 493-742. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
- 3 立石幸敏・木口博史・芦田喜治. 2011. 大塔山系 (和歌山県田辺市) の蘚類. 岡山コケの会ニュース, (31): 12-18.

タチハイゴケ *Pleurozium schreberi* (Brid.) Mitt. 蘚類 イワダレゴケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

選定理由 亜高山の針葉樹林の林床に大きな群落を形成する蘚類である。葉は黄緑色で、茎は赤っぽく、やや羽状に分枝する。岩上や地上、腐木上等を被うように生育する。茎葉は卵形から倒卵形で、広い円頭、ときに小さく凸頭状、葉面は凹む。葉先を除き全縁で、中肋は2本で短い。枝葉は茎葉より小さく長卵形、上部の縁が内曲し、折りたたまれ鋭頭に見えることもある。枝葉の葉身細胞は線形で厚壁、表面は平滑である。翼部の細胞は丸みのある方形から長方形で、厚壁で褐色の明瞭な区画をつくる。



本種が生育するには標高は低いが、和歌山県の標高の高い地域にはブナ林が成立しているので、数箇所での記録がある。今後の詳しい調査からその実態が明らかになるだろうが、森林自体を開発から保全しないと、その生育も維持していくことは困難である。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 1990. 照葉樹林にフウリンゴケが見つかる. 植物地理・分類研究, 38 (1) : 21.
- 2 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 3 太田耕二郎. 1988. 和歌山県の蘚類おぼえがき. 13pp. (自費出版)
写真: 土永浩史撮影

ムカシヒシヤクゴケ *Scapania ornithopoides* (With.) Waddell 苔類 ヒシヤクゴケ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-----------	----	------	---	---	-------------

選定理由 山地の湿岩上や腐植土上に生育する苔類で、ヒシヤクゴケ属では7 cmほどの大形の種である。灰緑色から緑褐色の茎葉状で、葉は接在し、基部まで2裂して、キールがないのが特徴である。腹片は卵形で、縁には狭三角形の細胞からなる歯がある。背片は腹片の1/2~3/5の長さで、同様に歯で縁どられる。葉身細胞は薄壁でトリゴンは大きい。

大塔山系の溪谷で記録されているが、他での分布はよく分かっていない。国内では落葉広葉樹林から亜高山の針葉樹林帯に多いとされているが、森林の伐採などの環境変化で、減少傾向にある。今後の調査に期待したい。

執筆者 (土永浩史)

参考文献・情報

- 1 土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 47-63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 2 土永浩史. 2008. 紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種. 南紀生物, 50 (1) : 6-14.
- 3 土永浩史. 2009. 紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, (45) : 24-37.
- 4 岩月善之助 編. 2001. 日本の野生植物 コケ. 355pp. 平凡社, 東京.
- 5 環境省 編. 2015. レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 9 植物Ⅱ (蘚苔類・藻類・地衣類・菌類). 580pp. ぎょうせい, 東京.